

滋賀県版

学級経営スタートブック

(小学校学級活動編)



*この滋賀県版「学級経営スタートブック(小学校学級活動編)」は、平成27年度滋賀県総合教育センター「学級経営に関する研究」に基づいて作成しました。

滋賀県版「学級経営スタートブック(小学校学級活動編)」 目次

～はじめに～

- 1 なぜ、今『学級経営スタートブック(小学校学級活動編)』が必要か . . . i
- 2 『学級経営スタートブック(小学校学級活動編)』で大切にしている考え方 . . . iii
- 3 『学級経営スタートブック(小学校学級活動編)』の効果的な使い方 . . . iv

～第1章～ どのような学級集団を

つくっていくか思い描こう . . . 1

- 1 今、どのような学級集団をつくることを求められているかを知ろう . . . 2

- (1) 今、そしてこれからの社会で生きる子どもたちに求められている力って？
- (2) 学級集団が一人ひとりの子どもにどのような影響を与えるか

- 2 学級集団づくりに役立つ学級活動 . . . 6

- (1) 学級活動って、どんな活動なの？
- (2) 学級活動を充実させると、どんなよいことがあるの？

- 3 学級経営、学級活動について先輩教員に聞きました！
「初任者のとき、どうでした？」 . . . 10

- (1) 初任1年間の学級経営を見通そう
- (2) 先輩教員が学級活動で困ったり悩んだりしたこと

- 4 学級活動の基本を知ろう . . . 15

- (1) 学級活動で、どのようなことを指導するの？
- (2) 「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」ってなあに？
- (3) 「学級活動(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」ってなあに？
- (4) 子どもの発達の特徴に合わせて計画的に指導しよう



～第2章～ さあ、学級活動で子どもが互いのよさを 認め、伸ばしあえる学級集団をつくろう

・・・ 35

1 「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」に取り組もう ・・・ 39

学級会オリエンテーションをしよう ・・・ 39

- (1) 4月、学級会をする前に子どもたちに伝えておきたいこと

学級会を開く準備をしよう ・・・ 43

- (2) 子どもたちに「学級をよりよくする種」を見つける目を育てよう
 (3) 「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう
 (4) 計画委員会で学級会の活動計画を立てよう
 (5) 学級の子どもたちの問題意識を高めよう

学級会を開こう ・・・ 61

- (6) 学級活動(1)の実践！学級会の話し合いを進め、
 「学級をよりよくする種」を育てよう
 ア 子ども一人ひとりが考えを出し合えるようにしよう
 イ 出された考えを比べ合い、互いの考えを理解し合えるようにしよう
 ウ 「わたしたち視点」で学級としての意見を集団決定しよう

学級会で集団決定したことに基づき、事後の活動をしよう ・・・ 73

- (7) 事後指導！学級で集団決定したことを、学級のみんなで取り組み、
 「学級をよりよくする花」を咲かせよう

2 「学級活動(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」に取り組もう ・・・ 79

学級活動(2)の準備をしよう ・・・ 79

- (1) 学校の年間指導計画を基に、学級の児童の実態に合った指導をしよう
 (2) 問題を「自分ごと」としてとらえられるように事前指導しよう

学級活動(2)で話し合おう ・・・ 87

- (3) 学級活動(2)の実践！子どもが自分に合ったためあてを
 自己決定できるような指導をしよう
 ア 子どもが課題をつかめるようにしよう
 イ 問題の原因について話し合い、子どもが問題の
 改善の必要性を感じられるようにしよう
 ウ 子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしよう
 エ 話し合って見つけた解決方法に沿って、子どもが
 個人目標を決められるようにしよう

自分が決めた目標実現に向けて取り組めるようにしよう ・・・ 103

- (4) 事後指導！子どもが自分の目標を実現できるように支援しよう

～あとがきにかえて～

(先輩教員からのメッセージ)

・・・ 108

～資料～

- 1 アンケート調査について
 2 参考文献と資料

・・・ 110

本冊子の中には、

チャレンジシート

チャレンジシート 記入例

近江発! 先輩の声

先輩の先生の取組や話をまとめておこう

アンケート調査より

の項目を配置しています。



チャレンジシート

チャレンジシート 記入例

近江発! 先輩の声

先輩の先生の取組や話をまとめておこう

第2章の、目次に挙げた取組ごとに配置しています。

- ・学級会を開く準備について …… 59
- ・学級会での話し合い、集団決定の実践 …… 77
- ・学級活動(2)の実践 …… 107

アンケート調査より

～はじめに～

- 1 初任者のとき、学級経営で困ったり悩んだりしたこと …… i
- 2 初任者のとき、学級活動を進めるときにあればよかったと思う情報 …… ii

第1章

- 3 初任1年間の月別の学級集団のまとまりの変化について感じていたこと …… 10
- 4 初任1年間の月別の学級集団のまとまりの変化について感じていたこと(経験別) …… 11
- 5 学級活動の取組によって、学級経営がうまくいったことがありますか(経験別) …… 12
- 6 学級活動で学級経営がうまくいった先輩が取り組んだこと …… 12
- 7 学級活動で取り組んだこと ～2年目の先生より …… 13
- 8 初任者のとき、学級活動に取り組むときに、困ったり悩んだりしたこと …… 14
- 9 これから学級経営していく後輩へのメッセージ ～2年目の先生より …… 26

第2章

- 10 「子どもたちが学級の仲間と協力して物事をやり遂げ、喜びを感じている!」と感じたエピソード ～2年目の先生より …… 60
- 11 「学級経営で大切にしたいキーワード」 ～2年目の先生より …… 78



～はじめに～

1 なぜ、今『学級経営スタートブック(小学校学級活動編)』が必要か

皆さんは、4月に着任してから、子どもたちとどのように過ごしておられますか。子どもたちのよりよい成長を願い、学習や生活などの指導をし、子どもの成長を感じたときには、大きなやりがいを感じておられることでしょうか。ときには思いが伝わらずに悩んだりすることもあるでしょう。しかし、直面した困難を子どもと共に乗り越えていくことで大きな喜びを味わい、自分自身も大きく成長できるのが、教員の仕事の大きな魅力です。

小学校は、学級担任制です。子どもたちは同じ教室で、同じ仲間と、同じ教員と毎日過ごします。つまり、同じ環境の中で学校生活を過ごすのです。どのような環境で学校生活を過ごすかが、子どもたちのよりよい成長に大きく影響するのです。

例えば、こんな場面に出会ったことはありませんか。



いかがでしょうか。「ルールのこと」「子どもの人間関係」に関する事で、頭を悩ませたことはありませんか。先輩教員が初任者のときも、このことで悩んだ人が多いようです。

アンケート調査より 1

先輩教員に聞きました!

初任者のとき、学級経営で困ったり悩んだりしたこと

第1位
84%

「学習ルールや生活の規律づくりに関する内容」

学級のルールづくりの仕方は?



子どもたちがルールを守れるようにするには?

第2位
83%

「子ども同士の人間関係の育成に関する内容」

子ども同士が仲よく過ごせるようにするには?



学級をよりよい人間関係のある集団にするには?

<平成26年度教職2年次研修受講者(平成25年度の初任者)及び、平成26年度初任者研修受講者へのアンケート調査より>

※アンケート調査実施の詳細については、巻末資料

先輩教員の8割以上が学級経営で困ったり悩んだりした「ルールのこと」「子どもの人間関係」のことに、あなたはどのように対応していますか。ルールのことには多くの子どもに関わることが多いですし、子どもの人間関係は個別に指導していくことも大切ですが、学級全体に話をしていくことも大切です。

そんなとき、ぜひ取り組んでもらいたいのが、特別活動です。特別活動には、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事があります。この中で、学級を中心にして、子どもによるよりよい生活づくりや人間関係づくり、日常の生活や学習への適応などを扱うのが学級活動です。学級活動は、子どもの学級での生活に関わる問題を取り上げるため、他教科等のような教科書、副読本がありません。そこで、先輩教員が初任者のとき、学級活動を進めるにあたって、どのような「困り感」を持っていたか教えてもらいました。

アンケート調査より 2

初任者のとき、学級活動を進めるときに

あればよかったと思う情報

• 学級活動ってどんな活動？

→第1章-2 (P.6)へ

• 学級活動で指導することは？

→第1章-4 (P.15)へ

• 学級活動の基本的な考え方は？

→第1章-4 (P.15)へ

• 学級会での話合いや集会活動の指導って？

→第2章-1 (P.39)へ

• 学級活動で子どもの学校生活についてどのように指導するの？

→第2章-2 (P.79)へ



〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

本冊子は滋賀県総合教育センターにおける教職2年次研修の受講者を対象に、初任者であった前年度の学級経営に関するアンケート調査を行い、その結果をもとに初任者のニーズに応じた項目を中心にまとめています。

2 『学級経営スタートブック(小学校学級活動編)』で大切にしている考え方



滋賀県版 学級経営スタートブック (小学校学級活動編)

一人ひとりの子どもが互いのよさや可能性を發揮し、よりよく成長できる学級集団づくり

ひ
ビジョンを持ち

わ
わたしたちのこと
として考えて

こ
行動できる
子ども

本冊子はよりよい学級経営のために必要な学級集団づくりを、学級活動を中心にして行っていくことを柱として構成しています。目指すのは、「一人ひとりの子どもが互いのよさや可能性を發揮し、よりよく成長できる学級集団」です。そんな学級集団の中で育てたい「湖国の子ども」の姿を、三つのキーワードで表現しました。

ひ
ビジョンを持ち

ここでいう「ビジョン」とは、自分たちの学級や学校の生活をよりよくするための考えのことです。そのためには、自分たちの生活の問題に気づき、「こんな風になりたい!」という思いや願い、考えを持てる子どもを育てていきたいものです。

わ
わたしたちのこと
として考えて

自分の学級や学校、生活上の問題を、他人事ではなく、自分たちのこととしてとらえて考えられる子どもを育てましょう。このことは、学級活動の話合いで、大切にしたい視点です。

気を付けたいのは、集団の問題について扱う場合、自分の考えに固執するのではなく、集団の一員として「自分もよくてみんなもよい」ように考えられるようにすることです。

こ
行動できる
子ども

「なすことによって学ぶ」。行動することで得られる学びがあります。学級活動で集団決定したことや自己決定したことを実践できる子どもを育てましょう。子ども自ら生活や学びをつくり、よいものにしていくためには、行動することが大切です。

3 『学級経営スタートブック(小学校学級活動編)』の 効果的な使い方

本冊子は、よりよい学級経営のために必要な学級集団づくりについて、学級活動を中核に据えて、その考え方、進め方について紹介しています。初任者のニーズに応じた内容になっており、具体的なイメージが持ちやすくなるように、取組の具体例も掲載しています。

第1章「どのような学級集団をつくっていくか思い描こう(理論編)」では、主に学級集団づくりの基本的な考え方を知ることが目的とし、今どのような学級集団づくりが求められているか、学級活動の基本について学べる内容としました。第2章「さあ、学級活動で子どもが互いのよさを認め、伸ばしあえる学級集団をつくろう(実践編)」では、主に学級活動の実践に関する内容としました。

各ページの上部には、章と項、内容のガイドラインをつけました。これは「～はじめに～」で紹介したアンケート調査の内容と対応しています。知りたい情報から読むのもよいでしょう。

本文に加え、次のようなものを用意しました。

アンケート調査より

近江発! 先輩の声

アンケート調査や、先輩の経験を基にした現場の声です。本文に合わせて配置してありますが、「アンケート調査より」や「近江発!先輩の声」だけを選択して読み進め、現場のイメージをつかむのもよいでしょう。

チャレンジシート

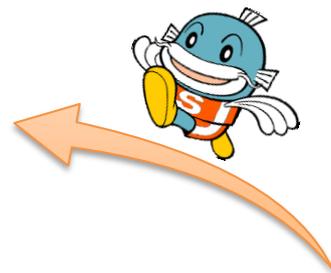
チャレンジシート 記入例

第2章では、学級の状況に合わせた実践ができるように、「チャレンジシート」を用意しました。学級活動は、子どもの学級での生活に関わる問題を取り上げるため、本冊子で紹介する内容を学級の状況に合わせて考え直す必要があります。そこで自ら考え実践し、振り返ることで、あなたの学びが深まっていくはずです。「チャレンジシート」には記入例を付けました。これは、一つの例であり、答え合わせのための解答ではありません。記入例を参考にして自分の学級の様子に合わせて事前に考えたことを書いたり、取り組んでいるときの子どもの発言をメモしたり、実践後に振り返って考えたことをまとめたりしていきましょう。

内容について別ページに詳しく掲載がある場合には、そのページを示し、参考資料も紹介しています。興味があるものについては、読んでみるとよいでしょう。

このスタートブック(小学校学級活動編)に、あなたが考えたことや取り組んだことをどんどん書き込んでいきましょう。自分の教師としての足跡が記された、「**自分だけの一冊**」が出来上がります。初任者のときだけでなく、2年目、3年目と継続して使用することで、自分の実践を振り返る材料とすることができるとともに、自らの成長が実感できます。

本冊子が学び続ける教員としてのあなたを支え、よりよい学級経営を支える一助となれば幸いです。



第1章

どのような学級集団をつくっていくか思い描こう

学級活動は…

道徳教育の充実
に役立ちます

よりよい学級集団づくり
に役立ち、
学級経営の充実
につながります

生徒指導
に役立ちます

いじめの未然防止
に役立ちます

自己有用感を育むこと
につながります

評価の工夫
で
学級や学校の
生活がさらに充実
します

学力向上
につながります

学級活動に取り組み、「一人ひとりの子ども
が互いのよさや可能性を發揮し、よりよく成
長できる学級集団」をつくりましょう！

～第1章～ どのような学級集団をつくっていくか思い描こう

第1章では、今、どのような学級集団づくりが求められているか、学級活動の基本について学び、どのような学級集団をつくっていくかをイメージしましょう。



1 今、どのような学級集団をつくることを求められているかを知ろう

(1) 今、そしてこれからの社会で生きる子どもたちに求められている力って？

わたしたちが生きる21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代だと言われています。知識・情報・技術の進歩はめまぐるしく、今あるものは、どんどん新しいものに刷新されていきます。また、少子高齢化やグローバル化の進展などの社会的変化が激しく、今までわたしたちが経験してこなかったような未知の課題が、次々に出てきています。

アメリカでは、次のような予測が発表され、大きな話題になりました。

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」

〈アメリカ・デューク大学教授 キャンシー・デビッドソン氏(2011年)〉

65%という数字は、アメリカを対象とした予測ですが、日本でも、これが重要だからこれを教え込むということでは、子どもたちが大人になったときに対応できない社会になっている可能性があります。そこで、今、そしてこれからの社会で生きる子どもたちに必要な力として、次のようなことが示されました。

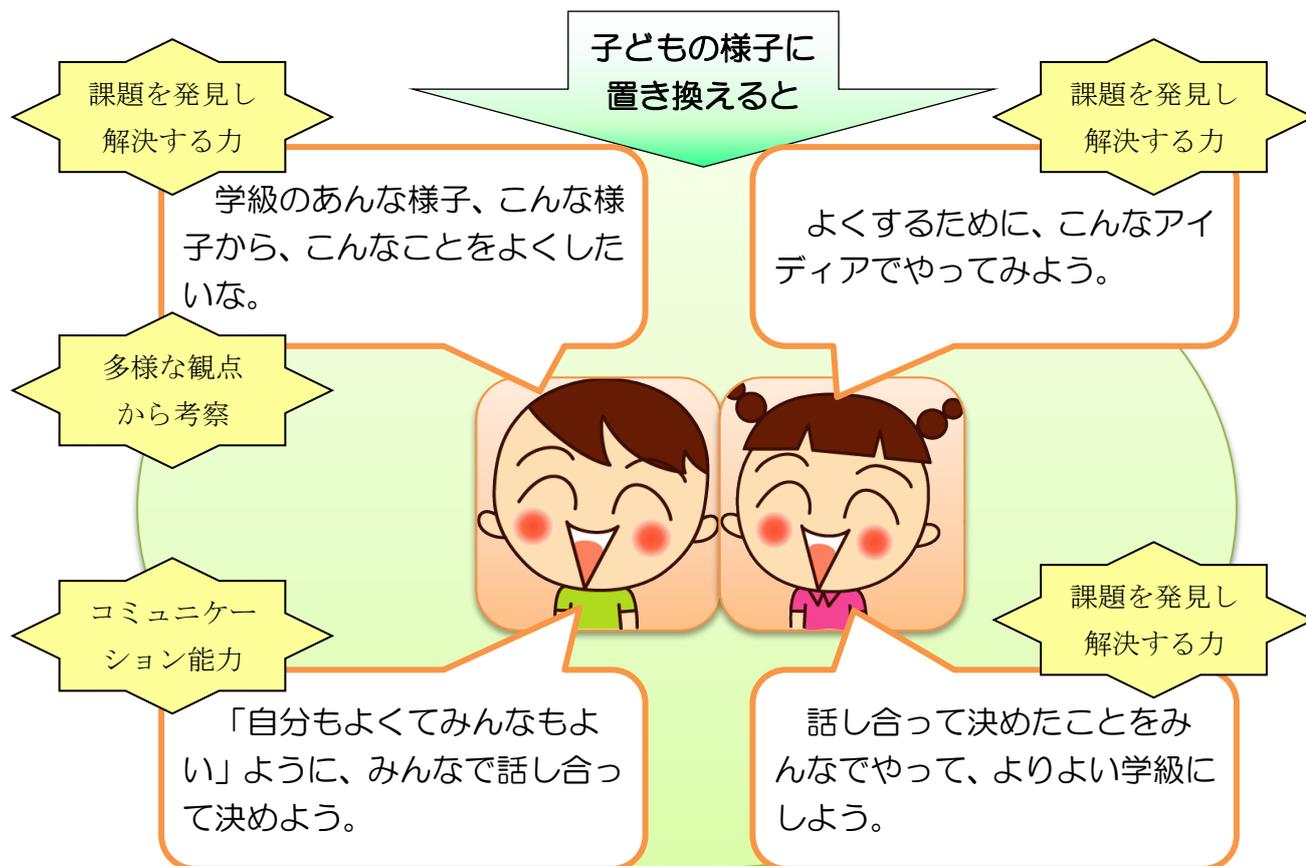
自ら課題を発見し
解決する力

他者と協働するための
コミュニケーション
能力

物事を多様な観点
から論理的に
考察する力

〈「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月閣議決定)より〉

※教育振興基本計画とは、教育基本法第17条第1項に基づき政府が策定する、教育の振興に関する総合計画のことです。



上記の力は、学校の教育活動全体で付けていく力です。各教科等でも、上記の力を付けるための授業改善が進められています。しかし、各教科等の取組だけでなく、子どもたちの学校生活の中でも、上記の力を付けていかなければなりません。学級を中心にして、子どもによるよりよい生活づくりや人間関係づくり、日常の生活や学習への適応などを扱う学級活動は、子どもたちの学校生活の問題を直接取り上げ、上記の力を付けていくのに有効です。そしてそのことは、よりよい学級経営につながります。

以上のことを踏まえ、本冊子では、よりよい学級経営のために必要な学級集団づくりを通して育てたい「湖国の子ども」の姿を、三つのキーワードで表現しています(くわしくは、～はじめに～ p.iii参照)。

び
ビジョンを持ち

わ
わたしたちのこと
として考えて

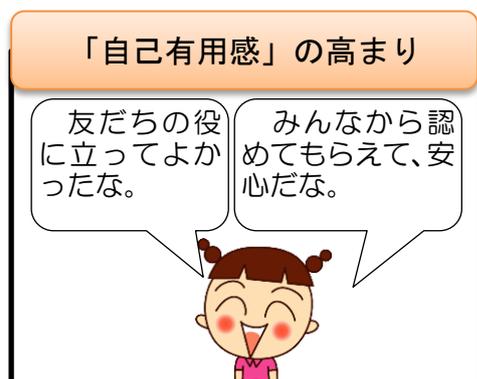
こ
行動できる
子ども

(2) 学級集団が一人ひとりの子どもにどのような影響を与えるか

ある学級に、うまくいかないことがあって悲しい気持ちの男の子がいたとします。そんなとき、周りの友だちの関わりに㊤、㊥のような違いがあれば、男の子の気持ちの変化に大きな違いが出るのが、経験から想像できるでしょう。



㊤の学級集団で過ごした方が、子どもたちが生き生きとした学校生活を過ごせると、容易に想像できます。小学校では、子どもは同じ学級の仲間と学校生活の大半の時間を過ごします。㊤のように互いに認め伸ばしあう仲間と過ごすことができれば、子どもは前向きな気持ちで活動に取り組むことができます。



㊤のような互いに認め伸ばしあう学級集団の中では、子どもの心が育ちます。例えば、友だちのことを考えて行動することで、仲間から認められ、集団の役に立っているという感情、「自己有用感」が育まれます。

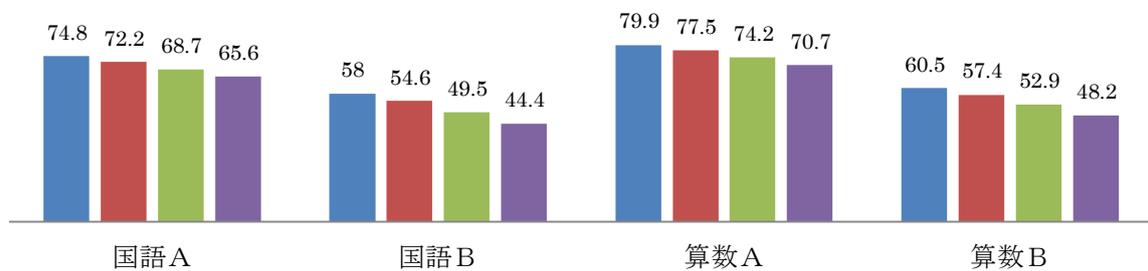
また、互いに認め伸ばしあう学級集団では、子どもの「学ぶ力」が高まり、確かな学力を育てることができます。

学校の楽しさ、学級の仲間と協力してやり遂げる喜びを感じている児童の方が、教科での平均正答率が高い傾向にある。

〈平成26年度全国学力・学習状況調査(質問紙調査)より〉

学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか(平均正答率、数字は%)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



全国学力・学習状況調査の結果からも、よりよい学級集団の中で過ごす、学習面においてもよい影響があることが分かります。

また、小学校学習指導要領では、次のように学級経営の充実の必要性を明記しています。

日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること。

〈小学校学習指導要領(平成20年3月告示)より〉

ここでは、「学級経営の充実」と「教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係」のことが記されていて、この二つに大きな関連があることが分かります。「教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係」を育てることは、よりよい学級集団づくりをすることにつながります。

先ほど、学級集団が一人ひとりの子どもに与える影響について述べました。互いに影響を与え合う学級集団の中で、好ましい人間関係が育っていることが、学級経営の充実や、子ども一人ひとりのよりよい成長につながっていくのです。

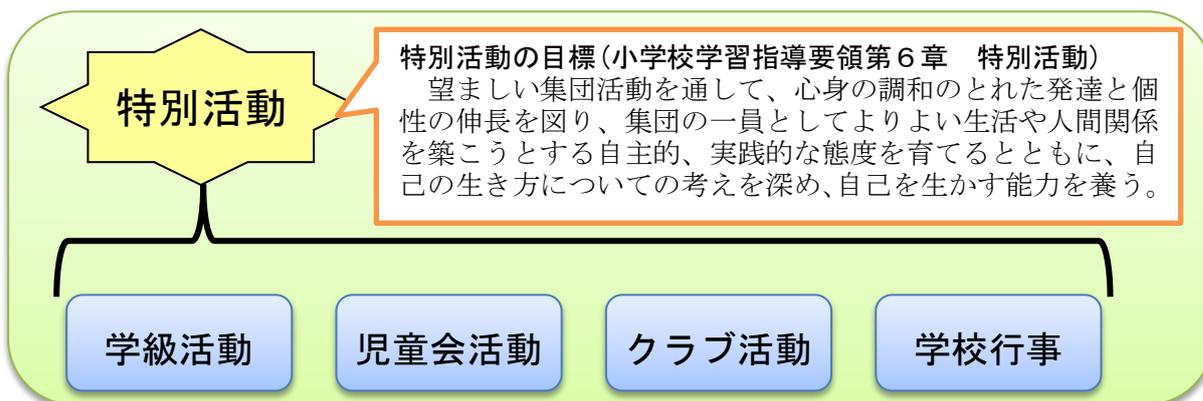
それでは、学級活動を中核にした学級集団づくりに、どのように取り組んでいけばよいのでしょうか。このことについて、2 学級集団づくりに役立つ学級活動で述べていきます。

2 学級集団づくりに役立つ学級活動

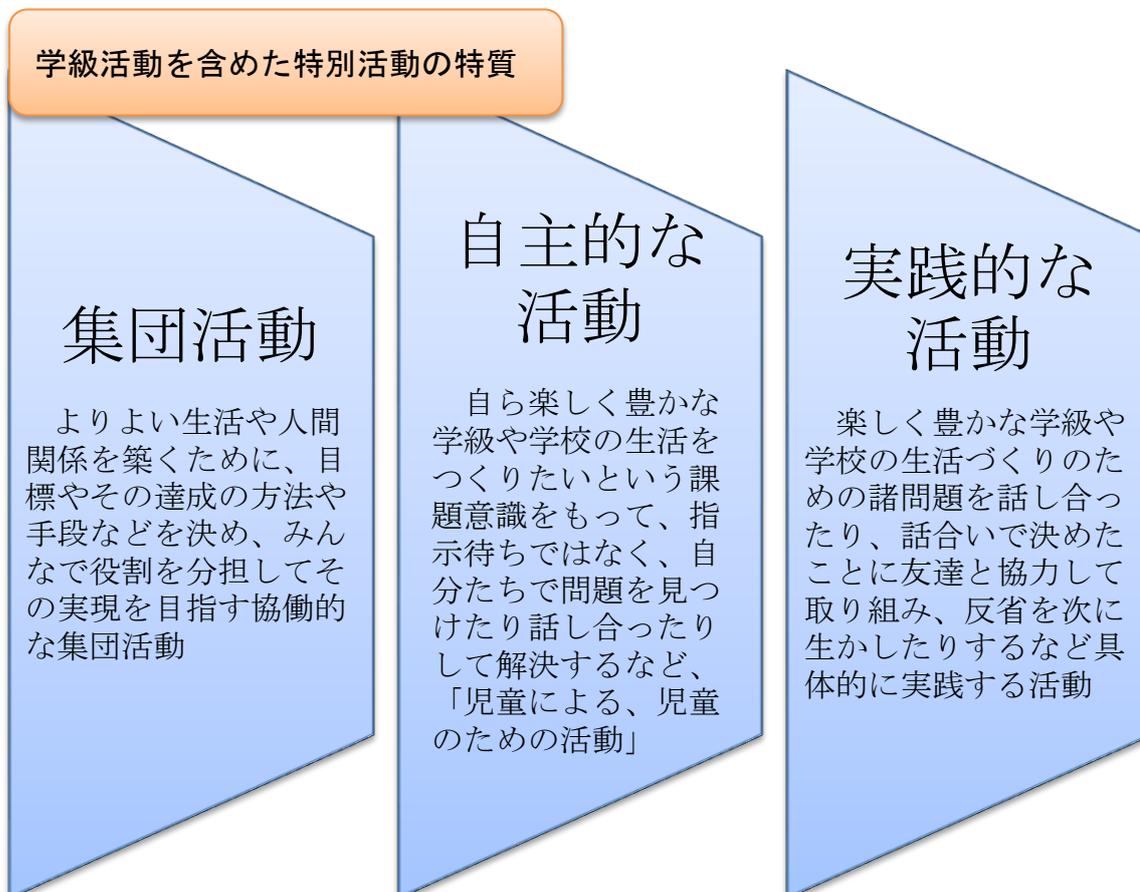


(1) 学級活動って、どんな活動なの？

学級活動は、教育課程では、「特別活動」の中に位置付けられています。



学級活動を含めた特別活動は、次のような特質を持っています。



＜「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成26年、国立教育政策研究所)より＞

特別活動は、「集団活動」「自主的な活動」「実践的な活動」を特質とした活動です。この三つの特質を踏まえた活動を通して、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度や、集団の中で自己を生かす能力を育てていきます。

学級を中心にした取組を展開する学級活動

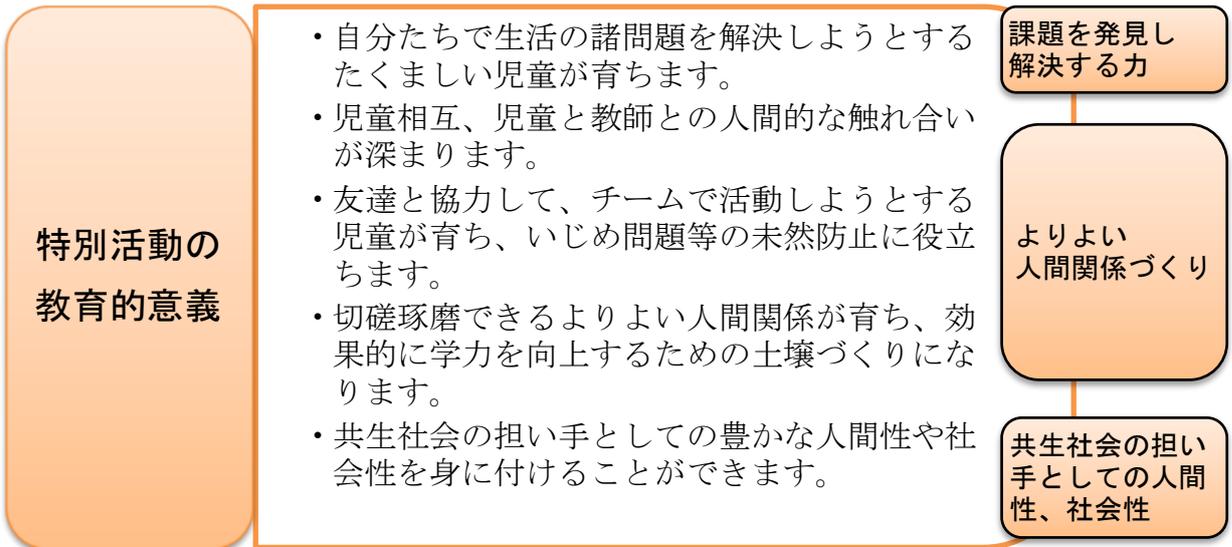
特別活動の中で、特に学級を中心にした取組を展開するのが、学級活動です。学級活動では、子どもによるよりよい生活づくりや人間関係づくり、日常の生活や学習への適応などを扱います。子どもたちにとって、自分の学級の生活につながる身近なテーマを扱うので、「わたしたちのこと」としてとらえやすいのが学級活動の大きな特徴です。



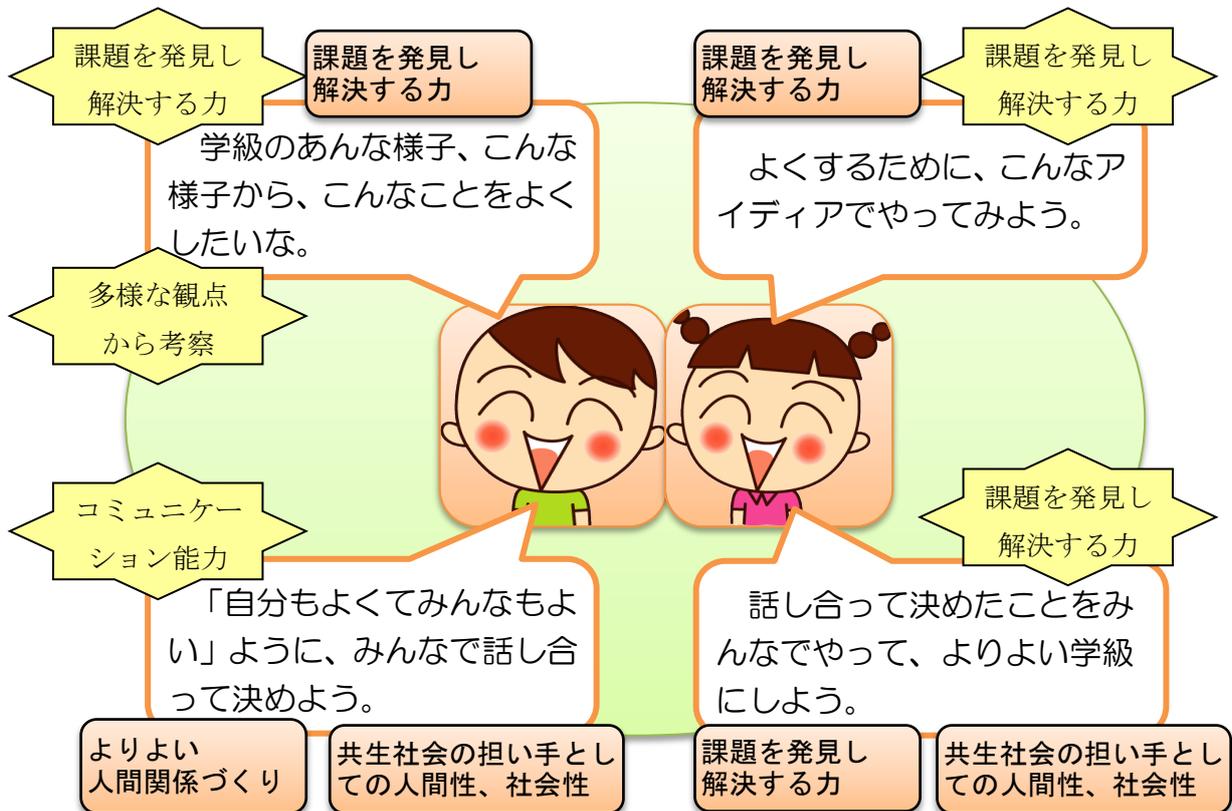
なお、学習指導要領では、特別活動の目標の中に「望ましい集団活動を通して」と書かれています。この集団活動は、図に示した3点をふまえたものです。これらを意識して集団活動を展開することが大切です。

(2) 学級活動を充実させると、どんなよいことがあるの？

国立教育政策研究所の「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(H26)には、特別活動の教育的意義が次のように示されています。この教育的意義は、特別活動を充実させることによって、子どもに身に付けさせることができる力だといえます。もちろん、このことは学級活動でも期待できることです。



この教育的意義は、3ページで紹介した、今、そしてこれからの社会で生きる子どもたちに必要な力に、以下のようにつながっています。



図のように、特別活動を充実させることで、今、そしてこれからの社会で生きるのに必要な力を、子どもたちに付けることができます。とりわけ、よりよい学級経営を行うには、学級活動を充実させることが大切です。その他、学級活動の充実は次のようなことにも役立ちます。

道徳教育の充実に役立ちます

集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする集団活動や体験活動は、道徳的実践の指導を充実する重要な場や機会になります。

よりよい学級集団づくりに役立ち、学級経営の充実につながります

子どもが学級生活をよりよくしようと、友だちと協力して取り組むことで、学級のいろいろな問題を自主的に解決しようとする実践的態度が身に付きます。そのことが学級集団づくりに役立ちます。

生徒指導に役立ちます

学級活動で取り組む、自己実現につながる個人目標の「自己決定」、他者から認められ、集団の役に立っているという「自己有用感」、人間的なふれあいを基盤にした「共感的な人間関係」づくりは、生徒指導においても重要な取組です。

生徒指導提要(H22、文部科学省)には、「学級活動などの特別活動は、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う場であり、生徒指導のための中核的な時間となると考えられます。」と書かれています。

いじめの未然防止に役立ちます

友だちと協力したり助け合ったりする活動を積み重ねることで、子ども同士の心の結び付きを深め、いじめの未然防止につながります。

生徒指導提要(H22、文部科学省)には、「いじめは対人関係における問題であるという視点に立ち、生徒指導はもとより、特別活動などの体験学習などを通じて、児童生徒同士の心の結び付きを深め、社会性をはぐくむ教育活動を進める必要があります。」と書かれています。



自己有用感を育むことにつながります

学級集団の一員として、友だちと協力して取り組む活動を通して、「自分自身の持ち味やよいところ」「仲間から必要とされていること」「自分も役に立っていること」を実感し、自己有用感が高まります。

評価の工夫で学級や学校の生活がさらに充実します

今日、いじめや不登校などの課題を未然に防ぐためにも、個の変容とともに集団の変容についても客観的に評価することが一層求められています。学級活動を通じた個と集団それぞれの変容を見取って評価し、その後の指導に生かすことで、一人ひとりの子どもが生き生きと過ごす学級づくりを、さらに進めることができます。

学力向上につながります

学級生活をよりよくするための、子どもによる自発的、自治的なよりよい生活づくり、人間的なふれあいを基盤にした取組は、学びに向かう集団づくりを進め、学力向上につながります。



3 学級経営、学級活動について先輩教員に聞きました！ 「初任者のとき、どうでした？」

初任者の時代は、誰にでもあるものです。あなたが在籍している学校の校長先生、教頭先生、学年主任の先生など、身の周りの先生方みんなが、初任者時代を経て、そこから何年も経験を積み重ねて、現在に至っているのです。先輩教員が初任者のとき、学級経営、学級活動についてどのように感じ、どのように考えていたのかを知るために、2年目の先生に、初任者のときのことを振り返ってもらいました。

(1) 初任1年間の学級経営を見通そう

アンケート調査より 3

初任1年間の月別の学級集団のまとまりの 変化について感じていたこと



4：まとまりを感じた 3：ややまとまりを感じた
2：ややまとまりのなさを感じた 1：まとまりのなさを感じた
※8月は夏休みに子どもと関わる機会があった58人の先生が回答

〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

【学級集団のまとまりのプラス変化の理由】

学校行事
目標に向けて子どもが活動した！



学級会
集会活動、それに向けた話合いや、学級の問題について話し合うことが効果的だった！

【学級集団のまとまりのマイナス変化の理由】

中だるみ
子どもが学級に慣れて緊張感がなくなった…

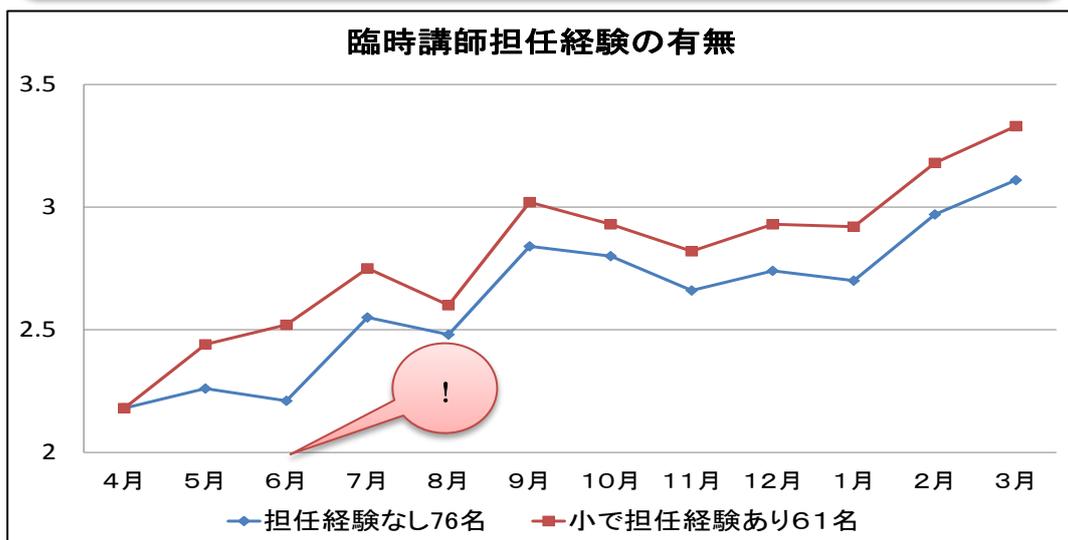


学校行事後
行事が終わったら、学校生活に大きな目標がなくなった…

先輩教員が初任者のときには、6月、11月に学級のまとまりの落ち込みや停滞を感じる人が多かったようです。6月は子どもが新しい学級に慣れてきて緊張感が薄れることや学校行事が少ないこと、11月は運動会などの大きな学校行事が終わった時期であることが大きな理由だと考えられます。また、同じ初任者でも、採用される前に小学校で臨時講師として担任経験があった先輩と、そうでない先輩がいます。採用される前の経験別に、月別のまとまりについて感じていたことをまとめ直してみました。

アンケート調査より 4

初任1年間の月別の学級集団のまとまりの変化について感じていたこと(経験別)



4：まとまりを感じた 3：ややまとまりを感じた
2：ややまとまりのなさを感じた 1：まとまりのなさを感じた
※8月は夏休みに子どもと関わる機会があった58人の先生が回答

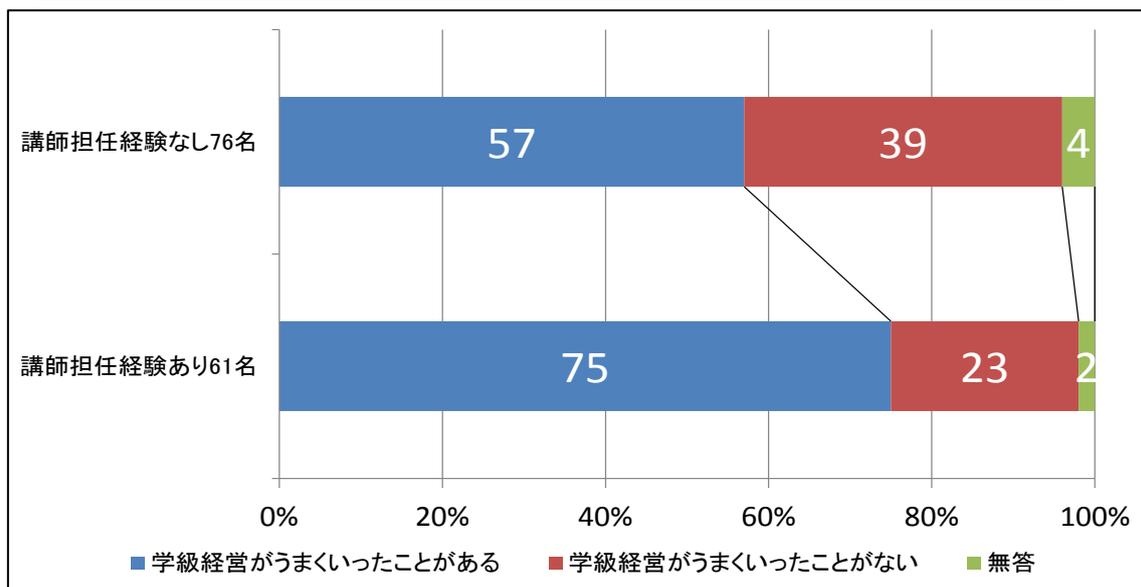
〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

第1章-3 学級経営、学級活動について先輩教員に聞きました！
「初任のとき、どうでした？」

採用前に臨時講師として担任経験があった先輩は、担任経験がなかった先輩よりも、1年を通じて学級集団のまとまりを感じていたようです。また、担任経験がなかった先輩は6月に落ち込みを感じていたのに対し、担任経験があった先輩はゆるやかに上昇していることが分かります。担任経験があった先輩がどのように学級経営していったのか、学級活動の取組に注目しました。

アンケート調査より 5

学級活動の取組によって、学級経営が
うまくいったことがありますか(経験別)



〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

採用前に担任経験があった先輩は、その経験を生かして、学級活動をうまく取り入れて学級経営をしていることが分かります。どうやら、担任経験があった先輩の多くが学級集団をまとめていった秘密の一つに、学級活動がありそうです。では、学級活動で学級経営がうまくいった先輩は、どのようなことに取り組んだのでしょうか。

アンケート調査より 6

学級活動で学級経営がうまくいった
先輩が取り組んだこと



〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

第1位の「学級活動での話し合い」では、学級の課題解決に向けた話し合い、第2位の「学級活動での集会活動」では、子どもが主体となって取り組んだお楽しみ会などの集会活動の計画、実施を挙げている先輩が多かったようです。先輩の声を紹介します。

アンケート調査より 7

学級活動で取り組んだこと ～2年目の先生より

学級活動での話し合い

○問題が起きた時に話し合いをしました。話し合いの場では、子どもたちがどのように解決したらよいか考えられました。その後もみんなが意識してそのことに取り組むことができ、お互いに声をかけ合う姿が見られるようになりました。

(4年担任・女性)

○こんなクラスにしたいと思うことを出し合い、みんなでがんばりたい目標を決めました。自分たちで決めた目標なので、「みんなで決めたんだから、こうしよう」と子ども同士で声をかけ合うようになりました。

(2年担任・男性)

○クラスの様子から、どうすればルールを守れるか、友だちと仲良く過ごせるかを子どもと一緒に考えてみました。すると、子どもたちから考えられるようになったと感じました。

(1年担任・男性)

学級活動での集会活動

○集会活動に向けての学級会で、子どもに進行をゆだね、あまり口出しせずに見守るようにしました。徐々に、司会グループに協力したり、意見を言っていない友だちが意見を言えるようにしたりするなど、助け合う集団になっていきました。

(4年担任・女性)

○子ども主導の集会活動(計画や進行など)を取り入れることで、子どもたちに集団としての意識や自覚が見られるようになりました。

(3年担任・男性)

○集会活動で、転出する子に喜んでもらえるようにとお楽しみ会をしました。企画から子ども中心で行うことで、学級のきずなの深まりが感じられるようになりました。

(2年担任・女性)

〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

※学年は初任時のもの

アンケート調査からは、学級活動をうまく取り入れた先輩の学級では、課題が見えてきたときに子どもの問題意識を高めて話し合い、決めたことを実践したり、集会活動に子どもが目標を持って自主的に取り組んだりしている様子がうかがえました。

第1章—3 学級経営、学級活動について先輩教員に聞きました！
「初任のとき、どうでした？」

学級活動では、子ども自らが楽しく充実した学級や学校の生活をつくる活動に取り組んだり、みんなで話し合ったことを生かして目標を決め、実行したりします。この学級活動を学級経営に生かし、一人ひとりの子どもが互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長できる学級集団づくりを進めていきましょう。

(2) 先輩教員が学級活動で困ったり悩んだりしたこと

先輩教員が初任者のとき、学級活動に取り組むにあたって、どのようなことで困ったり悩んだりしたのでしょうか。

アンケート調査より 8

初任者のとき、学級活動に取り組むときに、困ったり悩んだりしたこと

第1位
85%

学級活動における児童の自発的、自治的な活動の支援に関する内容

子どもの自発的、自治的な活動を支えるために、どのようなアドバイスをしたらいいの？

一部の意見に流されず、子どもが「自分もよくてみんなもよい」ようにするためには？

第2位
82%

学級活動の基本的な考え方に関する内容

学級活動って、どのようなことをねらいにして行うの？

学級活動って、どんなことをするものなの？

<平成27年度教職2年次研修受講者(平成26年度の初任者)へのアンケート調査より>

※アンケート調査実施の詳細については、巻末資料

アンケート調査から、先輩教員は、学級活動に取り組むにあたって、子どもの自発的、自治的な活動を支援するためにどのように関わっていけばいいのか、また、学級活動の内容やねらいなど、学級活動の基本的な考え方について困ったり悩んだりした人が多いことが分かりました。

それでは、次の4 **学級活動の基本を知ろう**で、学級活動の基本的な考え方を学んでいきましょう。

4 学級活動の基本を知ろう



(1) 学級活動で、どのようなことを指導するの？

学級活動では、学習指導要領の中で、どの学年でも取り扱う内容を〔共通事項〕として、「(1)学級や学校の生活づくり」と「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」の二つを示しています。学級活動(1)、(2)で育てる力は、次の通りです。

学級活動

学級活動の目標(小学校学習指導要領第6章 特別活動)

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

学級活動(1) 学級や学校の生活づくり

子どもが自分たちの学級や学校の生活をより楽しくするために、議題を見つけ、話し合い、協力して実践する自発的、自治的な活動を通して、自治的能力を育みます。

子ども自らが楽しく充実した学級や学校の生活をつくる、「子どもたちによる、子どもたちのための活動」です。

よりよい学級にするためにみんなで話し合い、どのような取組をするかを決め、みんなで実行します。

学級活動(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

子どもが自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるよう生徒指導の機能を生かす展開を工夫することを通して、自己指導能力を育てます。

学習指導要領に示された内容を、教師が意図的、計画的に指導します。その際、子どもがその内容をわたしたちのこととしてとらえられるようにします。

みんなで話し合ったことを生かして自分の目標を決め、自分で実行します。



学級活動(1)、(2)で、どのような内容を取り扱うのか、それぞれの基本的な考え方、活動の流れをくわしく見ていきましょう。

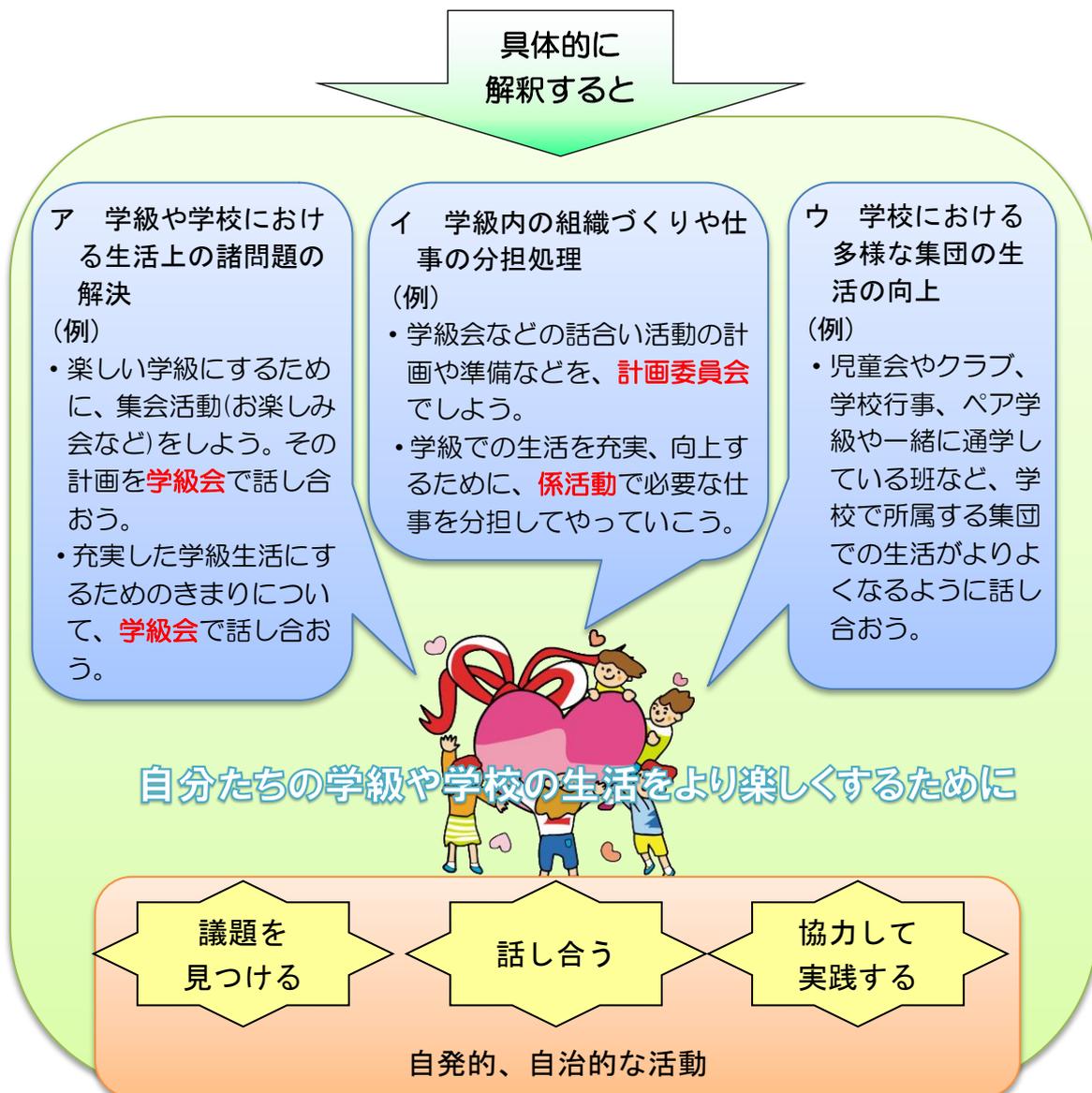
(2)「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」ってなあに？

学級活動(1)で取り扱う内容は、次の三つです。

学級活動(1)
学級や学校の生活づくりの〔共通事項〕

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

ア～ウの事項について、子どもが自分たちの学級や学校の生活をより楽しくするために、議題を見つけ、話し合い、協力して実践する自発的、自治的な活動を行うのが、学級活動(1)です。



「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」の基本的な考え方、活動の流れ

学級活動(1)では、先ほど述べた三つの共通事項を取扱い、自発的、自治的な活動を行います。

自発的、自治的な活動は、特別活動固有の特質であり、なかでも学級活動の、「(1)学級や学校の生活づくり」は、特別活動の中心的な活動である。このことを理解するとともに、特に学級会の指導が充実するように努める必要がある。

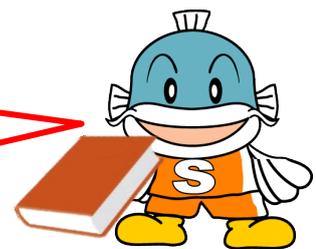
〈小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成20年8月)〉

特別活動の中でも、「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」で行う学級会は、子どもの自発的、自治的活動の中心的活動だと示されています。この活動において、子どもが学級生活をよりよくしようと、友だちと協力して取り組むことで、学級のいろいろな問題を自主的に解決しようとする実践的態度が身に付きます。そのことが、よりよい学級集団づくりに役立ち、学級経営の充実につながります。



学級会って、どんな活動なの？

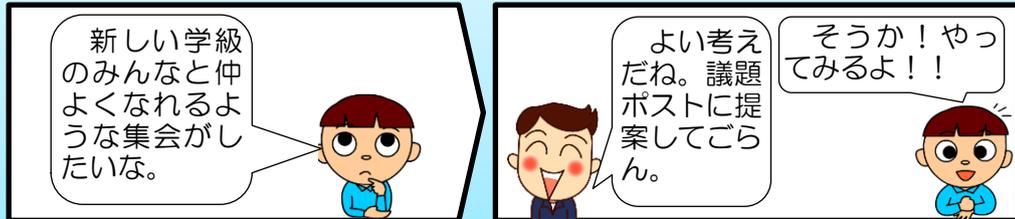
学級会は、自分もよくてみんなもよいと思うことを折り合いを付けて集団決定する集団討議です。



学級会での話し合いを通して、「自分もよくてみんなもよい」という、「私たち」を主語にした集団決定をするためには、子どもに学級の問題を発見する目を養い、学級の子どもみんなにとって必要感のある議題を選定しなければなりません。また、議題について話し合っけて集団決定した後の実践も、とても大切な活動です。問題の発見から実践、活動の振り返りまでの一連の流れを意識して、学級会の指導をしていきます。

学級会までの流れ

- 1 **問題の発見**…子どもが自分たちの生活から問題を見つけられるように、問題を発見する視点を伝え、学校生活の様々な場面から議題が提案されるように環境を整えます。



→くわしくは第2章-1(2) (P.43)へ

- 2 **議題の選定**…集まった議題について、学級生活の充実や向上のために、「全員で話し合うべき問題か」「自分たちで解決できる問題か」などの視点から考えます。提案者の思いや願いを大切にします。

計画委員会で準備



→くわしくは第2章-1(3) (P.47)へ

- 3 **活動計画の作成**…提案者の思いを生かして提案理由を明確化し、「学級会で話し合うこと」(話し合いの柱)を決定します。学級会の役割分担(司会、記録など)を決め、進め方などを確認します。

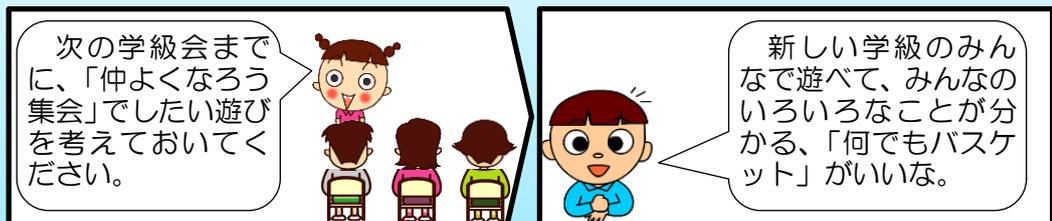
計画委員会で準備



→くわしくは第2章-1(4) (P.51)へ

- 4 **問題の意識化**…学級のみみんなに、学級会までに考えてほしいことなどを伝え、「自分たちの問題だ」という問題意識を高めます。

計画委員会で準備



→くわしくは第2章-1(5) (P.55)へ

学級会の時間の話し合いのステップ「出し合う」「比べ合う」「まとめる(決める)」

話し合い(学級会)

まどめる(決める)⇐比べ合う⇐出し合う

話し合いの柱① 何の種目をするか

話し合いの柱② みんながまとめるための工夫

話し合いの柱③ どんな係が必要か

第6回学級会 議題 学級オリンピックをしよう

てい案理由

運動会や音楽会が終わって、クラスでまとまっていられない感じがしています。だからみんなでアイディアを出し合ってみて、みんなで決める学級オリンピックをしたいと思います。そうすれば、一人ひとりの得意なことを生かしたり協力したりすることができて、クラスがまたまとまってもっと楽しくなると思っています。

★…決定
●…賛成
●…反対

★ フリスビーの当て
★ ホップステップジャンプはとび
★ ぞうきんがけりレレー
★ ミニつなぎ
★ ペットボトルポウリング
★ だんボールだるま落とし
★ とびばこハードル走
★ 長なわ

全部の種目に全員が出場する
開会式で歌を歌う
学級の旗をあげて聖火を点灯する
グループ対こうです
賞状とメダルをわたす

＜「集団活動や体験活動を充実させるための学級活動指導資料」(平成27年、滋賀県教育委員会)より＞

議題の確認や提案理由の説明の後、「話し合うこと」(柱)について、「出し合う」「比べ合う」「まとめる(決める)」の三つのステップで話し合いを進めます。

1 出し合う…提案理由に沿って、子ども一人ひとりが「話し合うこと」(柱)に対する考えを發表します。「賛成」「反対」を述べ合うのではなく、様々な考えを發表できるようにすることが大切です。

話し合いの柱①から話し合います。意見を發表してください。

ぼくは○がよいと思います。理由は…

わたしは□□がよいと思います。理由は…

→くわしくは第2章-1(6)ア(P.61)へ

2 比べ合う…出された意見に賛成意見や反対意見を述べ合い、考えの違いや共通点をはっきりさせて、よりよい取り組み方を探っていきます。提案理由を意識し、各意見を尊重して行うことが大切です。

○○という意見に反対です。理由は…

○○と□□は◇◇のところが同じだね。

提案理由からすると、○○と□□を合わせた意見、☆☆ができます!

→くわしくは第2章-1(6)イ(P.65)へ

3 まとめる…話し合いを収束し、自分もよくてみんなもよいと思うことを、折り合い(決める)を付けて集団決定できるようにします。自分たちが学級会で決めたことは、協力し合って実践することを確認します。

話し合いをまとめます。

☆☆が、みんなにとってよいと思います。

それならほくも賛成!

みんなで決めたことを協力してやっていきましょう!

→くわしくは第2章-1(6)ウ(P.69)へ

学級会で集団決定したことに学級のみんなで協力して取り組む

- 1 話し合ったことの確認…学級会が行われたその日の帰りの会や翌日の朝の会などで、学級会で決まったことを確認します。



→くわしくは第2章-1(7) (P.73)へ

- 2 協力して準備・実践…学級会で話し合い、集会活動などに必要な役割や仕事の分担が決まったら、協力し合って準備・実践します。



→くわしくは第2章-1(7) (P.73)へ

- 3 一連の活動の振り返り…活動後、実践したことや反省すべき点など全体の振り返りを行い、互いのよさやがんばりを認め合います。



→くわしくは第2章-1(7) (P.73)へ

「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」で行う学級会の、問題の発見から実践、活動の振り返りまでの一連の流れを紹介しました。続いて「学級活動(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」について紹介します。

(3)「学級活動(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」ってなあに？

学級活動(2)で取り扱う内容は、次の七つです。

学級活動(2)

日常の生活や学習への適応及び健康安全の〔共通事項〕

- ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- イ 基本的な生活習慣の形成
- ウ 望ましい人間関係の形成
- エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- オ 学校図書館の利用
- カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

ア～キの事項について、子どもが自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるようにして、自己指導能力を育てるのが、学級活動(2)です。七つの共通事項を、各学年においてもれなく扱うようにします。

どんなことに
取り組むかというと

ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
(題材例)

- 低：1ねんせいになって
- 中：楽しいクラブ活動
- 高：もうすぐ中学生

イ 基本的な生活習慣の形成
(題材例)

- 低：がっこうせいかつのきまり
- 中：雨の日の過ごし方
- 高：公共の場所でのマナー

ウ 望ましい人間関係の形成
(題材例)

- 低：みんななかよし
- 中：互いのよさ発見
- 高：男女の協力

エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
(題材例)

- 低：きれいなきょうしつ
- 中：当番の仕事
- 高：委員会活動の役割

オ 学校図書館の利用
(題材例)

- 低：本のかりかた、かえしかた
- 中：図書の整理
- 高：幅広い読書習慣



カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
(題材例)

- 低：じょうすなはみがき
- 中：じょうぶな体
- 高：睡眠の役割とストレス解消

キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
(題材例)

- 低：楽しい給食
- 中：バランスのよい食事
- 高：おやつのとり方

課題をつかみ、
原因をさぐる

解決方法を
話し合い、自己
目標を決める

自己目標に
沿って実践する

自己指導能力を育てる

低は低学年、中は中学年、高は高学年。題材例は、「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成26年、国立教育政策研究所)による

「学級活動(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」
の基本的な考え方、活動の流れ

学級活動(2)では、先ほど述べた七つの共通事項を取扱って行います。この共通事項は学習指導要領に示されているもので、どの子どもにも関わりのある内容です。しかし、ここで気を付けておかないといけないのは、学級活動(1)と学級活動(2)の違いです。

学級活動(1)では、よりよい学級にするためにみんなで話し合い、どのような取組をするかを決め、みんなで実行しました。それに対して学級活動(2)では、学習指導要領に示された七つの共通事項を教師が意図的、計画的に指導します。その内容についてみんなで話し合っただけで考えを深めていきますが、目標を決めて実践するのは個人です。

この内容(筆者注：学級活動(2)のこと)は、日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関するもので、児童に共通した問題であるが、個々に応じて実践されるものである。したがって、児童の共通の問題として取り上げ、協力して実践する「(1)学級や学校の生活づくり」との違いを踏まえて、教師が意図的、計画的に指導する必要がある。

〈小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成20年8月)〉

8ページの本章2-(2)「学級活動を充実させると、どんなよいことがあるの？」で、学級活動の充実は、生徒指導に役立つことに触れました。



「生徒指導」と聞くと、どのようなことを思い浮かべますか。

子どもがいけないことをしたときに対応して、指導するようなイメージがあるけど…



生徒指導に対して、子どもの問題行動に対応し、指導していくようなイメージを持つ人が多いかもしれません。学習指導要領解説特別活動編では、生徒指導がどのようなものなのか、次のように示されています。

生徒指導は、「一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すもの(生徒指導資料第20集)」である。

〈小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成20年8月)〉

ここから、生徒指導というのは、子どもの問題行動に対応して指導するだけでなく、子どもがなりたい自分を目指して自己実現できるように、「自己指導能力」を育てるものだということが分かります。

「自己指導能力」

その時、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力をいう。

〈坂本昇一「生徒指導の機能と方法」、(平成2年)〉

学級活動(2)での取組を通して子どもの自己指導能力を高めることは、子どもの問題行動の未然防止にもつながります。小学校学習指導要領解説特別活動編では、学級活動(2)と生徒指導の関連や自己指導能力の育成について、次のように述べています。

特に、「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の指導は、学級で行う生徒指導の場であることから、「自己の問題の状況を知る」、「解決方法について自己決定する」、「決定に基づき努力をする」という一連の指導過程を重視し、自己指導能力が育成できるようにすることが大切である。

〈小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成20年8月)〉

学級活動(2)は、学級で行う生徒指導の場として機能することを期待されています。学習指導要領に示されたア～キの七つの内容について意図的、計画的に指導し、子どもの自己指導能力を高めていきましょう。各学校で、子どもの実態に合わせて学級活動(2)を指導するために、年間指導計画があります。まずは、それを確認しましょう。そして、次のような基本的な流れで学級活動(2)の授業を進めていきます。

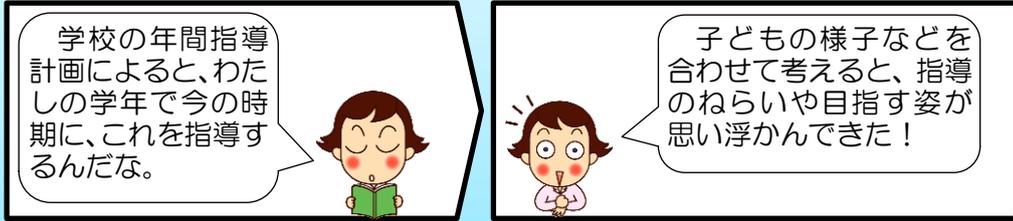
学級活動(2)の授業の流れ



では、共通事項で示された内容について子どもが問題意識を持ち、学級活動(2)で話し合い、決めたことを実行するまでの流れをみていきましょう。

事前の指導

- 1 年間指導計画の確認…学校で作成されている年間指導計画を確認し、学級の子どもの様子や発達段階に合わせて意図的、計画的に指導できるようにします。



→くわしくは第2章-2(1) (P.79)へ

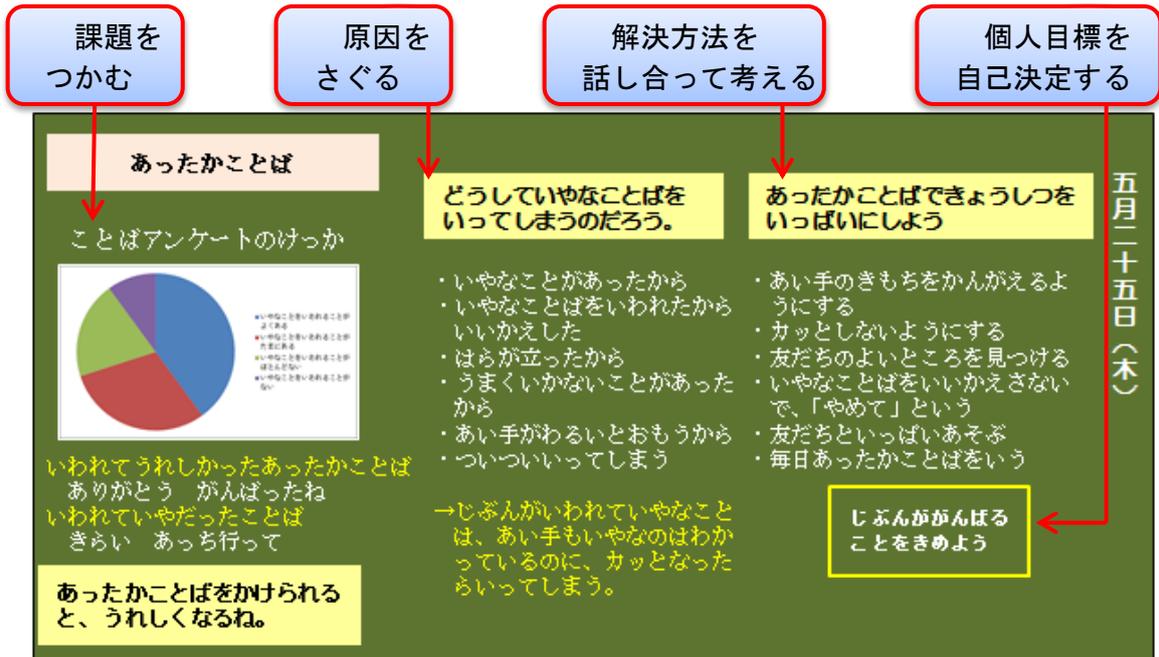
- 2 子どもの問題意識を高める…本時を実施する前に、子どもの実態に合わせて題材を提示したり、アンケートを実施したりして、問題意識を高めるようにします。



→くわしくは第2章-2(2) (P.83)へ

本時の指導 学級活動(2)の指導過程

板書の計画例



＜「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成26年、国立教育政策研究所)の板書の計画例をもとに作成＞

事前の指導で、題材に対する子どもの問題意識を高めた後、本時の指導では、「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の四つのステップで話し合いを進めます。

1 **つかむ…題材に対する問題意識を、資料の提示などによって問題の焦点化を図り、自分の課題として受け止める段階です。【導入】**



→くわしくは第2章-2(3)ア (P.87)へ

2 **さぐる…問題の原因について話し合いながら追求することで、解決への意識を高める段階です。【展開前段】**



→くわしくは第2章-2(3)イ (P.91)へ

3 **見つける…解決方法を話し合って考える段階です。【展開後段】**



→くわしくは第2章-2(3)ウ (P.95)へ

4 **決める…見つけた解決方法に沿って、具体的な個人目標を自己決定する段階です。【終末】**



→くわしくは第2章-2(3)エ (P.99)へ

事後の指導 自己目標に沿って実践する

自己目標実現に

向けて行動し、振り返る…「自分もやればできる」という自己効力感が持てるように、目標実現に向けて取り組む子どもの姿を認め、励まし、成果を上げることができるよう指導します。



→くわしくは第2章－2(4) (P.103)へ

アンケート調査より 9

これから学級経営していく後輩へのメッセージ ～2年目の先生より

○学級活動は、学級の状況をゆっくり子どもたちに考えさせるために、すごく大切な時間だと思います。ぜひ有効に活用してほしいと思います。

(4年担任・男性)

○学級でうまくいかないことなどは、その都度、子どもたちと一緒に考えていくことが大切だと思います。そして、自分たちで決めたことは守ってほしいと思います。

(3年担任・女性)

○子どもの関わりを増やすことを目指しましょう。教師ばかりが手助けせず、子ども同士で助け合うようにすると、子どもたちはまとまっています。そして、教師も楽になります。

(3年担任・女性)

○大変なことやつらいこともあるけれど、子どもたちができたときの達成感や笑顔を見ると、教師ってやっぱりいいなって、やりがいを感じられます。目の前の一人ひとりの子どもの笑顔のために、一緒に頑張っていきましょう。

(3年担任・男性)

○自ら学ぶ姿勢を大切にしてください。周りにはよき手本となる方がたくさんいます。まねをしてください。そして、たくさん相談してください。

(2年担任・女性)

<平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より>

※学年は初任時のもの

(4) 子どもの発達の特徴に合わせて計画的に指導しよう

一口に「子ども」といっても、小学校には1年生から6年生までが在籍しています。その発達段階による違いは大きく、その違いに合わせて指導をしていく必要があります。ここでは、子どもの発達段階の違いと、学級活動(1)、(2)での指導で気を付けたいことを紹介します。ただし、ここで紹介するのは目安であり、学級活動に取り組むときには目の前の子どもたちの実態に合わせて考えるようにします。ここでの内容と、**第2章**で紹介している発達段階に応じた手立てなどを合わせて考え、学級活動を実践していきましょう。

チャレンジシート1 学級の子どもの様子を思い浮かべてみましょう

学級の子どもが友だちと関わる様子は？

集団の様子は？

子どもの行動のよいところ、気になるところは？

そのほか、思い浮かんだことを書きとめておきましょう。気が付いたときに、どんどん書きこむと、学級の子ども理解がどんどん深まります！

子どもの発達の特質

低学年

1年生

小学校へ入学したばかりのころは、幼児期の自己中心性がかなり残っています。学校での人間関係は、教師と子どもの関係が中心で、子ども同士の人間関係は少ないです。さらには、してよいことと悪いことについての理解はできるようになりますが、感情的、衝動的な言動が多い時期です。

後半になると、教師を中心とする学級集団への所属感や一体感が現れ始めたり、2、3人の小グループで仲よく活動したりできるようになりますが、友人関係は全体として流動的で結びつきも弱く、学級全体としての集団のまとまりには欠けています。

2年生

2年生になると、活動の中心となる子どもが目立ち始めます。他の友だちの立場を認めたり、理解したりしようとする態度や、よりよい学級生活を築こうとする自主性なども次第に高まります。学級の中にできたそれぞれの集団は、仲間としての結びつきが少しずつ強まり、小集団での協同的な活動ができるようになってきます。また、学級全体に目を向けたり、学校に対する所属感を少しずつ深めたりしていくようになります。さらに、役割を分担して活動したり、決まりの大切さを認識して生活したり遊んだりできるようになります。

低学年の学級活動(1)

話し合い活動

- ・教師が進行などの役割を受け持つことから始めましょう。少しずつ子どもがその役割を担えるようにしていきます。
- ・友だちの意見をよく聞いたり、自分の意見を言ったりできるようにし、学級生活を楽しくするための集団決定ができるようにします。

集会活動

- ・はじめのうちは、教師が主導して楽しい集会活動を多く経験できるようにします。
- ・子どもが集会活動の内容を選択し、簡単な役割や準備をみんなで分担できるようにし、仲よく集会活動を楽しめるようにします。



低学年の学級活動(2)

- ・低学年は、基本的な生活習慣の定着を図ることが大切です。先輩の先生に相談しながら、学校の年間指導計画に合わせて計画的に指導しましょう。
- ・低学年では、特に問題の解決方法について考え、正しい方法や自分に合った方法を選んで、目標を持って努力できるようにすることが大切です。
- ・学級活動の指導を中心にして、個に応じて繰り返し指導したり、家庭と連携して指導したりしていきましょう。

中学年

3年生

集団の中の仲間としての結び付きや集団としての閉鎖性が増し、協力して楽しい学級生活をつくらうとする小集団による活動が盛んになる時期です。また、この時期は、集団感情や集団意識が強くなり育ってきて、いわゆる「われわれ意識」などの仲間意識が高まります。

集団の中では、指図する子とされる子が次第にはっきりしてきて、それぞれの仲間集団としての小集団が分立し、集団同士の対立や集団への付和雷同的な行動も見られるようになるなど、学級集団としてのまとまりが育ちにくい時期でもあります。集団活動を行うとき、それぞれの集団での活動目標について、ある程度共通に理解して持続して活動できますが、まだ個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、その集団に所属する子どもの間にはっきりとした相互依存の関係は見られません。

4年生

集団目標の達成に主体的に関わったり、協同の活動に取り組んだりして、リーダー的な子どもを中心に教師の力を借りなくてもある程度の計画的な活動ができるようになって、自分たちで決まりをつくって守ろうとするなどの自主性が増してきます。また、男女の活動の違いも見られるようになり、男女別の小集団もつくられるようになります。

中学年の学級活動(1)

話し合い活動

- ・教師の指導の下、子どもが活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受け持ち、より多くの子どもが司会等の役割を果たせるようにしましょう。
- ・自分と異なる考えなどについてもしっかりと聞いたり、理由を明確にして意見を言えたりするようにして、楽しい学級生活をつくるために、折り合いを付けて集団決定できるようにします。

集会活動

- ・これまでの経験を生かし、ねらいを明確にして創意工夫を加え、いろいろな集会活動に取り組めるようにしましょう。
- ・計画や運営、準備などにおける役割を、より多くの子どもが分担し、協力し合って楽しい集会活動が出来るようにしましょう。



中学年の学級活動(2)

- ・学校生活に慣れて活動範囲が広がる一方、小集団をつくり、その集団を中心に活動したいと思う子どもが増えるので、小集団間や小集団内で人間関係に問題が生じやすい時期です。**ウ 望ましい人間関係の形成**の指導を大切にするなどして、協力して楽しい学級生活が築けるようにしましょう。
- ・問題を自分のものとして真剣に考えることができるようにし、具体的な解決方法や目標を決めて、一定期間継続して互いに努力できるようにしましょう。

高学年

5年生

中学年までの経験を生かして、自分たちで決めた集団の活動目標をできるだけ大切に、常に実践活動を振り返り、改善しながらこれを達成しようとする感情や意識が強くなります。学級全体としてまとまった活動ができるようになり、友だちの長所や短所なども客観的にとらえられるようになりますとともに、目標を実現するために、互いに信頼し支え合って活動することを強く求めるようになります。また、集団としての実践や自分の言動について振り返り、改善するなどしてよりよい生活を築こうとする意欲が高まります。

その一方で、思春期にさしかかった子どもの価値観は、ときに理想主義的であり、一面的で独断的な傾向になりやすく、相手に批判的になったり自分の価値判断に固執しがちになったりします。また、他の子と自分を比べて自分に自信が持てなくなったり、些細なことで友だちとの関係が壊れたり、友だちへの不信感を持ったりするなど、悩みや不安を感じるようにもなります。また、この時期は男女など心身の成長の差が大きい中で、共に生活していることも特徴の一つです。

6年生

学校生活を通して、中心的な役割を担うようになり、最高学年としてリーダーシップを発揮しようとするなどの意識や態度が育ち、役割や責任を自覚して活動するようになります。

思春期特有の不安定な感情がより大きくなり、人間関係に悩んだり、先頭に立って活動することに消極的になったり、中学生活への不安を抱きながら生活する子どもも少なくありません。

高学年の学級活動(1)

話し合い活動

- ・教師の助言を受けながら、子ども自身が活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受け持ち、話し合いの方法などを工夫して運営できるようにします。
- ・学級のみならず学校生活にまで目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよさを生かして、楽しい学級や学校の生活をつくるためのよりよい集団決定ができるようにします。

集会活動

- ・児童会活動やクラブ活動の経験を生かして活動に取り組みます。
- ・話し合い活動によって互いのよさを生かしたり、反省を生かしたりして、信頼し支え合って創意工夫のある集会活動をつくります。



高学年の学級活動(2)

- ・思春期にさしかかる高学年の時期は、心身ともに大きく変化する時期です。人間関係や健康安全、食育などに関する悩みの解消を重視し、子どもが自ら現在及び将来の生き方を考えることができるようにしたり、自分に自信を持ち、よさを生かし伸ばして生活できるようにしたりすることが大切です。
- ・自己の問題について真剣に受け止め、資料などを参考にして自分に合った実現可能な解決方法を決め、目標を持って粘り強く努力できるように働きかけましょう。

学級会の年間スケジュール

学級活動は、学校の年間指導計画に基づいて行われます。学級活動(2)は、学習指導要領に示された内容を、教師が意図的、計画的に指導するものなので、学級の子どもの実態に合わせて、学校の年間指導計画に沿って系統的に指導していきます。

それに対して学級活動(1)で取り組む学級会は、子ども自らが楽しく充実した学級や学校の生活をつくる活動です。そのため、子ども自ら議題を見つけ、話し合い、協力して実践するようにしなければなりません。だから、学校の年間指導計画を見ても、「予想される議題(例)」などのように示されていることが多いと思います。「予想される議題(例)」は、あくまで例です。学級会をするときには、例にしばられすぎることなく、子どもが見つけた議題を中心にすえて、その思いを大切にしながら取り組む必要があります。

ここでは、学級会の年間スケジュールの例を紹介します。これは、「あらかじめ決まったもので、それに必ず取り組まなければならない」というものではありません。「このようなことに学級活動(1)で取り組めるのか」と、参考にしてもらうためのものです。学級活動の取組のイメージをふくらませていきましょう。もし学級の子どもが学級会に取り組んだ経験が少ない場合は、紹介してもよいでしょう。



低学年の例

◆学級で共通のものを作る活動 ●集会活動に関わる内容 ○係活動に関わる内容

	主な議題	提案理由	話し合いの柱
一学期	●どうぞよろしくの会をしよう	・学級みんなのを知って、早く仲よくなりたいたいから。	①何をするか決めよう ②みんなが仲よくなる工夫をしよう
	○係を決めよう	・仲よく楽しい学級にするために係をつくりたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう
	◆学級の歌を作ろう	・学級の歌を作ってみんなで歌えば、もっと仲よしの学級になれるから。	①何の歌にするか決めよう ②みんなが仲よくなれる歌詞を決めよう
	◆学級のマークを作ろう	・学級のマークを作ったら、みんなと同じものができて、もっと仲よくなれるから。	①どのようなマークにするか決めよう ②どのようなときに使うか決めよう
	●1学期お楽しみ会をしよう	・1学期の終わりにみんなで楽しい思い出をつくって、夏休みを迎えたいから。	①みんなですることを決めよう ②みんなが楽しめる工夫をしよう ③役割分担をしよう
二学期	●夏休みの思い出発表会をしよう	・みんながどのような夏休みを過ごしたか知ると、もっと仲よくなれると思うから。	①どのようなことを発表するか決めよう ②思い出発表の工夫をしよう
	○みんなが楽しめる2学期の係を決めよう	・1学期よりももっとみんなが楽しめる係をつくって、もっといい学級にしたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう
	◆名刺交換会をしよう	・もっと自分のことを知ってもらったり、友だちのことを知ったりしたら、学級のみんなともっともっと仲よくなれると思ったから。	①名刺に何を書くか決めよう ②どのような渡し方をするか決めよう
	●2学期お楽しみ会をしよう	・2学期の楽しかったことを思い出しながら、みんなが楽しめる集会をしたいから。	①みんなですることを決めよう ②みんなが楽しめる工夫をしよう ③役割分担をしよう
三学期	○みんながもっと楽しめる3学期の係を決めよう	・2学期の係も楽しかったけど、もっとみんなが楽しめる係をつくって、もっといい学級にしたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう
	●学級すごろく&カルタ大会をしよう	・お正月にしていることをみんなが楽しんだら、もっと仲よしになれると思うから。	①どのようなルールにするか決めよう ②みんなが楽しめる工夫をしよう ③役割分担をしよう
	●わくわくゲーム大会をしよう	・休み時間に遊び係の人がやってくれているゲームをみんなが楽しんで、もっと仲よしになりたいから。	①どのようなゲームをするか決めよう ②みんなが楽しめるルールを決めよう ③役割分担をしよう
	●思い出づくりの会をしよう	・今の学級がもうすぐ終わってしまうので、思い出づくりをしたいから。	①思い出づくりの会ですることを決めよう ②思い出に残る工夫をしよう ③役割分担をしよう

＜「道徳と特別活動」（平成26年6月号）をもとに作成＞

中学年の例

◆学校・学年に関わる活動 ●集会活動に関わる内容 ◎学級の問題に関わる内容 ○係活動に関わる内容

	主な議題	提案理由	話し合いの柱
一 学 期	○係を決めよう	・係をつくって学級を盛り上げたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう ③活動計画を立てよう
	●学級でのみんな遊びをしよう	・新しい学級のみんなで遊んで、もっと仲よくなりたいから。	①どんな遊びをするか決めよう ②仲よくなれる工夫をしよう
	●「グループ対こうりレー」をしよう	・「グループ対こうりレー」をして、学級の団結力を高めたいから。	①どのようなチームにするか決めよう ②どのようなルールにするか決めよう
	◆春の子ども祭りのお店を決めよう	・春の子ども祭りは学級目標「団結！4年□組」に近くチャンスなので、その達成を目指せるようなお店にしたいから。	①どのようなお店にするか決めよう ②学級目標に近づけるような工夫をしよう
	●1学期お楽しみ会をしよう	・1学期の終わりに思い出をつくとともに、学級目標にさらに近づけるようにしたいから。	①みんなであることを決めよう ②学級目標に近づけるような工夫をしよう ③役割分担をしよう
二 学 期	○2学期の係を決めよう	・2学期の係を決め直して、もっと楽しい学級にしたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう ③活動計画を立てよう
	◆子ども祭りでの学級の合言葉を決めよう	・子ども祭りをみんなで団結してやり遂げたい。みんなが団結するためにも、合言葉が必要だと思うから。	①どのような合言葉にするか決めよう
	◆秋の子ども祭りでの取り組むことを決めよう	・秋の子ども祭りでしたいことがみんな違っている。しっかり話し合ってから中身を決めると、団結して取り組めると思うから。	①どのような出し物にするか決めよう ②団結できて、お客さんに喜んでもらえる工夫をしよう
	●2学期お楽しみ会をしよう	・遊びを通して、いっぱい話したり励まし合ったりして、みんなともっと仲よくなりたいから。	①みんなであることを決めよう ②団結できて仲よくなれる工夫をしよう ③役割分担をしよう
三 学 期	◎片付けのルールを決めよう	・最近、学級の片付けがいい加減になっている。気持ちよく過ごせるようにルールを決めた方がいいから。	①室内遊び道具の片付け方を決めよう ②学級文庫の並べ方を決めよう
	◆大縄大会の目標と練習方法を決めよう	・大縄大会中学年の部で優勝したい。そのためには、目標を決めて練習する必要があるから。	①目標を決めよう ②練習の方法を決めよう
	●「4年□組ありがとう会」をしよう	・楽しかった4年□組もそろそろ終わってしまうので、最後にみんなで思い出をつくりたいから。	①みんなであることを決めよう ②みんなが団結できて、感謝の気持ちが伝わる工夫をしよう

〈「道徳と特別活動」(平成25年10月号)をもとに作成〉

高学年の例

◆学校・学年に関わる活動 ●集会活動に関わる内容 ◎学級の問題に関わる内容○係活動に関わる内容

	主な議題	提案理由	話し合いの柱
一学期	○係をつくってみ んなで分担し よう	・係をつくって、自分たちで5年□組を盛り上げていきたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう ③活動計画を立てよう
	◎給食時間を楽しくする工夫をしよう	・最近、給食時間の過ごし方がいい加減になっているから、ルールを確認したい。また、いろいろな人と給食を食べて、もっと仲よくなりたいから。	①給食時間の過ごし方のルールを決めよう ②「仲よし給食会」の座席をどのようにするか決めよう
	●5年□組で「ファーストイベント」をやる	・みんなと一緒に遊んで、絆を深めたいから。	①イベントの内容を決めよう ②絆を深める工夫をしよう ③役割分担をしよう
	◆校外学習のバスレクを計画しよう	・校外学習を楽しい思い出にするために、バスの中でレクリエーションをして盛り上がり、絆を深めたいから。	①レクリエーションの内容を決めよう ②盛り上がる方法を決めよう
二学期	○2学期の係を決めよう	・2学期の係を決め直して新鮮な気持ちで係に取り組み、さらに学級を盛り上げたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう ③活動計画を立てよう
	◆6年生にお礼をしよう	・組体操などでお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えたいから。	①どのように気持ちを伝えるか決めよう ②役割分担をしよう
	●「オータムイベント」を計画しよう	・「ファーストイベント」よりもパワーアップさせて、もっと絆を深めて5年□組の思い出を残したいから。	①イベントの内容を決めよう ②もっと絆を深める工夫をしよう ③役割分担をしよう
	●5年□組スポーツ大会をしよう	・6年生のように楽しそうなスポーツ大会をして、寒さに負けないよう体をきたえたいから。また、みんなのよいところを見つけ合って、さらに絆を深めたいから。	①スポーツ大会の内容を決めよう ②みんながよいところを生かせるような工夫をしよう ③役割分担をしよう
三学期	○3学期の係を決めよう	・新しい係を決めて、5年生の最後の学期を楽しめるような学級にしたいから。	①係を決めよう ②係の分担をしよう ③活動計画を立てよう
	●「ウィンターイベント」を計画しよう	・2学期にやったイベントよりもさらに楽しめるイベントにして絆を深め、思い出を残したいから。	①イベントの内容を決めよう ②もっともっと絆を深める工夫を決めよう ③役割分担をしよう
	●5年□組お別れ会をしよう	・1年間、学級でテーマにしてきた「絆」を深めるイベントをして、5年□組のみんなで最後の思い出をつくりたいから。	①イベントの内容を決めよう ②5年□組の「絆」を深め、確かめる工夫をしよう ③役割分担をしよう

＜「道徳と特別活動」（平成26年9月号）をもとに作成＞

第2章

さあ、学級活動で子どもが互いのよさを認め、
伸ばしあえる学級集団をつくろう

学級活動に取り組もう！



学級活動(1) 学級や学校の生活づくり

ひ
ビジョンを持ち

学級会オリエンテーションをしよう

→本章-1(1) (P.39)へ

学級会を開く準備をしよう

→本章-1(2) (P.43)へ

問題の発見

議題の選定

活動計画の作成

問題の意識化

わ
わたしたちのこと
として考えて

学級会を開こう

→本章-1(6) (P.61)へ

出し合う

比べ合う

まとめる(決める)

こ
行動できる
子ども

学級会で集団決定したことに基づき、事後の活動をしよう

→本章-1(7) (P.73)へ

話し合ったことの確認

協力して準備・実践

活動の振り返り

学級活動(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

ひ
ビジョンを持ち

学級活動(2)の準備をしよう

→本章-2(1) (P.79)へ

年間指導計画の確認

問題意識を高める

わ
わたしたちのこと
として考えて

学級活動(2)で話し合おう

→本章-2(3) (P.87)へ

つかむ

さぐる

見つける

決める

こ
行動できる
子ども

自分が決めた目標実現に向けて取り組めるようにしよう

→本章-2(4) (P.103)へ

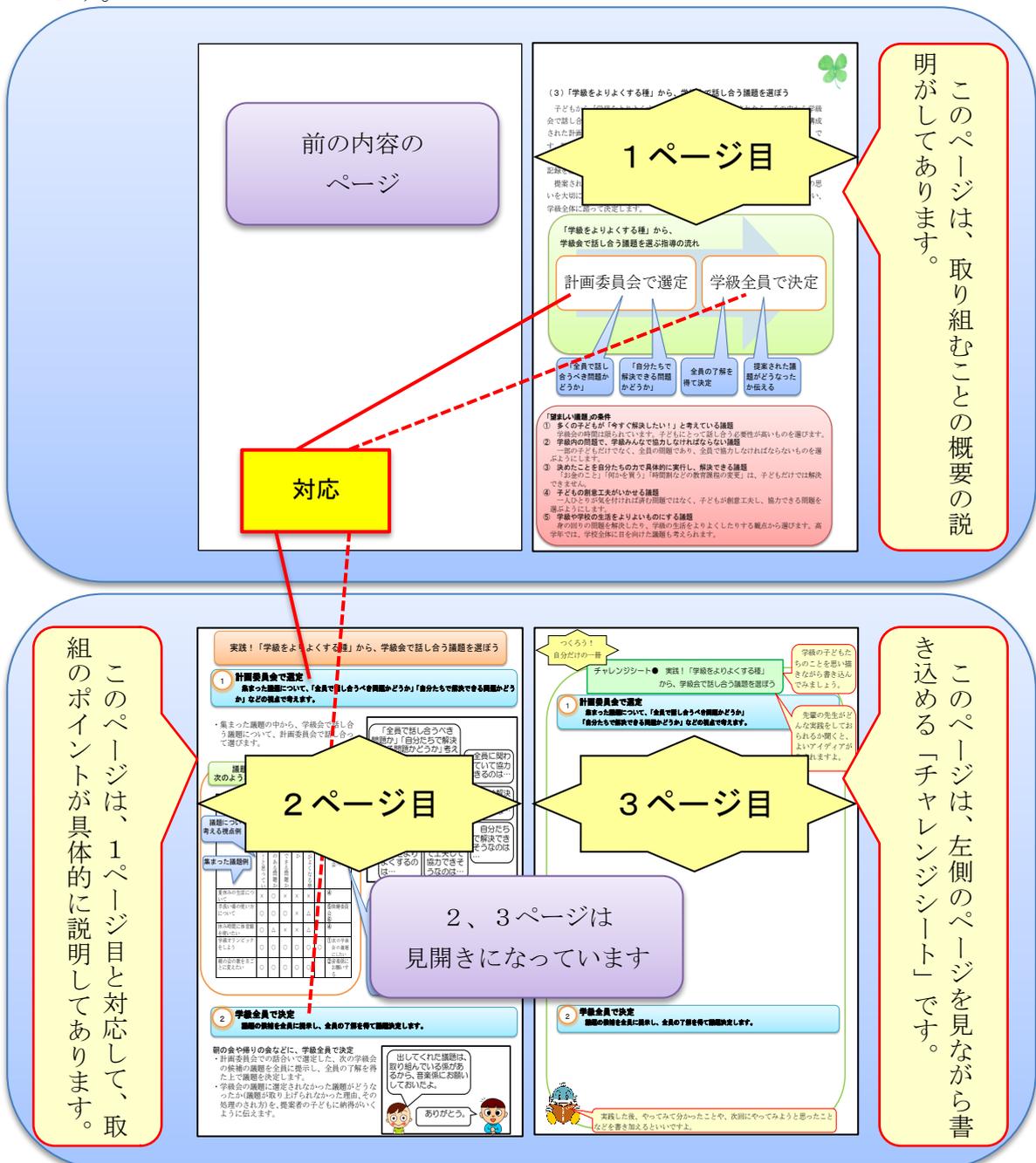


第2章の見方、使い方

第2章では、実際に学級活動に取り組むときに参考になることを、例を挙げながら述べています。また、取り組む前に考えたことや学級活動の時間に気付いたこと、事後に考えたことや今後実践するときに気を付けたいことを書くことができるようになっています。

第2章のレイアウト

本章は、取り組む内容のまとめりごとに、次のような4ページレイアウトで構成しています。



このページは、「チャレンジシート記入例」と「近江発！先輩の声」を掲載しました。「チャレンジシート」を活用するときに、参考にしてください。

チャレンジシート6 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート6 実践「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

1 計画委員会で選定

集まった議題について、「全員で話し合うべき問題かどうか」「自分たちで解決できる問題かどうか」などの視点で考えます。

2 学級委員会で決定

議題の優先順位を話し、全員の賛成で議題を決定し、実施の日を相談しておく。

話し合いの場では、議題の優先順位を話し、全員の賛成で議題を決定し、実施の日を相談しておく。

4 ページ目

実践！「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

議題選びには、いくつか気を付けるポイントがあります。学級に必要なことからいって、取り上げた議題が難しかったり、意見が分かれやすいものだったりして、話し合いの効果がなくなると、子どもたちは学級会が嫌いになってしまうかもしれません。

1 時間程度の話し合いで終わること、子どもたちも「決まったぞ!」「がんばるぞ!」などの達成感や意欲が持ちやすくなります。低学年では、二者択一ぐらいの意見の広がりが必要となる議題でもいいかもしれません。

(小学校教員・初任者研修指導員)

次の内容のページ

「チャレンジシート」「チャレンジシート記入例」の活用の仕方について

「チャレンジシート」を活用して、学級活動に取り組んでいきましょう。「チャレンジシート」には、本冊子を読んで、学級の子どもの様子に合わせて考えたことや、本時に取り組んでいる最中のメモ、取組後に気付いたことや考えたことなどを書きこむことができます。「こう使わなければならない」ということはなく、自分のやり方に合わせて、自分でつくっていくページです。活用法の一例を紹介している、「チャレンジシート記入例」の見方を紹介します。

黒字は、活動に取り組む前にスタートブックを読み、学級の子どもの様子に合わせて考えたことを、具体的に書いています。

「チャレンジシート」では、本冊子に書かれていることを参考にして、学級での取組のポイントとなることを書き記していきましょう。

本冊子に書いていないことでも、学級の様子から思いついたアイデアや、先輩の取組や助言を参考にして考えたことを書き、まとめるのもよいでしょう。

チャレンジシート ● 実践！「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

1 計画委員会で選定

集まった議題について、「全員で話し合うべき問題かどうか」「自分たちで解決できる問題かどうか」などの視点で考えます。

- ・スタートブックの表を参考にして、議題について計画委員会で話し合うための表をつくる(10日までに)
- ・議題ポストに議題を入れるのは、明日までだと、朝の会で、もう一度確認しておく。
- ・計画委員会のメンバーの確認
- ・計画委員会の子どもが集まれる日を相談する
- ・計画委員会で集まったときには、どのような視点で議題を選定するか確認してから話し合いに入る。

集まった議題
①「Aさんとの思い出を作ろう会」しよう
②そうじの仕方を確かめよう
③雨の日の廊下歩行について

→①に決定。②は繰り返しの会で話し合う、③は委員会で議題にしましょう

長休みに計画委員会で集まったけど、あわただしかった。次回は時間が長い休みにしよう。
みんなが輪番で計画委員会のメンバーになるから、議題選定の視点は、学級全体の場でもう少しくわしくしゃべっておくとよかった。→要指導!!

赤字は、活動に取り組んでいるときに、子どもから出た意見をまとめたり、気付いたことをメモしたりしています。

「チャレンジシート」は、実際の活動の様子に合わせて、柔軟に活用することができます。

「チャレンジシート」は、何度も繰り返し使えます。空いているスペースを、次回以降の取組で活用していきましょう。2年目以降での活用も考えられます。

なお、「チャレンジシート」は、1回の学級活動で全て記入しなければならない、というのではなく、重点となる部分を決めて活用することも考えられます。

青字は、実際に活動に取り組んだことを振り返って、気付いたことや考えたことをまとめています。

「チャレンジシート」でまとめをすることは、その後の実践に役立ちますし、学級活動についての自分の理解を深めることにつながります。

～第2章～ さあ、学級活動で 子どもが互いのよさを認め、 伸ばしあえる学級集団をつくろう

第2章では、子どもが互いのよさを認め、伸ばしあえる学級集団をつくっていくために、第1章で学んだ学級活動の基本的な考え方を生かして、学級活動に取り組んでいきましょう。



「～はじめに～」のiiiページで述べたように、本冊子はよりよい学級経営のために必要な学級集団づくりを、学級活動を中心にして行っていくことを柱とし、「一人ひとりの子どもが互いのよさや可能性を發揮し、よりよく成長できる学級集団」をつくることを目指して作成しています。そんな学級集団の中で育てたい「湖国の子ども」の姿を、三つのキーワードで表現していました。



滋賀県版 学級経営スタートブック (小学校学級活動編)

一人ひとりの子どもが互いのよさや可能性を發揮し、よりよく成長できる学級集団づくり

び

ビジョンを持ち

わ

わたしたちのこととして考えて

こ

行動できる子ども

いわば、このキーワードは、本冊子を活用した学級集団づくりを通して目指す子どもたちの姿です。「願わないことは叶わない。」こんな子どもを育てたいという願いを持つことは大切なことです。学校には、その学校の願いが込められた学校教育目標があります。あなたの所属する学校の学校教育目標を書いておきましょう。学校教育目標を踏まえ、あなた自身が学級経営をしていく中で、どのような学級集団づくりをしたいのか、その集団の中で子どもたちにどのように育てほしいと願っているのかも書いておきましょう。そして、このスタートブックに書かれている内容を参考にして学級活動に取り組み、あなた自身の願う子どもの姿の実現に向けて取り組んでいきましょう。

チャレンジシート2 学校教育目標

チャレンジシート3 あなたの願い

1 「学級活動(1)学級や学校の生活づくり」 に取り組もう



(1) 4月、学級会をする前に子どもたちに伝えておきたいこと

皆さんは、4月に着任して、経験豊かな先輩の先生方と同じように一つの学級を受け持って学級経営をスタートされたとき、見通しが持てずに困ったことはありませんか。見通しを持つことで、思いや願いを実現するための道筋を思い描くことができます。そのことは、物事に取り組む意欲の向上につながります。

年度当初、子どもが「よい学級にしたい」という願いを込めて決めた学級目標を基に、「今、学級がこんな様子だから、こんなことをしたい」「学級目標を実現するために、みんなでこんなものをつくりたい」という思いや願いを自分たちの力で実現できるようにするために、学級会について見通しが持てるようにします。

学級会オリエンテーションをしよう

学級会オリエンテーションを4月(難しければ、なるべく早い時期)に開き、学級会の役割や話し合いの方法などについて説明し、子どもが学級会についての見通しを持てるようにしましょう。

学級会オリエンテーションの流れ

学級会とは
何かの説明

学級会の進め方
の説明

集団決定の
仕方の確認

みんなで取り
組みたいこと
を考える

実践！学級会オリエンテーション

1

学級会とは何かの説明

学級会は、どのような活動かを説明し、子どもの活動意欲を高めます。

説明すること

- ・自分たちの力でよりよい生活を築くために取り組むことについて、みんなで話し合っ、みんながよいと思えるように集団決定する自治的な話し合い活動
- ・自分の意見の主張だけでなく、相手の意見に耳を傾け尊重し、よりよい人間関係を築く力を高める活動

学級会の時間っていろいろのは…

一人ひとりの意見を大切にしながら…



2

学級会の進め方の説明

学級会の事前・本時・事後の活動の仕方を伝え、見通しが持てるようにします。

説明すること

- ・自分たちの力でよりよい生活を築くために、どのような議題が考えられるか、考えた議題の提案方法(議題ポストの設置など) →くわしくは本章-1(2)(P.43)へ
- ・学級会の準備をするために、計画委員会で活動計画を作成すること →くわしくは本章-1(4)(P.51)へ
- ・学級会の話し合いの流れ「出し合う」「くらべ合う」「まとめる(決める)」 →くわしくは本章-1(6)(P.61)へ
- ・司会進行の仕方、黒板への記録の仕方 →くわしくは本章-1(6)(P.61)へ

3

集団決定の仕方の確認

集団決定の仕方を確認し、共に協力し合って活動していこうとする態度を育てます。

説明すること

- ・意見を出し合い、比べ合うことで各意見の根拠やよさを理解して、「自分もよくてみんなもよい」と思うことを折り合いをつけて集団決定すること
- ・安易な多数決は避け、みんなが納得できる考えでまとめていくこと
- ・多数決をするときには、それぞれの意見について十分話し合ってから行うこと
- ・決まったことには、自分の意見と違っていても必ず協力して取り組むこと

意見を出し合い、みんながよいように決めよう。

決まったことには、協力して取り組もう。



→くわしくは第2章-1(6)ウ(P.69)へ

4

みんなで取り組みたいことを考える場の設定

よりよい学級生活の向上への見通しを持つ場を設定します。

話し合うこと

- ・「願わないことは叶わない。」年度当初、子どもが「よい学級にしたい」という願いを込めて決めた学級目標を基に、自分たちの力でよりよい学級生活を築くために、みんなで取り組みたいことを話し合います。このことで、子ども一人ひとりが自分の願いを持って学級会に組み込んでいけるようにします。

ぼくは、みんなで力を合わせて、こんな学級にしたいな。

みんなで、こんなことに取り組んでみたいな。



つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート4 実践！学級会オリエンテーション

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

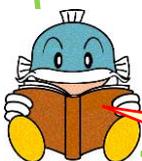
- 1 **学級会とは何かの説明**
学級会は、どのような活動かを説明し、子どもの活動意欲を高めます。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

- 2 **学級会の進め方の説明**
学級会の事前・本時・事後の活動の仕方を伝え、見通しが持てるようにします。

- 3 **集団決定の仕方の確認**
集団決定の仕方を確認し、共に協力し合って活動していこうとする態度を育てます。

- 4 **みんなで取り組みたいことを考える場の設定**
よりよい学級生活の向上への見通しを持つ場を設定します。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

チャレンジシート4 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート4 実践！学級会オリエンテーション

1 学級会とは何かの説明

学級会は、どのような活動かを説明し、子どもの活動意欲を高めます。

- 子どもたちに1年間の学級会で大切にしたいことを話す。
- 聞くことを大切にしよう。
- みんなが納得できる決定になるように「自分もよくてみんなもよい」話し合いにしよう。

子どもに話してみても、みんなワクワクしているようだった。定期的に「自分もよくてみんなもよい」は子どもに伝えていこう。

2 学級会の進め方の説明

学級会の事前・本時・事後の活動の仕方を伝え、見通しが持てるようにします。

- 子どもたちは議題のイメージがわからないだろうから、「お楽しみ会」「遊びのルール」など、いくつかの例をみんなで作ってみよう。
- 司会などは、みんなで分担して順番にやることを伝えよう。

子どもたちから出てきたこと
→「お誕生日会」「そうじや整頓のこと」

子どもたちは経験に基づいてよりよい生活を築くための議題を考えてくれた。やってみよううちに、さらにいろいろなアイデアが出るだろう。

3 集団決定の仕方の確認

集団決定の仕方を確認し、共に協力し合って活動していこうとする態度を育てます。

- 出し合うタイミングで、批判し合わないことを強調して話す。
- みんなが納得できるように、できるだけ意見を合わせられるように考えるが、多数決で決めることはある。→みんなで決めたことは、必ずみんなで作って協力して取り組む！

子どもたちから出た質問
「多数決はどんなときにするのか」
→みんなが納得できるように時間の限り話し合ってからする。みんなのために一人ひとりが譲り合って考えることも大切な力、と答えた。

聞き合うことを大切に、協力して取り組めるように引き続き伝える！

4 みんなで取り組みたいことを考える場の設定

よりよい学級生活の向上への見通しを持つ場を設定します。

- 学級目標を基にした、子どもたちから出た願い
- みんなが仲よくできる学級にしたい
- お誕生日会、お楽しみ会
- 困ったことがあったら、みんなで解決できる学級にしたい
- 遊びやそうじのルールを話し合っ決めて

学校に学級活動の資料があれば、活用しましょう！(写真は例です)



近江発！先輩の声1 実践！学級会オリエンテーション

子どもたちの心のうちには、いつも「こうしたい！」「こうなりたい！」という思いがあるものです。それらを学校生活の中で実現していく手段の一つが学級会ではないかと思います。

しかしながら、子どもたちは、学級会にそのような機能があることを理解していないことがほとんどです。子どもたちに「学級会で話し合えるんだ！」「そんなことができるんだ！」ということを理解させるためにも、オリエンテーションは大切です。年度当初に、学級会の仕組みについて話ができるとういと思います。

そして、先生方がオリエンテーションをするときには、ぜひ、「みんなで力を合わせてよい学級をつくっていこう！」と楽しそうに話してください。子どもたちによる学級会が、そこから始まります。

(小学校教員・初任者研修指導員)



学級会を開く準備をしよう

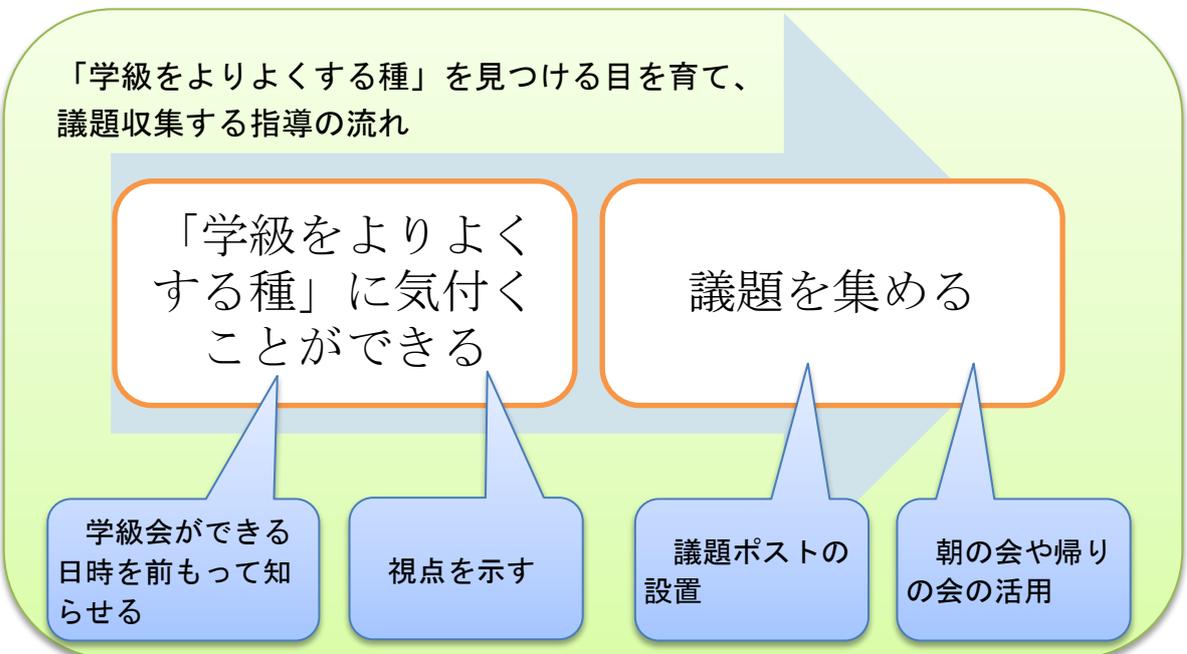


(2) 子どもたちに「学級をよりよくする種」を見つける目を育てよう

学級会オリエンテーションを行い、子どもが学級会について見通しが持てるようにしたら、学級会を開く準備をしましょう。まず、子どもにとって必要感のある議題を選定するために、議題の収集をします。

議題を収集するためには、普段から子どものよりよい生活づくりについての問題意識を高めることが大切です。その際、子どもが「よい学級にしたい」という願いを込めて決めた学級目標を基に、「今の学級の様子はどうか」ということを出発点にします。問題意識を高めることで、子どもは「こんなところをよくすると、もっと学級はよくなるのに」「学級をさらによくするために、こんなことに取り組んでみたい」といった考えや思いを持つようになります。この考えや思いは、いわば「学級をよりよくする種」だといえます。

子どもが、「学級をよりよくする種」を意識し、議題を提案できるように指導をしていきます。





実践！「学級をよりよくする種」を見つける目を育てよう

1 「学級をよりよくする種」に気付くことができるようにする
 年度当初は、どんな議題を提案してよいか分からない子どもが多いものです。
 「学級をよりよくする種」を見つける目を育てるための工夫をしましょう。

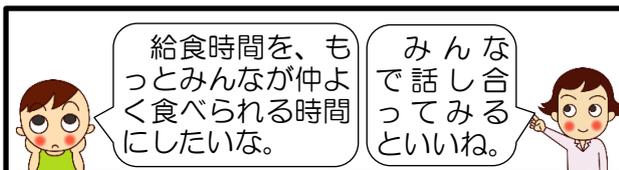
- ・月や学期ごとに「学級会カレンダー」を掲示し、学級会ができる日時を前もって知らせ、子どもの意欲を高めます。
- ・給食時間や休み時間などでの子どものつぶやきを拾い上げることで、「学級をよりよくする種」への気付きを促すことができます。
- ・子どもが自分たちの生活から「学級をよりよくする種」を見つけられるようにするようにします。例えば次のような視点を示します。

活動の見通しをもちょう 5年い組 学級会カレンダー

6月	学校行事	学級会	委員会・クラブ	学級のあれこれ
1 月	プールそじ(AM)	次の議題募集 強請週間	委員会活動	
2 火	眼科検診(3時間目)			
3 水	授業参観(2時間目)、通学路点検			みんな遊び
4 木	読書タイム、プールそじ予備日(AM)			
5 金				
6 土				
7 日				
8 月	プール開き		クラブ活動	
9 火	校内人権の日	計画委員会での 学級会準備		
10 水	音楽鑑賞会			みんな遊び
11 木	読書タイム、歯科検診(5時間目)			
12 金				
13 土				
14 日				
15 月			クラブ活動	
16 火		学級会		
17 水	ひびきあい活動			みんな遊び
18 木	全校一斉下校(13:30)			

学級目標を出発点にして

- ・みんなでやりたいこと
- ・学級生活がもっとよくなること
- ・みんなにお願いしたいことや困っていること
- ・みんなで作ってみたいこと



2 **議題を集める工夫**
 学校生活の様々な場面から議題が提案されるように環境を整えます。

議題ポストの設置

- ・空き箱などを利用してつくります。ポストには、思わず提案したくなるような絵や文字を、学級の子どもにかいてもらうとよいでしょう。
- ・いつでも提案できるように、議題ポストのそばに議題提案カードを用意しておきましょう。

低学年…楽しくなるような動物の絵、学級のみんなが仲よくしている絵など

中学年…「みんなで楽しく」「係活動へのお願い」「困っています」などの議題テーマなど

提案したくなるような絵や文字

高学年…学級目標や「こんな学級にしたい」という子どもの願いなど

うな提案した議題がど

提案カード	月	日	提案者
みんなに提案します! () 個人から () グループから () 係から			
提案したいこと			
() みんなで遊んでみたい! () みんなでつくってみたい! () みんなで解決したい!			
提案理由			
この提案については、			
1 学級会で話し合います。			
2 朝の会・帰りの会で話し合います。			
3 (係・先生・委員会) にお願ひします。			

提案する議題の種類がイメージできる

日時、提案者、提案内容、提案理由などを簡単に書き込める

朝の会や帰りの会の活用

- ・朝の会や帰りの会で、学級の様子を振り返ったり、「学級をよりよくする種」を見つけられるように示した視点を話題にして話し合ったりすることが考えられます。
- ・休み時間や給食の時間などに話題になったことを子どもが短冊に書き、背面黒板に貼って提案する方法もあります。
- ・必要に応じて、全員が提案カードを書くことも考えられます。

学級会を開く準備をしよう

問題の発見

議題の選定

活動計画の作成

問題の意識化

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート5 実践！「学級をよりよくする種」を
見つける目を育てよう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

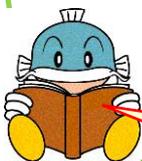
「学級をよりよくする種」に気付くことができるようにする
年度当初は、どんな議題を提案してよいか分からない子どもが多いものです。
「学級をよりよくする種」を見つめるための工夫をしましょう。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

議題を集める工夫

学校生活の様々な場面から議題が提案されるように環境を整えます。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級会を開く準備をしよう			
問題の発見	議題の選定	活動計画の作成	問題の意識化

チャレンジシート5 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート5 実践!「学級をよりよくする種」を見つける目を育てよう

1 「学級をよりよくする種」に気付くことができるようにする
 年度当初は、どんな議題を提案してよいか分からない子どもが多いものです。
 「学級をよりよくする種」を見つける目を育てるための工夫をしましょう。

- ・学級会ができるのは20日の5時間目なので、学級会の日のことを5日の帰りの会で子どもに伝えよう。
- ・給食時間に子どもが、転校するAさんのことをよく話題にしている。そのことが議題になりそうだと、声をかけてみよう。
- ・そうじの仕方がいい加減になっているのを気にしている子がいたなあ。その子にも声をかけてみよう。
- ・Aさんを気持ちよく送り出すことが議題になりそうだと伝えたら、Bさんはとても喜んでくれたなあ。
- ・そうじの仕方
 ーもう少し班のみんなで声をかけ合うと言っていた。

休み時間に子どもが話しているのを、もう少し注意して聞いておこう。

2 議題を集める工夫
 学校生活の様々な場面から議題が提案されるように環境を整えます。

- ・議題ポスト
 ーCさんたちが「議題ポスト、作りたい!」と言っていた。
 ーどのようなことを議題ポストに書きたいと思っているか、帰りの会で聞いてみよう。
- ・帰りの会に、「みんなでやってみよう」「みんなにお願いしたいこと」がないか聞いてみよう。
- ・子どもから出た意見を背面黒板に貼っていく。
- ・「係へのお願い」
- ・「楽しい集会をしよう」
- ・「聞いて聞いて!困っています」

議題ポストに書いてほしいことは、どんなことをポストに入れたらよいか分かるようにしてほしい、ということだった。

やはり、Aさんの送別を兼ねたお楽しみ会をしたい、という意見がたくさん出た。ほかにどのような意見が出るか、しばらく議題ポストの中をチェックしよう。

議題ポストの例



ポストの色合いに、「一人ひとりが輝く学級にしよう」という学級の子どもの思いが、象徴的に表れています!

近江発!先輩の声2 実践!「学級をよりよくする種」を見つける目を育てよう

最初から学級全員に「学級をよりよくする種」を求めるのは難しいです。でも、必ず学級には、学級への思いを持っている子どもがいます。それは、「お楽しみ会がしたいです」などの要望や、「学級文庫の本棚の本がバラバラです」「〇〇さんの机は、いっぱい物がかかっている、重くて運べません」などの訴えかもしれません。

それらの意見を逃さず拾い上げ、学級会などの議題として学級に返していくことで、「学級をよりよくする種」を広めることができます。すると、子どもたちは、「あっ、僕もそう思った!」「意見を取り上げてくれるんだ!」と気付き、今度は自分から「学級をよりよくする種」を見つけようとしていきます。

そのときに活用できるのが「議題ポスト」です。学級のことで気になったことや、みんなでしたいことなどをいつでも書いて入れることができます。

(小学校教員・初任者研修指導員)

学級会を開く準備をしよう

問題の発見

議題の選定

活動計画の作成

問題の意識化



(3) 「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

子どもが「学級をよりよくする種」に気付き、議題が出されたら、その中から学級会で話し合う議題を選びましょう。議題は教師が選ぶのではなく、学級の子どもで構成された計画委員会で選定します。計画委員会のメンバーは、「司会グループ+教師」です。議題を選定したのち、選ばれた議題を提案した子どもも、メンバーに入るとよいでしょう。計画委員会のメンバーは固定ではなく輪番制にして、どの子どもも司会、記録を経験できるようにします。

提案された議題は、学級をよりよくしようという思いから出されたものです。その思いを大切にしながら、計画委員会でどれが学級会の議題としてふさわしいか話し合い、学級全体に諮って決定します。

「学級をよりよくする種」から、
学級会で話し合う議題を選ぶ指導の流れ

計画委員会で選定

学級全員で決定

「全員で話し合うべき問題かどうか」

「自分たちで解決できる問題かどうか」

全員の了解を得て決定

提案された議題がどうなったか伝える

「望ましい議題」の条件

- ① 多くの子どもが「今すぐ解決したい!」と考えている議題
学級会の時間は限られています。子どもにとって話し合う必要性が高いものを選びます。
- ② 学級内の問題で、学級みんなで協力しなければならない議題
一部の子どもだけでなく、全員の問題であり、全員で協力しなければならないものを選ぶようにします。
- ③ 決めたことを自分たちの力で具体的に実行し、解決できる議題
「お金のこと」「何かを買う」「時間割などの教育課程の変更」は、子どもだけでは解決できません。
- ④ 子どもの創意工夫がいかせる議題
一人ひとりが気を付ければ済む問題ではなく、子どもが創意工夫し、協力できる問題を選ぶようにします。
- ⑤ 学級や学校の生活をよりよいものにする議題
身の回りの問題を解決したり、学級の生活をよりよくしたりする観点から選びます。高学年では、学校全体に目を向けた議題も考えられます。



実践！「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

1 計画委員会で選定
 集まった議題について、「全員で話し合うべき問題かどうか」「自分たちで解決できる問題かどうか」などの視点で考えます。

- ・集まった議題の中から、学級会で話し合う議題について、計画委員会で話し合っ
- て選びます。

議題について話し合うとき、次のような表を使うことも考えられます

議題について考える視点例	☆「今すぐ解決したい！」と思っている問題か	☆学級のみんなに関係のある問題か	☆自分たちの力で解決できる問題か	☆工夫できそうな問題か	☆学級や学校のくらしがよくなる問題か	議題	どこで解決するか
夏休みの生活について	×	○	×	×	×		④
手洗い場の使い方について	○	○	○	×	△		⑤保健委員会 ⑥
休み時間に体育館を使いたい	○	△	×	×	△		④
学級オリンピックをしよう	○	○	○	○	○		①次の学級会の議題にしたい
朝の会の歌を月ごとに変えたい	○	○	○	○	○		②音楽係に願います



- 提案された議題の扱い方の例
- 短い時間で集団決定できそうなもの
→朝の会や帰りの会で
 - 取り組んでいる係があるもの
→係へ連絡
 - 取り組んでいる委員会などがあるもの
→委員会などへ連絡
 - 自分たちだけでは解決が難しいもの、個人的なもの
→先生と相談

2 学級全員で決定
 議題の候補を全員に提示し、全員の了解を得て議題決定します。

- 朝の会や帰りの会などに、学級全員で決定
- ・計画委員会での話合いで選定した、次の学級会の候補の議題を全員に提示し、全員の了解を得た上で議題を決定します。
 - ・学級会の議題に選定されなかった議題がどうなったか(議題が上げられなかった理由、その処理のされ方)を、提案者の子どもに納得がいくように伝えます。



学級会を開く準備をしよう

問題の発見

議題の選定

活動計画の作成

問題の意識化

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート6 実践！「学級をよりよくする種」
から、学級会で話し合う議題を選ぼう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

計画委員会で選定

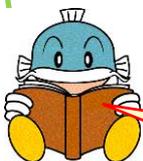
集まった議題について、「全員で話し合うべき問題かどうか」「自分たちで解決できる問題かどうか」などの視点で考えます。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

学級全員で決定

議題の候補を全員に提示し、全員の了解を得て議題決定します。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級会を開く準備をしよう			
問題の発見	議題の選定	活動計画の作成	問題の意識化

チャレンジシート6 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート6 実践! 「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

1 計画委員会で選定
 集まった議題について、「全員で話し合うべき問題かどうか」「自分たちで解決できる問題かどうか」などの視点で考えます。

- ・スタートブックの表を参考にして、議題について計画委員会で話し合うための表をつくる(10日までに)。
- ・議題ポストに議題を入れるのは、明後日までだと、朝の会で、もう一度確認しておこう。
- ・計画委員会のメンバーの確認
- ・計画委員会の子どもが集まれる日を相談する
- ・計画委員会で集まったときには、どのような視点で議題を選定するか確認してから話し合いに入る。

集まった議題
 ①「Aさんとの思い出を作ろう会」をしよう
 ②そうじの仕方を確かめよう
 ③雨の日の廊下歩行について

→①に決定。②は帰りの会で話し合う、③は委員会で議題にしよう

長休みに計画委員会で集まったけど、あわただしかった。次回は時間が長い昼休みにしよう。
 みんなが輪番で計画委員会のメンバーになるから、議題選定の視点は、学級全体の場でもう少しくわしくしゃべっておくとよかった。→要指導!!

2 学級全員で決定
 議題の候補を全員に提示し、全員の了解を得て議題決定します。

- ・明日の帰りの会で議題決定する。
- ・なぜ①にしたか、計画委員会の子がしゃべったときに、議題選定の視点を確認。 →OK!
- ・②③の扱いについて、提案者に伝えてあるか確認する。 →OK!

近江発!先輩の声3 実践! 「学級をよりよくする種」から、学級会で話し合う議題を選ぼう

議題選びには、いくつか気を付けるポイントがあります。学級に必要なことだからといって、取り上げた議題が難しかったり、意見が分かれやすいものだったりして、話し合いの収集がつかなくなると、子どもたちは学級会が嫌いになってしまうかもしれません。

1時間程度の話合いで終わることで、子どもたちも「決まったぞ!」「がんばるぞ!」などの達成感や意欲が持ちやすくなります。低学年では、二者択一ぐらいの意見の広がり収まるような議題でもいいかもしれません。

(小学校教員・初任者研修指導員)

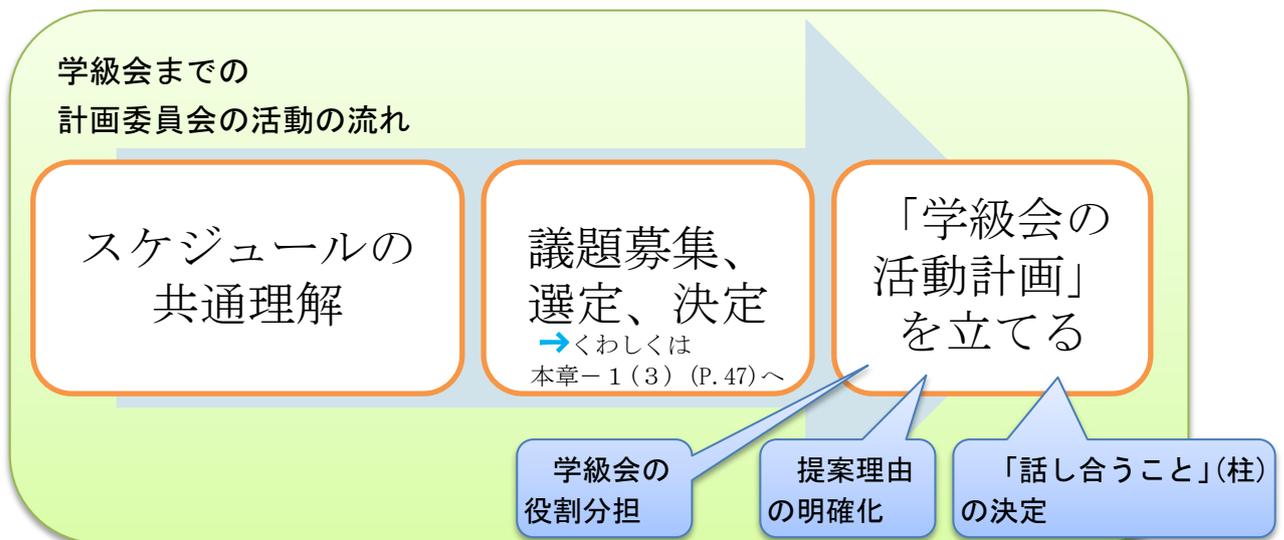


(4) 計画委員会で学級会の活動計画を立てよう

学級の子ども全員の了解を得て議題を決定したら、計画委員会の子どもと一緒に学級会の活動計画を立てましょう。学級会の話し合いが円滑に行われるようにするために、話し合いの流れ、運営の仕方などについて話し合い、見通しを持つようにすることで、話し合いがより自主的に行われることが期待できます。

計画委員会では、学級会を行う1週間ぐらい前から取組を始めるとよいでしょう。まず、学級会の日までのおよそのスケジュールを共通理解します。そのスケジュールに従って議題募集、計画委員会での議題の選定を行い、学級全員で議題を決定します。

議題が決まったら、「学級会の活動計画」を立てます。活動計画では、学級会の役割分担、議題の提案理由の明確化、「話し合うこと」(柱)の決定を行います。そして、「議題」「提案理由」「話し合いのめあて」「話し合うこと」(柱)を学級の子どもに知らせ、自分の意見を持って話し合いに参加できるようにします。



計画委員会での指導は、発達段階に応じて行いましょう！(下の内容は目安です。学級の子どもたちの話し合い経験や学級の実態に合わせて取り組みましょう)

1年生

1年生では、計画委員会での事前準備は難しいので、担任が中心となって学級会を進めます。司会、黒板、決まったことを発表するなどの係を、教師と一緒にやりながら進め、子どもに簡単な役割を任せていきます。

2年生

1年生での経験を踏まえ、事前に話し合いを進める担当者(司会、黒板など)を分担して、計画委員会の必要性に少しずつ気付くことができるようにします。学級会では、子どもが交代で司会、記録の役割を経験することができるようにします。

中学年

少しずつ教師の手を離れて自分たちで話し合いができるようになります。計画委員会の仕事について子どもが理解できるように指導します。

高学年

ほとんど自分たちの手で計画委員会を運営することができるように助言をします。



実践！計画委員会で学級会の活動計画を立てよう

1 学級会までのスケジュールを共通理解しよう 学級会までのスケジュールを共通理解し、見通しを持って自主的に取り組めるようにします。

- ・学級会の話合いが自主的に行われるようにするためには、学級会までの流れ、学級会での話合いの流れの予想、運営の仕方などの見通しを立てることが必要です。
- ・話合い活動を子どもの力で進められるようにするために、学級全員が学級会までの流れを共通理解できるようにします。子どもの実態に合わせてスケジュールを立てましょう。

学級会までの流れの例(金曜日に学級会を実施する場合)

計画委員会の子どもと考える場合や、教師が中心になって考える場合などが考えられます。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝の会		●活動計画の作成(計画委員会) ※役割分担	●活動計画の作成(計画委員会) ※「話し合うこと」(柱)	●学級会の打合せ(計画委員会)	●学級会の打合せ(計画委員会)
長休み	●議題の選定(計画委員会)	●活動計画の作成(計画委員会) ※提案理由	●活動計画の作成(計画委員会) ※「話し合うこと」(柱)	●学級会の打合せ(計画委員会)	●学級会の打合せ(計画委員会) ★第3校時に学級会実施
昼休み	●議題の選定(計画委員会)	●活動計画の作成(計画委員会) ※提案理由	●活動計画の作成(計画委員会) ※「話し合うこと」(柱)	●学級会の打合せ(計画委員会)	
帰りの会	●議題の決定(学級全員で)	●活動計画の作成(計画委員会) ※提案理由 ※「話し合うこと」(柱)	●学級会のお知らせ ※学級みんなに議題の内容について考えておいてもらうようにする	●学級会のリハースル(計画委員会)	●背面掲示板など設けた学級会コーナーに決まったことを掲示

子どもの発達段階、話合い経験などの実態に合わせて…

2 学級会の活動計画を立てよう 計画委員会で、学級会の役割分担、提案理由の明確化、「話し合うこと」(柱)の決定をします。

学級会の活動計画の例(学級会ノートを活用しながら)

〈学級会ノート例〉

第6回 学級会ノート 月 日 (曜日)

5年 い組 名前(千田 美和子)

議題 学級オリンピックをしよう					
議題	運動会や音楽会が終わって、クラスでまとまることがなくなってきていると感じています。だから、みんなでアイデアを出し合って、みんなが活やくできる学級オリンピックをしたいと思います。そうすれば、一人ひとりの得意なことを生かしたり協力したりすることができて、クラスがまたまとまって、もっと楽しくなると思って、てい案しました。				
てい案理由					
決まっていること	・時間は2時間なので、種目は3つか4つ。 ・他の学級の時間割の関係で、運動場は使えない。				
司会グループ	司会	千田	太田	黒板記録 一伊達	神戸
				ノート記録 遠藤	
	「話し合うこと」(柱) 自分の意見(理由も書いておきましょう)				
① 何の種目をするか					
② みんながまとまるための工夫					
③ どんな係が必要か					

計画委員と提案者が話し合って明確化します。話合いのよりどころになります。

事前に決まっていることは伝えておきます。

学級会の役割分担をします。輪番制にしてどの子も経験できるようにします。

例の提案理由は、
①今の学級の問題点(今、こうなっている)
②考えられる解決方法(こうすることで)
③解決後のイメージ(こうしたい、こうなりた)になっています。

「話し合うこと」(柱)を決めます。1時間で話し合える量は限られています。子どもたちが1時間で集団決定できる量に合わせて、話し合う値打ちのあることを、「話し合いの柱①」、「話し合いの柱②」というように、二つ三つ決めましょう。例では、①「何をするか」②「どのようにするか」③「役割分担はどうするか」になっています。

学級会を開く準備をしよう

問題の発見

議題の選定

活動計画の作成

問題の意識化

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート7 実践！計画委員会で学級会の
活動計画を立てよう

学級の子どもの
たちのことを思い描
きながら書き込ん
でみましょう。

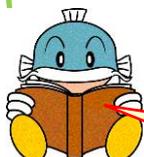
1 学級会までのスケジュールを共通理解しよう

学級会までのスケジュールを共通理解し、
見通しを持って自主的に取り組めるようにします。

先輩の先生がど
んな実践をしてお
られるか聞くと、
よいアイデアが
生まれますよ。

2 学級会の活動計画を立てよう

計画委員会で、学級会の役割分担、提案理由の明確化、「話し合うこと」(柱)の決定をします。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったこと
などを書き加えるといいですよ。



チャレンジシート7 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート7 実践！計画委員会で学級会の活動計画を立てよう

やることの確認
(低学年)の例

1 学級会までのスケジュールを共通理解しよう
学級会までのスケジュールを共通理解し、見通しを持って自主的に取り組めるようにします。

- ・子どもの様子から、学級会までのスケジュールのだいたいは、こちらで作ろう。
- ・まだ慣れていないので、1週間ではなく、10日くらいでスケジュールをつくろう。

ほとんどの子がとても意欲的で、Cさんが話合いの柱を家で考えてると言っていた。
→明日、聞いてみる！

学級会までのスケジュールを教師が決めると、一部の子から、「遊ぶ時間がなくなる」という意見が出た。やはり、教師がスケジュールをつくって示すより、みんなで作った方が、主体性が高まるだろうから、次回はそうしよう。
次回集まるまでに、1先生に、運動場を使われるか確認！

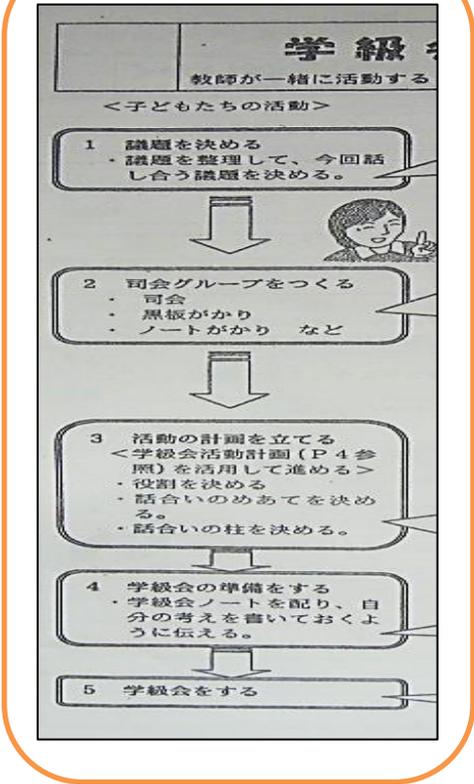
2 学級会の活動計画を立てよう
計画委員会で、学級会の役割分担、提案理由の明確化、「話し合うこと」(柱)の決定をします。

- ・提案した子と話し、提案理由をまとめよう。まとめるポイントとして、①今の学級の問題点②考えられる解決方法③解決後のイメージを、確実に押さえよう。
- ・決まっていることを子どもに伝えよう
①集会活動でとれるのは2時間。
②1先生の学級が運動場を使われるから、運動場は使えない。

話し合いの柱
①「Aさんとの思い出を作る会」
ですることを決めよう
②Aさんとのよい思い出をつくるための工夫をしよう
③役割分担をしよう

司会がしたい→Dさん、Fさん
黒板記録 →Gさん、Hさん
ノート記録 →Jさん

話し合いの柱は、Cさんがくわしく考えてきてくれたので、スムーズに決まった。③は時間的に話し合うのは難しいかもしれないので、臨機応変にやろう。



近江発！先輩の声4 実践！計画委員会で学級会の活動計画を立てよう

宿題のチェックなど毎日の学級事務が忙しいのに、学級会に向けて計画委員会を開くことは難しいことかもしれません。そんなときに活用していたのが、給食の時間です。

担任と計画委員会のメンバーが机を合わせて給食を食べ、その際に学級会に向けて話合います。いつもとは違った雰囲気子どもたちは喜びますし、子どもたちとの何気ない会話も楽しめます。

ひょっとしたら、その雰囲気を見ていた周りの子どもたちは、計画委員会によいイメージを持ち、自分の順番が回ってくるのを楽しみに待ってくれるかもしれませんよ。

(小学校教員・初任者研修指導員)



(5) 学級の子どもたちの問題意識を高めよう

計画委員会の子どもを中心にして学級会の準備が進んでいきますが、学級会の議題は「よりよい学級にするために、こんなことに取り組んでみたい!」といった子どもの願いから出発していて、学級の子どもたち全員に関わるものです。学級の子どもたちに、学級会で話し合う議題が「自分たちの問題だ」という意識を高めるような場や時間を設けることが大切です。朝の会や帰りの会などの時間を利用して、次の学級会までに考えてほしいことを、計画委員会の子どもたちが学級のみみんなに伝えるようにしましょう。伝えるときに、議題や計画委員会で話し合っただけで明確化した提案理由、「話し合うこと」(柱)などが書き込まれた学級会ノートを配って、子どもが自分の意見を事前にまとめられるように工夫します。

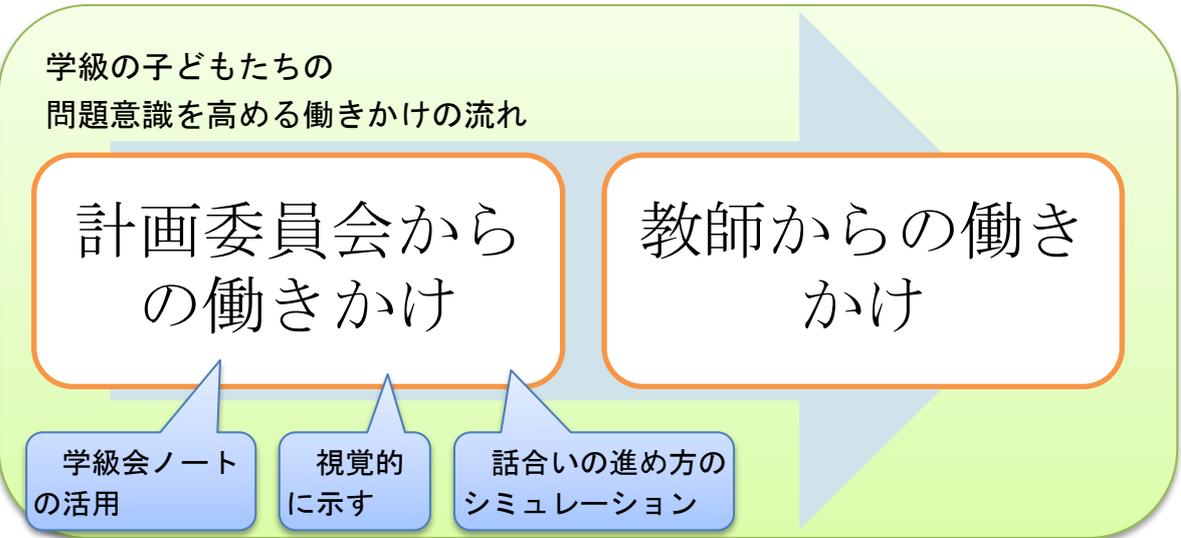
(学級会ノート例)

第 6 回 学級会ノート						月 日 (曜日)
5年 い 組						名前(千田 美和子)

議題	学級オリンピックをしよう					
てい案理由	運動会や音楽会が終わって、クラスでまとまることがなくなってきたと感じています。だから、みんなでアイデアを出し合って、みんなが活やくできる学級オリンピックをしたいと思います。そうすれば、一人ひとりの得意なことを生かしたり協力したりすることができて、クラスがまたまとまって、もっと楽しくなると思って、てい案しました。					
決まっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・時間は2時間なので、種目は3つか4つ。 ・他の学級の時間割の関係で、運動場は使えない。 					
司会グループ	司会	千田	太田	黒板記録 一伊達	神戸	ノート記録 遠藤
「話し合うこと」(柱)		自分の意見(理由も書いておきましょう)				
① 何の種目をするか	「話し合うこと」(柱)に対する 自分の考えを書いておく					
② みんながまとまるための工夫						
③ どんな係が必要か						

今日の学級会を振り返りましょう

○提案理由のことを考えながら、話し合うことができましたか。	よくできた	できた	もう少し
○友だちの意見のよいところを考えながら、聞くことができましたか。	よくできた	できた	もう少し
○自分の意見を進んで発表できましたか。	よくできた	できた	もう少し
○決まったことや自分がこれから何をしたらよいか分かりましたか。	よくできた	できた	もう少し
	よくできた	できた	もう少し
○感想(自分のがんばったところや友だちのよかったところなど)			





実践！学級の子どもたちの問題意識を高めよう

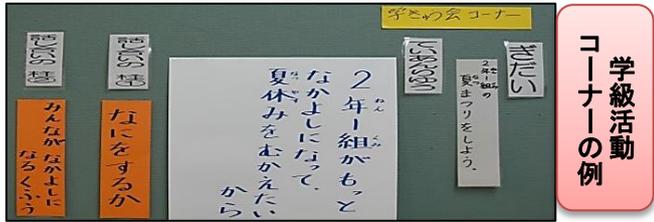
1 計画委員会からの働きかけ
議題や提案理由、「話し合うこと」(柱)を工夫して学級のみんに伝えます。

①学級会ノートの活用
・前のページのような学級会ノートを活用して、計画委員会の話し合いで決まったことを書いて示し、「話し合うこと」(柱)について考えが書き込めるようにしておきます。

②視覚的に示す
・議題や提案理由、「話し合うこと」(柱)を学級のみんに伝えるとき、短冊に書いたものを活用して示し、それを学級活動コーナーなどに掲示しておきます。いつでも目に見えるようにしておくことで、議題に対する問題意識を高めることができます。掲示しておいた短冊は、本時でも使えます。

・必要に応じて、議題に対する問題意識などについてアンケートをとって集計したり、図や表にしたりして示すことで、問題意識を高めることができます。

③話し合いの進め方のシミュレーション
・話し合いの進め方について、子どもの実態に合わせて、必要があれば進行台本などを作成し、進め方のシミュレーションをします。その中で話し合いの流れや時間などについて確認し、計画委員会の子どもが自信を持って話し合いを進められるようにします。

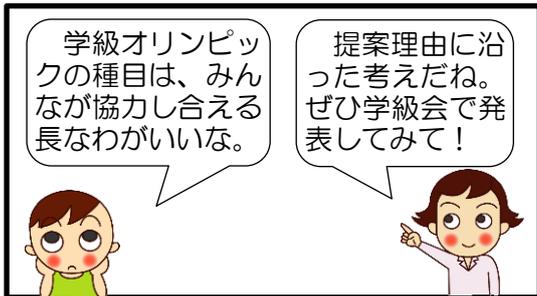


学級活動
コーナーの例

No.	流れ	話す人	話す内容
1	はじめの言葉	司会	・これから第__回の学級会を始めます。
2	役割のたしかめ	計画委員	・今日の司会は__、ふく司会は__、黒板記録は__と__、ノート記録は__です。よろしくをお願いします。
3	議題のたしかめ	司会	・今日のぎだいは、「__」です。話し合いの柱は「①__」と「②__」です。
4	てい案理由の説明	司会	・ていあん者の__さん、ぎだいのていあん理由を発表してください。
		てい案者	・今日のぎだいについて、ていあんする理由を発表します。 →自分の言葉で話せるようにしておこう。
5	話し合い 出し合う	司会	・それでは、話し合いの柱「①__」から話し合います。
		ふく司会	・意見を発表してください。 →できるだけたくさんの人に意見を出してもらおう。「なぜか」という(理由)まで話してもらえようようにしよう。
	くらべ合う	司会	・みなさんの意見を聞いて、「どう思いましたか。ていあん理由のことを考えながら、意見に対する考えを出してください。」
		ふく司会	・さん成意見・反対意見を出してもらって、意見のしているところや同じところ、ちがうところははっきりするようにしよう。 さん成が多いが、問題点がある意見に対して ・～の問題点の解決の方法はありますか。 ・～の問題点がうまく解決できそうなので、〇〇さん納得できそうですか? さん成が同じくらい意見があるとき ・議題のてい案理由は〇〇でした。両方のよいところを合わせると、どのようなことが考えられますか。
	まとめる(決める)	司会 ふく司会	・これまでの話し合いをまとめます。「__」のよいところを思い通りに意見をください。 みんなの意見を聞いて… ⇒一つにしぼって決定 ⇒Aの意見にBの一部を取り入れて決定 ⇒Aの意見の一部を変えて決定 ⇒ゆう先順位をつけて決定 ⇒意見に合わせて決定 ※話し合いの柱②も同じように話し合う。
6	決まったこと のたしかめ	司会 ノート 記録	・決まったことを発表してください。 ・決まったことは__です。クラスのみんなで決めたことに、全員で協力して取り組んでいきましょう。
7	振り返り	司会	・今日の話し合いの振り返りをします。学級会ノートに書いてください。 ・振り返りを発表してください。
8	先生から	司会	・先生からのお話です。
9	おわりの言葉	司会	・これで第__回の学級会を終わります。みなさん、これから__に向けて、協力して取り組んでいきましょう。

2 教師からの働きかけ
子どもが書いた学級会ノートに事前に目を通して、事前の支援を行います。

・子どもが書いた学級会ノートに目を通して、助言や励ましを書いて返します。子どもの考えが提案理由に沿っているかどうかポイントです。



学級会を開く準備をしよう

問題の発見

議題の選定

活動計画の作成

問題の意識化

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート8 実践！学級の子どもたちの
問題意識を高めよう

学級の子どもたちのことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

計画委員会からの働きかけ

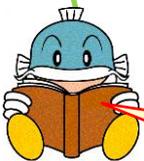
議題や提案理由、「話し合うこと」(柱)を工夫して学級みんなに伝えます。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

教師からの働きかけ

子どもが書いた学級会ノートに事前に目を通して、事前の支援を行います。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。



チャレンジシート8 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート8 実践！学級の子どもたちの
問題意識を高めよう

進行について子どもと
話し合う資料(低学年)の例

1 計画委員会からの働きかけ
議題と提案理由、「話し合うこと」(柱)を工夫して学級のみんなに伝えます。

- 学級会ノートを、明後日の朝の会で配れるように準備する。
- 提案理由、決まっていること、「話し合うこと」(柱)を書き込んだ学級会ノートを印刷して配るけど、時間をとって計画委員会の子に説明してもらおう。
- 明日の長休み、計画委員の子と議題と提案理由、「話し合うこと」(柱)を短冊に書く。
- 来週のはじめごろから、学校の学級会グッズを使って、話し合いの進め方の練習をする。

それぞれの「話し合うこと」(柱)について、全員が自分の考えを書いておくことを確認！

提案理由、決まっていること、「話し合うこと」(柱)については、質問は特に出なかった。(柱)についてどんなことを考えているか、子どもと話す話題にしてみよう。

短冊は、教師が事前に切り分けておくこと、大きさがそろってから、次はそうしよう。子どもが慣れてきたら、またらせてみよう。

2 教師からの働きかけ
子どもが書いた学級会ノートに事前に目を通して、事前の支援を行います。

子どもたちの書いた学級会ノートを見ていると、提案理由から外れた考えを書いている子が何人かいた。次は、学級会ノートを配るときに、もっと提案理由についてくわしく説明しよう。

KさんとFさんが提案理由に沿ったよい考えを書いていたから、学級会で自信を持って発表できるように声かけしておこう！

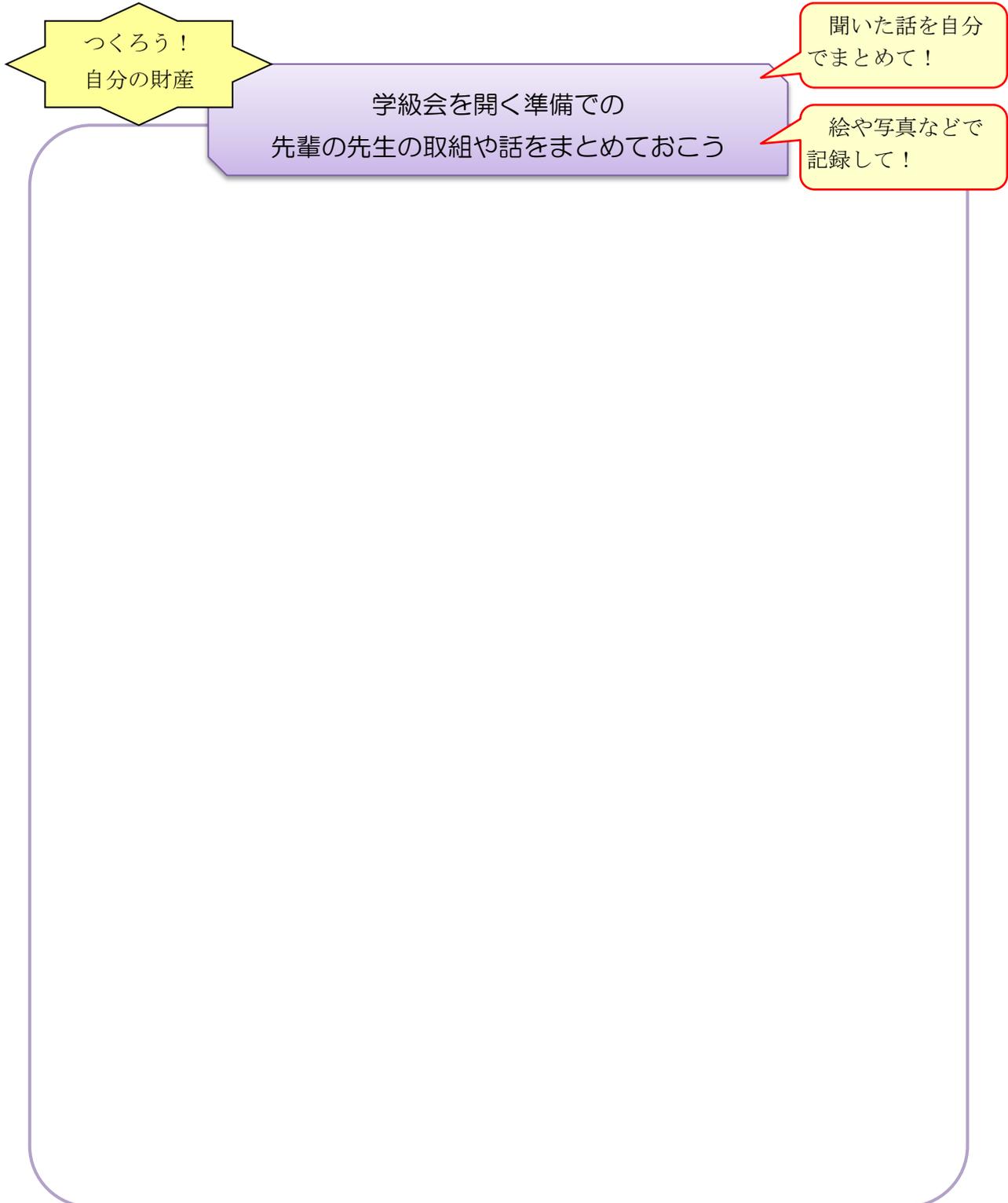
だいい()かい がつきゅうかいはいのかつどうけいかく							
が	にかい	が	つきゅう	かいはい	のか	つどう	けいかく
①はじめのことば	これから	だいい	かい	がつきゅうかいはい	を	はじめます。	なかよく みんなで
②やくわりのしょうかい	やくわりを	しょうかい	します。	しかいの()	です。		
③はなしあうことのかくにん	きょう	はなしあう	ことは「	ていあんりゆうを()	さん	はっぴようして	ください。
④はなしあうこと	では、	はなしあいに	はいります。	きょうの	じゅんじよは		
⑤きまったこと	きょう	きまった	ことを	ノートきろくの()	さんに	はっぴようして	もらいます。
⑥ふりかえり	がつきゅうかい	カードに	ふりかえりを	しましょう。			
⑦せんせいのおはなし	つぎに、	せんせいの	おはなしを	ききましょう。			
⑧おわりのことば	これで	だいい()	かい	がつきゅうかいはい	を	おわりに	します。
しかいグループのふりかえり							

近江発！先輩の声5 実践！学級の子どもたちの
問題意識を高めよう

「話し合うこと」(柱)は、背面黒板を利用した学級活動コーナーなどを利用して、事前に学級全体に知らせておきましょう。そして、それぞれの「話し合うこと」(柱)について、必ず自分の意見を持たせておいてください。そうすることで、子どもたちは主体的に学級会へ臨むことができます。また、学級会ノートを用意しておくことよいと思います。余裕があるときは、一人ひとりの学級会ノートに目を通し、前もって子どもたちの意見を把握しておくこと、学級会中の声かけに反映させることができます。学級の中には、建設的なよい意見を考えていても、発表しない子どもがいることがありますが、そういった子どもの意見も拾い上げることができます。

(小学校教員・初任者研修指導員)

ここまで、学級会を開く準備をしてきました。学級の子どもたちのことを思い描いて、具体的な取組を考えてこられたと思います。その中で目や耳にした先輩の先生の取組や話を自分でまとめておくと、今後の実践に必ず役立ちます。聞いた話をまとめたり、先輩の先生が実践されたときのグッズやワークシートなどを写真や絵などにして記録したりしておきましょう。きっとあなたの財産になりますよ！



アンケート調査より 10

「子どもたちが学級の仲間と協力して物事をやり遂げ、喜びを感じている！」と感じたエピソード ～2年目の先生より

○お楽しみ会を計画したときに、一人一役で分担できるようにしました。当日までに自分の役、次の人への渡し方、話す言葉など、それぞれが必死に考えていました。当日、私がほとんど関わらず進行をし、1時間の活動を終わると、「できた!」「先生いらなかった!」と、自分たちで成功させたという気持ちであふれていました。

(2年担任・男性)

○大縄大会に向けて学級会で話し合い、練習日時を決めて2学期からこつこつ練習を重ねました。本番、1位にはなれませんでした、「やりきった」という実感が子どもたちの顔からあふれていました。

(5年担任・女性)

○3月のお楽しみ会で、準備、何をするか、ルール説明など、すべてを子どもたちで工夫してできた姿に感動しました。

(2年担任・男性)

○入り授業でお世話になった先生への歌のプレゼントのことです。自分たちで選んだ曲の歌詞を考えて替え、子どもたちはピアノや呼びかけの練習に熱心に取り組みました。お世話になった先生は感動して涙を流してくださいました。子どもたちは喜びを感じていました。

(4年担任・男性)

○初任者研修の後補充で入ってくださった先生に、1年間のありがとうの気持ちを込めてお別れ会をすると自分たちで提案して、司会などの役割を決め、自分たちで考え協力して実行したこと。

(2年担任・女性)

○みんな遊びでのドッジボールを、話合いでルールを変えながら、みんなで楽しく1年間続けられたこと。

(4年担任・女性)

○学級会や学校行事などで、学級全体で何かをつくりあげるものに向かっていくときに、とてもまとまりを感じていました。本番よりも、それまでの準備を、子どもたちは楽しんでいたように思います。

(2年担任・女性)

〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

※学年は初任時のもの



学級会を開こう

(6) 学級活動(1)の実践！学級会の話合いを進め、「学級をよりよくなる種」を育てよう

ア 子ども一人ひとりが考えを出し合えるようにしよう

16ページの第1章-4(2)『学級活動(1)学級や学校の生活づくり』ってなあに？』では、学級活動(1)は子どもが自分たちの学級や学校の生活をより楽しくするために、議題を見つけ、話し合い、協力して実践する自発的、自治的な活動を行うことを紹介しました。学級会オリエンテーション、学級会を開く準備を行い、議題について話し合う準備ができれば、学級会を開きましょう。



話し合い活動では、折り合いを付けて合意形成を図ることをねらいとして進めます。学級会の時間の話合いのステップ「出し合う」「比べ合う」「まとめる(決める)」という流れを踏まえて展開し、子どもから出された多様な意見を生かしたよりよい集団決定ができるようにします。

子ども一人ひとりが考えを出し合えるようにしよう(「出し合う」ステップ)

話し合い(学級会)

話し合いの柱③ ④

どんな係が必要か

話し合いの柱②

みんながまとめるための工夫

多様な案を出し合う

理由を添えて出し合う

話し合いの柱①

何の種目をするか

まとめる(決める)⇐比べ合う⇐出し合う

今ココ

長なわ

とびばこハードル走

だんボールだるま落とし

ペットボトルボウリング

ミニつな引き

ぞうきんがけリレー

ホップステップジャンプはぼとび

フリスビー的当て

提案理由をよく考えて出し合う

第6回学級会

議題学級オリピックをしよう

てい案理由

運動会や音楽会が終わってから、クラスでまとまってがんばることがなくなっていると感しています。だから、みんなでアイデアを出し合って、みんなが活躍できる学級オリピックをしたいと思います。そうすれば、一人ひとりの得意なことを生かしたり協力したりすることができて、クラスがまたまとまってもっと楽しくなると思って、てい案しました。

＜「集団活動や体験活動を充実させるための学級活動指導資料」(平成27年、滋賀県教育委員会)をもとに作成＞

61



実践！子ども一人ひとりが考えを出し合えるようにしよう

本時の「出し合う」ステップでは、「話し合うこと」(柱)について、子ども一人ひとりが考え付いたことを自由に出し合います。このステップは、賛成・反対などの意見交換をする前のステップで、「比べ合う」ステップと混同しないことが大切です。

1 提案理由をよく考えて出し合う
 子ども一人ひとりが意見を出すときに、提案者の気持ちや提案理由を考えた案を出し合うように指導します。

- ・「出し合う」ステップに入る前に、議題、「話し合うこと」(柱)、提案理由を確認します。提案理由は、提案者から説明してもらうようにして、提案者の気持ちや提案理由を考えられるようにします。
- ・使える場所や時間など、すでに決まっていることがあれば、はじめに伝えておきます。
- ・「話し合うこと」(柱)ごとに、「出し合う」ステップから話し合いが始まります。
- ・「出し合う」ステップでは、学級としての意見の全体像や傾向をつかめるようにすることが大切です。分類・整理できるような意見が出された場合は、話し合いの中で分類・整理していきます。

議題例「1年生と仲よし交流会をしよう」

分類・整理

- 一緒にしたい(手つなぎおに、シャボン玉大会)
- つくってプレゼントしたい(替え歌、名刺)
- してあげたい(おんぶ、勉強を教える、本を読んであげる)
- 交換したい(手紙)

話し合いの柱① 何をするか

- 1年生をおんぶしてあげたい
- 1年生も知っている手つなぎおにをしよう
- オリジナル名刺をつくらせてほしい
- 1年生とペアでシャボン玉大会をしよう
- 仲良くなる替え歌をつくろう。(プレゼント)
- 1年生と手紙の交換をしよう
- 体育や算数の勉強を教えてあげたい
- 1年生が大好きな本を読んであげたい

〈「道徳と特別活動」(平成27年1月号)をもとに作成〉

2 多様な案を出し合う
 議題について、様々な観点からの案を出し合えるようにします。

- ・「出し合う」ステップでは、一人ひとりの子どもが意見を出し合うことを大切にします。そのため、このステップでは、出された意見に対して賛成・反対を述べるのではなく、様々な考えを発表する場にします。出された考えを理解するために、質問することはあります。
- ・「比べ合う」ステップと混同しないように、今、どのステップを行っているか分かるように掲示するなど、可視化しておきます。
- ・自分の思いや考えを発言できるようにするために、学級会ノートに励ましのコメントを書いたり、声をかけたりするようにします。



3 理由を添えて出し合う
 提案理由に沿って、自分の考えを「わたしは」を主語にして発表し合います。

- ・自分の考えを発表するとき、自分の好き嫌いだけでなく、提案理由に沿って意見が言えるように指導します。
- ・低学年や話し合いに慣れていない子どもには、「○○がいいです。わけは◇◇だからです」といった話型を用いて、理由を言えるように指導します。
- ・中学年や高学年では、これまでの学びを生かし、話型にとらわれすぎず、根拠(理由)を明確にして自分の考えや思いを自分の言葉で説明できるように指導します。

学級会を開こう

出し合う

比べ合う

まとめる(決める)

つくろう!
自分だけの一冊

チャレンジシート9 実践!子ども一人ひとりが考えを
出し合えるようにしましょう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

1

提案理由をよく考えて出し合う

子ども一人ひとりが意見を出すときに、提案者の気持ちや提案理由を考えた案を出し合うように指導します。

2

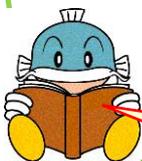
多様な案を出し合う

議題について、様々な観点からの案を出し合えるようにします。

3

理由を添えて出し合う

提案理由に沿って、自分の考えを「わたしは」を主語にして発表し合います。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級会を開こう

出し合う 比べ合う まとめる(決める)

チャレンジシート9 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート9 実践!子ども一人ひとりが考えを出し合えるようにしよう

1 提案理由をよく考えて出し合う
子ども一人ひとりが意見を出すときに、提案者の気持ちや提案理由を考えた案を出し合うように指導します。

- 提案理由の説明を、Bさんしてもらおう。→Bさんの気持ちがみんなに伝わるように、思いを引き出す。
- 出てきた意見を分類・整理してみんなに分かりやすくなるように、黒板記録の子に声をかける。
- 黒板記録係の子たちは、まだ意見の分類・整理に慣れていないことが分かった。慣れるまで、こちらの方からどんどんアドバイスしよう。
- 出てきた意見を黒板に書くのに時間がかかった。あらかじめ意見を書けるような短冊を次回は準備する!
- 司会の子に、黒板記録係の様子を見ながら進めるように言う!

柱①何をするか
 ・手紙を渡す
 ・こおりおに
 ・何でもバスケ
 ・手つなぎおに
 ・震源地はどこだ
 ・プレゼント渡し

思い出の品
 室内遊び
 体育館遊び

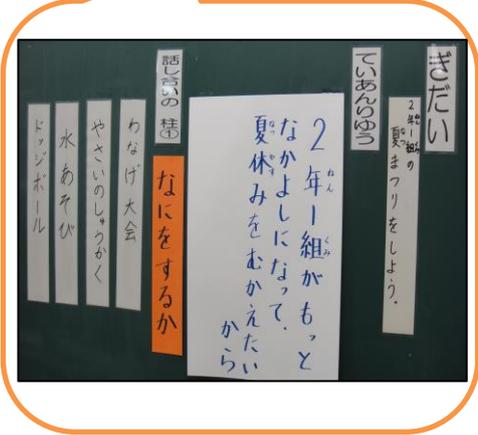
2 多様な案を出し合う
議題について、様々な観点からの案を出し合えるようにします。

- 「出し合う」ステップでは、出し合うことが大切! 意見を出し合う前に、子どもたちに賛成・反対を述べるステップではないことを確認!
- 事前に「出し合う」ステップでの注意事項を話しておいたので、賛成・反対意見を言う子は少なかった。→このことは効果的! 今後もやっつけていこう!!
- 学級会ノートに励ましの言葉を書いておいて、発表を促したつもりだったが、それでは十分ではない子がいるのが分かった。→事前、本時中の声かけを大切にしよう!
- KさんへMさんが言ったこと
 →反対意見
 ・Lさん、Nさん
 →学級会ノートに書いたことを発表するように促す

3 理由を添えて出し合う
提案理由に沿って、自分の考えを「わたしは」を主語にして発表し合います。

- 学級の子どもは話し合いに慣れていない。→簡単な話型をつくって事前に示す!
- 話型を示すと、子どもは理由まで話せた! この話型を継続して使う。
- 子どもが慣れてきたら、話型は使わなくて自由に話せるようにしたいなあ。

考えを出し合う話し合いの例



近江発!先輩の声6 実践!子ども一人ひとりが考えを出し合えるようにしよう

みなさんの学校には、学級会や話し合い活動の「進め方マニュアル」のようなものがありますか。本冊子では、進め方の一例が56ページに紹介されています。

司会の話す内容が台本のように書かれているものが多いと思うのですが、話し合いの進行の様子に合わせて進め方が書いてあるものがおススメです。「進め方マニュアル」について初任者の仲間同士で交流をしたり、先輩の先生に前任校のものがどのようなものだったか、聞いてみたりするのもいいでしょう。

提案理由に基づいて、事前に学級会ノートに書いた自分の意見を、長い短冊に名前ペンで、教室の後ろからも見えるように大きく書いて準備しておく、話すのが苦手な子どもも意見が出しやすくなります。意見を分類・整理するときにも、短冊なら簡単に動かすことができますよ。

(小学校教員・初任者研修指導員)

学級会を開こう

出し合う

比べ合う

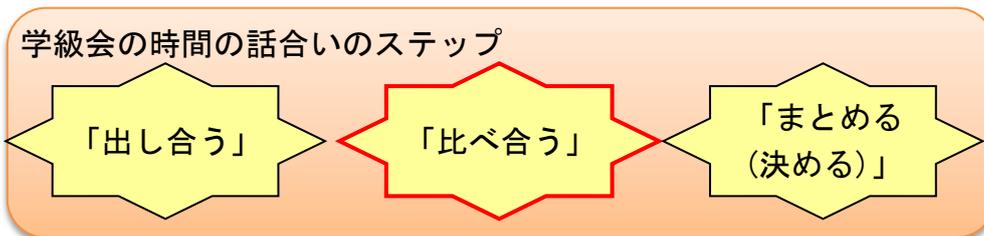
まとめる(決める)



イ 出された考えを比べ合い、互いの考えを理解し合えるようにしよう

「出し合う」ステップで、提案理由に沿った考えを出し合ったら、次は「比べ合う」ステップです。このステップでは、出された考えを「比べ合う」ことによって、よりよい取り組み方を探っていきます。

具体的には、提案理由に沿って、賛成意見や反対意見を述べ合う話し合い活動を行います。この活動を通して、互いの考えの違いや共通点を明確にしていきます。それらを理解し合えるようにすることが、「比べ合う」ステップでは大切です。

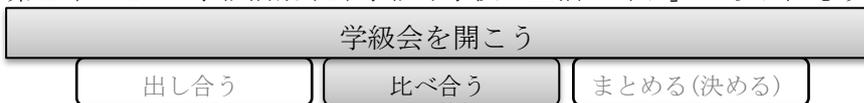


よりよい考えを見いだすために「比べ合う」とは、「分かり合う」「聞き合う」という意味です。そのために、自分の考えと比べながら聞くだけでなく、提案理由に沿って、よりよいものはどれかを常に考えながら聞き、様々な意見のよさを生かしてみんなが納得できるようにします。

様々な意見のよさを生かすわけですから、自分の考えをもとに賛成意見や反対意見を一方的に述べるのではなく、「なるほど、〇〇さんはこういう考えを持っているのか」「自分とは考えが違うけど、この部分はすばらしいから、取り入れていきたい」などと、相手の考えをよく知り、尊重しようとする話し合いをしていきます。

出された考えを比べ合い、互いの考えを理解し合えるようにしよう(「比べ合う」ステップ)

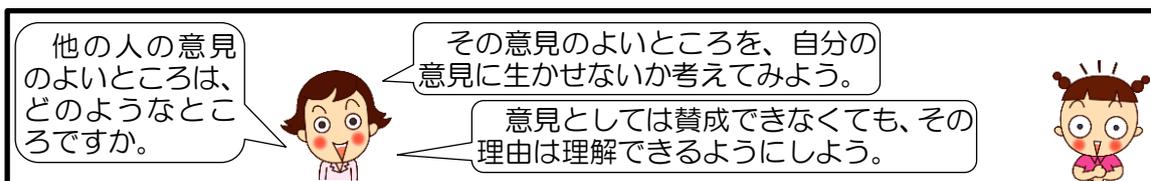
＜「集団活動や体験活動を充実させるための学級活動指導資料」(平成27年、滋賀県教育委員会)をもとに作成＞



実践！出された考えを比べ合い、互いの考えを理解し合えるようにしよう

1 賛成意見・反対意見を述べ合う
 「出し合う」ステップで出された考えについて賛成意見・反対意見を述べ合い、自分の思いや願いを伝え合います。その話し合いを通して、互いの考えの違いや共通点を明確にします。

- ・賛成意見や反対意見を述べるときに、提案理由に沿った形で述べるように指導します。
- ・よりよい考えはどれかを見いだす話し合いなので、賛成意見から出し合うようにし、反対意見が出た場合も「あなたはどれがいいと思いますか」と尋ね、プラス思考の話し合いになるようにします。
- ・聞く指導を大切にして、一方的に自分の考えを主張したり、他の人の意見の問題点を指摘したりするだけにならないように、例えば次のような聞く視点を示します。



基本的に話し合いを見守ることになりますが、こんなときは教師の出番です！学級全体に伝えるようにしましょう。

人権を侵害するような発言があったとき
 ・毅然とした態度で、その場ですぐに指導しましょう。
 話し合いが混乱したときや提案理由などからそれたとき
 ・提案理由や話し合いのステップを確認し、場に合った発言をするように指導しましょう。また、話し合いのマナーが悪いときも指導が必要です。

2 少数意見を生かす話し合いをする
 少数意見にも十分耳を傾け、それらを生かす工夫はないか考えるようにします。

賛成意見や反対意見を述べ合う中で、一つの案に賛成意見が集中することがあります。賛成意見が多いと、その案に対する少数の反対意見があまり注目されないことが考えられます。集団として意見をまとめる話し合いをするので、少数の意見も大切にしたいものです。



3 出された意見をもとに、創意工夫した知恵を述べ合う
 提案理由に沿って、自分の考えを「わたしは」を主語にして発表し合います。

集団として意見をまとめる話し合いで、少数意見を大切にしていくと、少数意見の子どもが多数派に同調していくという形だけでなく、各意見を大切に折り合いを付け、例えば合体案や他の創意に満ちた考えが生まれたりします。そのような話し合いを目指すのが「比べ合う」ステップです。



「比べ合う」ステップで子どもにかけたい言葉例
 ・「単に賛成と反対の数だけで決めないようにしよう」
 ・「提案理由に沿ってよく考えて意見を言おう」
 ・「どれかを選ぶだけでなく、合体して新しい案をつくってもいいですよ」

折り合いを付ける話し合い

学級会を開こう

出し合う

比べ合う

まとめる(決める)

つくろう!
自分だけの一冊

チャレンジシート 10 実践! 出された考えを比べ合い、
互いの考えを理解し合えるようにしよう

学級の子どもの
たちのことを思い描
きながら書き込ん
でみましょう。

1 賛成意見・反対意見を述べ合う

「出し合う」ステップで出された考えについて賛成意見・反対意見を述べ合い、
自分の思いや願いを伝え合います。その話し合いを通して、互いの考えの違いや
共通点を明確にします。

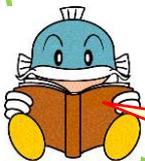
先輩の先生がど
んな実践をしてお
られるか聞くと、
よいアイデアが
生まれますよ。

2 少数意見を生かす話し合いをする

少数意見にも十分耳を傾け、それらを生かす工夫はないか考えるようにします。

3 出された意見をもとに、創意工夫した知恵を述べ合う

提案理由に沿って、自分の考えを「わたしは」を主語にして発表し合います。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったこと
などを書き加えるといいですよ。

学級会を開こう

出し合う

比べ合う

まとめる(決める)

チャレンジシート 10 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 10 実践!出された考えを比べ合い、互いの考えを理解し合えるようにしよう

1 賛成意見・反対意見を述べ合う
「出し合う」ステップで出された考えについて賛成意見・反対意見を述べ合い、自分の思いや願いを伝え合います。その話し合いを通して、互いの考えの違いや共通点を明確にします。

- 基本的に見守るスタンスを忘れない!
- 批判合戦にならないように、賛成意見から話すように子どもに伝える。
- 話し合いの雰囲気は大切!笑顔で見守るように心がける!
- 自分の主張ばかりにならないように、反だちの意見のよいところに視点が向くように声かけしよう。
- Mさんの意見に対する発言には特に注意しよう。

• Iさんの意見
→Nさんの意見と合わせると、みんなが納得するものになるのではないかな?
→みんなが気付くように働きかけよう!
(考えの押し付けにならないように、話の流れに注意!)

聞く視点を示すと、子どもの話し合いがそれぞれの意見のよさを生かそうという流れに変わった!→これからも伝えていこう!!

2 少数意見を生かす話し合いをする
少数意見にも十分耳を傾け、それらを生かす工夫はないか考えるようにします。

- Iさんの案に賛成意見が集中
- Nさんの視点も大切にしたい!
- どうしたらよいか?
- Nさんがなぜそう考えたか、思いまで話すように促す。

Nさんの意見だけでなく、その意見に込められた思いまで話すように促したことで、学級のみんがその意見のよさに気付けた!
聞き合う、分り合うって、こういうことかと思った!

3 出された意見をもとに、創意工夫した知恵を述べ合う
提案理由に沿って、自分の考えを「わたしは」を主語にして発表し合います。

- 話し合いの流れによって、折り合いを付けられるように声をかけよう。「提案理由に立ち戻る」「選ぶスタンスだけでなく、合体するのモアリ」
- 教師がしゃべりすぎない!話し合いの流れをしっかり見て、必要なときに声かけしよう!

Nさんの思いを大切にすることで、自然としさんとNさんの意見から新しい意見が生まれた!子どもを信じて任せることって大切。

比べ合う話し合いの例

2) いくつかの意見が出てきたとき

方法① 出ている意見を整理する。

「今、たくさんの意見が出ていますが、これらの意見の中で、まぜたり、くっつけたりできるようなものはないですか?」

「今、△と□と○という意見が出ています。もうすこし、賛成意見や反対意見を出してください!」

方法② どの意見に賛成なのか、立場をはっきりさせる。

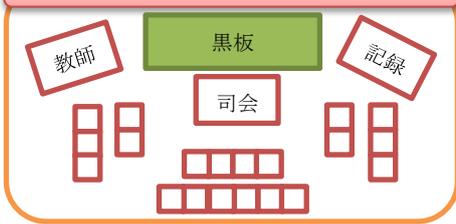
「△と□と○の意見のうち、どの意見に賛成なのか、手をあげてください!」

△の人、
□の人、
○の人、
では、それぞれの立場で賛成や反対の意見を出してください!」

方法③ 自由に討論する。

「では、話し合ってみよう!みんなの意見がどうなるか、自由話し合ってみてください。時間は5分間です。早く始めてください!」

話し合い活動の隊形の工夫の例(コの字型)



近江発!先輩の声7 実践!出された考えを比べ合い、互いの考えを理解し合えるようにしよう

子どもは、自分の意見がみんなに認められるとうれしいものです。また、自分の意見が一番よいと思いついてしまっていることもあるので、周りのみんなを説得しようとしたり、自分と違う意見のあら探しをしたりしてしまうことがあります。これでは話し合いはまとまらず、紛糾してしまいます。そんなとき、そばで見守る教師の支援が必要です。

意見を発表するときには、理由を言ってからするように働きかけます。そして、聞くときには、提案理由に基づいて「相手は何を伝えようとしているのか」「互いの意見のよさを合わせられないか」考えながら聞くように声かけをします。このような姿勢はすぐに身に付くものではありませんが、話し合い活動では必要不可欠になってくるものです。気長に、繰り返し支援していきましょう。

なお、話し合い活動の隊形をコの字型にするなど、子どもがお互いの顔を見て話せるように工夫すると、話し合いがしやすいですよ。

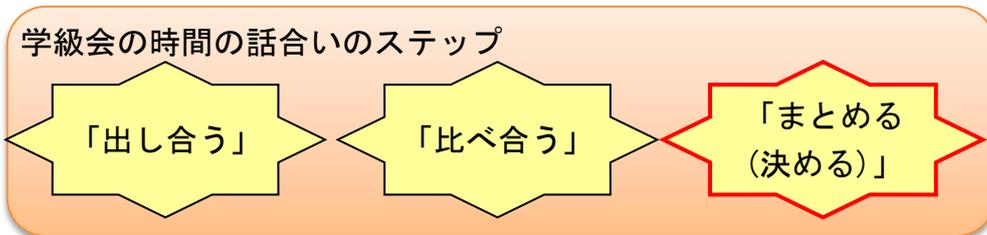
(小学校教員・初任者研修指導員)



ウ 「わたしたち視点」で学級としての意見を集団決定しよう

「比べ合う」ステップでの話し合いで、それぞれの案に対する賛成意見や反対意見を出し合い、互いの考えについての理解が深まったら、次は「まとめる(決める)」ステップです。このステップでは、これまでのステップの話し合いで拡散してきた話し合いを収束し、学級みんなの総意をまとめる(決める)ようにします。

具体的には、提案理由にこめられた願いが実現できるような案を、出されている案の中から選択する話し合いをすることになります。多数意見でまとめていくことが基本になりますが、学級みんなで、自分もよくてみんなもよいと思うことを折り合いを付けて集団決定できるようにしていかなければなりません。そのために「みんなが納得できる案を選ぶ」「条件付きで納得する」ことが必要です。それぞれの子どもが自分の意見に固執しすぎることなく、折り合いを付けて決められるようにすることが大切です。



また、学級みんなで決めたことは、自分の考えと違うところがあっても尊重する姿勢を子どもに育てることは、とても大切なことです。自分たちで決めたからには協力し合って実践するという集団決定の重みを感じられるようにしていきましょう。

「わたしたち視点」で学級としての意見を集団決定しよう(「まとめる(決める)」ステップ)

話し合い(学級会)

話し合いの柱③ どんな係が必要か

折り合いを付ける工夫をする

集団決定する際の配慮

今ココ

まとめる(決める) ← 比べ合う ← 出し合う

長なわ	とびばこハードル走	だんボールだるま落とし	ベツポトルポウリング	ミニつな引き	ぞうきんがけリレー	ホップステップジャンプはばとび	フリスビー的当て
★	★	★	★	★	★	★	★

★…決定
●…賛成 ●…反対

話し合いの柱① 何の種目をするか

フリスビー的当て
ホップステップジャンプはばとび
ぞうきんがけリレー
ミニつな引き
ベツポトルポウリング
だんボールだるま落とし
とびばこハードル走
長なわ

てい案理由

第6回 学級会 議題 学級オリピックをしよう

運動会や音楽会が終わってから、クラスでまとまってきたことがなくなっていると感じています。だから、みんなでアイディアを出し合って、みんなが活かせる学級オリピックをしたいと思っています。そうすれば、一人ひとりの得意なことを生かしたり協力したりすることができて、クラスがまたまとまってもっと楽しくなると思っています。てい案しました。

＜「集団活動や体験活動を充実させるための学級活動指導資料」(平成27年、滋賀県教育委員会)をもとに作成＞



実践！「わたしたち視点」で学級としての意見を集団決定しよう

1 折り合いを付ける工夫をする
 自分もよくてみんなもよいと思うことを折り合いを付け、「わたしたち視点」で集団決定できるように、一人ひとりの子どもが集団の一員として考えられるようにします。

「まとめる(決める)」ステップに入るときに、司会が学級全員に「これまでの話し合いをまとめます。クラスのためによりよいと思うものに意見をください」などと伝えます。そのことで、「わたしは」という個人的思考から、「わたしたちは」という集団の一員としての思考に切り替えられるようにします。

- ・折り合いを付けて集団決定した案は、学級全員で実行していく、子どもにとって重要なものです。集団決定するときに、次の三つの条件が満たされているか確認し、必要があれば指導・助言するようにしましょう。
- ・「まとめる(決める)」ステップは、多数意見でまとめていくことが基本ですが、「数の論理」だけで決めてしまっただけでは、納得できない子どもが出てきます。それぞれの意見を比べ合いながら折り合いを付けていくことが大切です。話し合いの流れによって、臨機応変に「選ぶ」のか、「合わせる」のか、「すでに出されている案の問題を解決する」のか、「新しい案を創造する」のかなどを、考えていく必要があります。

**折り合いを付けて
集団決定するための三つの条件**

- ①「何のためにお楽しみ会などの集会活動をするのか」などといった理由が明確で、提案理由が集団決定するための根拠になっている。
- ②集団決定するための条件が明らかになっている。→「いつ、どこで、何を、どのようにするか」
- ③子どもが「まとめる(決める)」までの道筋をイメージでき、自分の考えを持つことができる。

必要に応じて、提案理由を確認しましょう！

必要に応じて、条件を確認しましょう！

必要に応じて、これまでの話し合いの道筋を確認しましょう！

「わたしたち視点」で集団決定できるようにするために

臨機応変に話し合いに合わせ

みんなが

- それぞれの意見を合わせる。
- いくつかの意見のよいところを取り入れながら、新しい考えをつくる。
- それぞれを縮小して全部行う。
- 優先順位を付けて上位の考えに決める(次回はAをすることにして、今回はBをすることにするなど)。

一人ひとりが

- 「わたしたち視点」で考え、友だちの考えのよさに気付いたら、自分の考えを変え、異なる意見に賛成する。
- 条件を付けて賛成する。

低学年…集団決定の方向性を教師が中心になって決める。
 中学年…教師の指導・助言を聞きながら、司会の子を中心にして子どもが集団決定の方向性を決める。
 高学年…司会の子を中心にして、子どもが集団決定の方向性を決める。教師は必要に応じて指導・助言する。

こんなときは、教師の出番です！



どうしても折り合いが付かず、話し合いの方向性が見出せないとき

- ・提案理由と照らし合わせてそれぞれの意見のよさを整理し、まとめていく方向性を子どもの実態に合わせて示すようにしましょう。

2 集団決定する際の配慮
 一人ひとりを大切にできる人間関係を築けるような配慮をします。

- ・集団決定するためには、自分の意見に固執せず、「わたしたち視点」で考えること、また、自分が反対していたことでも決まったことには気持ちよく協力し合って実践することが大切であることを理解させておくようにします。
- ・意見が対立している場合、「意見が出尽くしたので、そろそろ決めてもよいですか」などと、同意を得てから集団決定します。
- ・自分の意見に決まらなかった子どもには、「よく考えて、意見を出してくれてありがとう。おかげでよい決定ができたね」などと声かけし、認めるようにします。
- ・1時間の学級会で、話し合いを踏まえた集団決定ができるようにしましょう。時間内に学級みんなの総意をまとめ、事後の活動への展望が持てるようにすることは、子どもの意欲向上につながります。

学級会を開こう

出し合う

比べ合う

まとめる(決める)

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート11 実践！「わたしたち視点」で
学級としての意見を集団決定しよう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

折り合いを付ける工夫をする

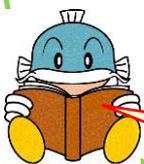
自分もよくてみんなもよいと思うことを折り合いを付け、「わたしたち視点」で集団決定できるように、一人ひとりの子どもが集団の一員として考えられるようにします。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

集団決定する際の配慮

一人ひとりを大切にする人間関係を築けるような配慮をします。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級会を開こう

出し合う

比べ合う

まとめる(決める)

チャレンジシート 11 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート11 実践!「わたしたち視点」で
学級としての意見を集団決定しよう

集団決定する
話し合いの例

1 折り合いを付ける工夫をする
自分もよくてみんなもよいと思うことを折り合いを付け、「わたしたち視点」で集団決定できるように、一人ひとりの子どもが集団の一員として考えられるようにします。

- ・集団決定する前に、「みんなで決めたからには、決定したことに協力して取り組む」ことを全体で確認する。
- ・Oさんは、自分の思い通りにならないことがあるから、学級会の前に、あらかじめこのことを話しておこう。
- ・折り合いを付けて集団決定するための三つの条件を確認する。
- ・話し合いの流れによって、集団決定の仕方を臨機応変に考える。決めるときにみんなが納得できるように、少数意見を大切にするように心がけよう。

- ・Oさんに伝えたら「分かっている」と言っていた。成長を感じるなあ。
- ・今日の話し合いの流れなら、「LさんとNさんの意見を合わせる」になりそうだ。
- ・「役割分担はどうするか」をもう少しくわしく決めた方がよい。この部分は、明日の朝の会でもう少し話し合うことを全体の場で確認!

今日の集団決定は、話し合いの流れに沿ってスムーズに進められた。子ども中心で決められた。子どもってすごい!
今日の様子から、みんながよいように集団決定するためには、それまでの話し合いを集団決定のことを考えて見守ることが大切だと分かった。
事前に集団決定の方針を伝えておくと、後から不平不満が出てきにくいなあ。これからも続けていこう。

2 集団決定する際の配慮
一人ひとりを大切に人間関係を築けるような配慮をします。

- ・自分だけが楽しむのではなく、自分もみんなも楽しめるようにすることを伝える。
- ・「反打ちが楽しそうにしていると、うれしくなるね」と伝える。

Mさんやその周りの友だちの様子を、気を付けてみていかねば!

3) 意見がまとまりかけてきたとき

方法① まとまってきた意見を取り上げて、全体に伝え直す。
「△の意見でまとまってきたようですが、△のようにしてもいいですが、(反対がなければ)では、△に決まりました。」

方法② 少ない意見の人に言い直す。
「□の意見は、少ないようですが、どうですか。△さん、どうですか。」
・まだ反対なら、むりに決めないで、その人が納得できるように話し合いましょう。

4) 意見がまとまらないとき

方法① それぞれの意見の良いところを確かめる。
「△の意見の良いところは、△△△△で、□の意見の良いところは□□□□ですが、その他に、良いところはありませんか。」

方法② 意見の良いところを合わせられないか 言い直す。
「△の意見と□の意見の良いところをうまく合わせて、もっと良いものにしたいのですが、何かいい考えはありませんか。」

方法③ 良いところを合わせるための 考える時間を取る。
「それぞれの 良いところを合わせるために、〇人組で、良い考えを出し合います。」

近江発!先輩の声8 実践!「わたしたち視点」で
学級としての意見を集団決定しよう

集団決定するときには、提案理由に立ち戻り、集団決定される意見がよりよい学級の実現につながるのか考える必要があります。各意見のよいところを取り入れて創り出した新たな意見に、全員が賛成するなどして決められるとよいのですが、満場一致で決定というのは難しいことが多いです。時間内に集団決定するため、最終的に多数決をすることがありますが、そのときに気を付けないといけないのは、十分に意見を交し合った末の多数決であることと、少数意見が大切にされていたかということです。

それらが意識されないまま、多数決での意思決定が続くと、話し合う前から、少数意見の子どもは話し合いに臨む意欲がなくなりますし、妥協やあきらめによる意思決定では、その後の活動へのモチベーションも下がり、協力も得にくくなります。

集団決定した後の、「学級会の終末の話」は、教師の大切な役割です。今後の活動に前向きに取り組めるように、みんなで集団決定できたことをほめ、これまでの学級会と比べてよかったことを伝えましょう(提案理由を意識できた、賛成・反対の理由を明らかにできた、聞く姿勢がよかった、各意見のよさを生かそうとしていたなど)。また、次回の学級会をさらによくする視点も伝えられるとよいでしょう。

なお、決定したものには★などの印を付けると、どの意見に決まったかが分かりやすくなりますよ。

(小学校教員・初任者研修指導員)

学級会で集団決定したことに基づき、事後の活動をしよう

話し合ったことの確認

協力して準備・実践

活動の振り返り



学級会で集団決定したことに基づき、事後の活動をしよう

(7) 事後指導！学級で集団決定したことを、学級のみinnで取り組み、「学級をよりよくする花」を咲かせよう

これまで、学級会を開く準備をして、学級会で話し合いを行いました。ここからは、話し合いで集団決定したことに基づいて、事後の活動をしていきましょう。事後の活動には、学級会で決まったことをそのまま生活の中で生かすことや、集会を1時間かけて行うことなどがあります。例えば、通学班の問題を解決する話し合い活動をした場合は、学級会で決まったことをそのまま生活の中で生かすことが考えられます。お楽しみ会などの集会活動をする場合は、学級会で決定したことを基に、集会活動に向けて協力して準備・実践していきます。ここでは、学級会での集会活動について説明していきます。

学級活動として行う集会活動は、休み時間の遊びとは違います。ただ楽しいことをやればよいというわけではありません。学級会に議題が出されたときの提案理由に込められた思いを実現し、子ども自らの手で自分たちの学級や学校の生活をより楽しくするような集会活動にしていく必要があります。そのために、「何のためにお楽しみ会などの集会活動をするのか」などといった集会活動のねらいを明確化し、活動の見通しが持てるように、学級会で話し合ったことを確認します。

学級会で話し合ったことを確認したら協力して準備し、集会活動を実践します。実践後、感想を発表し合ったり、振り返りカードに書いたりして、実践したことや次に生かしたいことなどの振り返りを行い、互いのよさやがんばりを認め合えるようにします。このような集会活動を通して、次のような自主的実践的な態度を育てます。

- 自分たちで見通しを持って計画を立て、仲間と協力して実践する
- 集団の一員であることを意識して、責任を持って行動する
- 全員が参加し、集会活動の内容を創意工夫する

学級で集団決定したことを、学級のみinnで取り組み、「学級をよりよくする花」を咲かせる指導の流れ

話し合った
ことの確認

協力して
準備・実践

一連の活動
の振り返り

ねらいの
明確化

活動の
見通し

全員で
役割分担

様々な
集会活動

学級会で集団決定したに基づき、事後の活動をしよう

話し合ったことの確認

協力して準備・実践

活動の振り返り

実践！学級で集団決定したことを、学級のみんなで取り組み、「学級をよりよくする花」を咲かせよう

1 話し合ったことの確認

学級会で決まったことを確認してねらいを明確化し、活動の見通しが持てるようにします。

学級会が終わってからなるべく早いタイミング(その日の帰りの会や次の日の朝の会など)で、決まったことを確認します。学級会で集団決定した内容は、学級みんなの総意であり、反対していた人を含めて、全員の考えを踏まえた内容であることを確認しておきましょう。全員が集団決定に参加したことを認め、話し合いで取り上げられなかったことについてはどのようにするか、確かめておきます。

ねらいの明確化

・何を目標として行うのかを意識するために、提案理由を確認します。

活動の見通し

・集会活動の準備から振り返りまでの手順を明確にすることで、子どもの自発的、自治的な活動を促します。

- (1) 話し合ったことを基に活動計画を立案
- (2) 活動計画に沿って、活動に必要な係を設置
- (3) 係の仕事を学級全員で分担
- (4) 活動に必要な用具などを準備
- (5) 活動計画に従って集会を行い、活動後は後片付けを全員で実施
- (6) 活動の振り返り

2 協力して準備・実践

全員で役割分担し、協力して集会活動を準備・実践します。

全員で役割分担

・集会活動では、全員で役割を受け持って誰もが何らかの形で貢献できるようにし、責任感や満足感が得られるようにします。

低学年…実態に合わせて、役割分担を、教師中心に行います。一人一役などが考えられます。

中・高学年…実態に合わせて、子どもと相談しながら係や班ごとに役割分担することなどが考えられます。

全員で役割分担

子どもが協力しているような役割を経験できるように、できるだけ希望を生かすようにしましょう。

活動計画、役割分担の例

学級の人間関係を育てる集会活動	
集会名	学級オリンピック！得意なことをいかしてまとも大会！！
めあて	一人ひとりの得意なことを生かしたり、グループで協力して種目に取り組んだりして、もっと仲良くなる
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・班で種目の練習をする。 ・班で分担して、使うグッズの準備をする。(賞状、メダル、つな、ペットボトルで作ったボウリングのピン、長なわ) ・各自で準備するもの(ぞうさん)
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 始めの言葉 2 ルールの確認 3 競技 <ul style="list-style-type: none"> ・ぞうさんがけり ・ミニつな引き ・ペットボトルボウリング ・長なわ 4 結果発表・表しよう 5 感想の発表 6 先生の話 7 終わりの言葉
必要な係	学級オリンピックの司会係、賞状係、メダル係、ペットボトルでボウリングのピンを作る係 →つなと長なわは、先生に準備してもらう
係でたてた準備スケジュール	メダル係 メンバー() 月曜日() 火曜日()

全体の流れがイメージできる

必要な役割を全員で分担

様々な集会活動

集会活動には次のようなものも考えられます。学級の実態に合わせて取り組んでみましょう。

- お楽しみ会的な集会活動
お誕生日会、ゲーム大会
- スポーツ的な集会活動
ドッジボール大会、ミニ運動会
- 季節に関する集会活動
笹の葉集会、豆まき集会、カルタ集会
- 文化的な集会活動
学級音楽会、学級読書集会、グループ新聞コンクール、劇の発表会

3 一連の活動の振り返り

話し合い、準備、集会活動など全体について振り返ります。

- ・実践後、感想を発表し合ったり、振り返りカードに書いたりして、実践したことや反省すべき点などについて振り返り、互いのよさやがんばりを認め合うようにします。
- ・自己評価は、学級会で出された提案理由や集会活動のめあてに沿って行います。例えば、「この集会活動のねらいが達成できたか」「自分はどのように取り組んだか」について振り返ります。振り返りを重視することで、「計画を立てる→実行する→振り返る→次の活動に生かす」というサイクルをつくることができます。

何のためにするのか分かる

学級会で集団決定したに基づき、事後の活動をしよう

話し合ったことの確認

協力して準備・実践

活動の振り返り

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート 12 実践！学級で集団決定したことを、学級のみinnで取り組み、「学級をよりよくする花」を咲かせよう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1 話し合ったことの確認

学級会で決まったことを確認してねらいを明確化し、活動の見通しが持てるようにします。

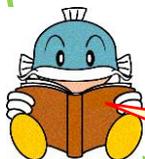
先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2 協力して準備・実践

全員で役割分担し、協力して集会活動を準備・実践します。

3 一連の活動の振り返り

話し合い、準備、集会活動など全体について振り返ります。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級会で集団決定したに基づき、事後の活動をしよう

話し合ったことの確認	協力して準備・実践	活動の振り返り
------------	-----------	---------

チャレンジシート 12 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 12 実践！学級で集団決定したことを、学級のみんなで取り組み、「学級をよりよくする花」を咲かせよう

1 話し合ったことの確認
学級会で決まったことを確認してねらいを明確化し、活動の見通しが持てるようにします。

- ・話し合ったことの確認を計画委員会の子がした後、「みんなで見えを出し合って、全員で決めたことだから、協力して取り組もう」と声かけをしておこう。
 - ・提案理由は必ず押さえる！
 - ・話し合ったことの確認が終わったら、「役割分担はどうするか」の部分を確認し合う。
- ・Oさん
→やや不満そう。後で個別に話そう。
 - ・必要な係(子どもから出てきたもの)
→進行係、飾り係、手紙係、プレゼント係
- 子どもみんなに必要な係を考えることができた！
- 分担したことをもとに、活動計画をしよう。
Oさんに話を聞いたら、「協力してがんばる」と言っていた。これからの様子も、引き続き見ていこう。準備の間も、まめに声をかけたい。

2 協力して準備・実践
全員で役割分担し、協力して集会活動を準備・実践します。

- ・進行係と全体の流れを考える！
 - ・明日の朝の会での必要な係の役割分担
→それぞれのよさが生きるように決めていきたい。
- 必要なのは、スムーズに決めることができた。ただ、飾り係になった4班は、活動の中心になって取り組むのが得意な子がいないので、フォローしていこう。
- 子どもが自主的に取り組めるようにするため、見守るスタンスを大切に、必要なときだけ支援していくことを忘れない！
- 進行係は、Pさん中心に活動が進みそう。決まった全体の流れは、朝の会などで、みんな確認してから話を進めるようにしよう。

子どもの話合いで決めた、係の分担 ※分担は、班ごとにすることに決定

- ・進行係 → 2班
- ・飾り係 → 4班
- ・手紙係 → 3班
- ・プレゼント係 → 1班

とっても心が温まる「Aさんとの思い出を作ろう会」だった！学級のみんなの心が一つになったと感じられた！！感激！！みんながどんな振り返りをするのか、とっても楽しみ。

3 一連の活動の振り返り
話合い、準備、集会活動など全体について振り返ります。

みんなの振り返りを読んで、学級会に取り組んでよかったと思った。Oさん、Nさんの振り返りは、みんなにも紹介したいな。明日の朝の会に時間をとろう。学級通信で紹介して、おうちの人にも学級会のこと、子どもの思いを知ってもらおう。

決まった内容をおうちの人に知らせる学級通信の例

学級会で決まったこと

テーマ 月曜日のそうじのしかたについて

○教室そうじ……机を移動させずに、ほうきとごみ拾いをする。

○ろうか・階段そうじ
……ほうきはいつもどおりで、そうじは水ぶきはせずにからぶきにする。

○トイレそうじ……いつもと同じようにする。

○音楽室そうじ……いつもと同じようにする。

近江発！先輩の声9 実践！学級で集団決定したことを、学級のみんなで取り組み、「学級をよりよくする花」を咲かせよう

各教科等の指導や行事など、学校では忙しい日が続きますが、学級会で決定したことは、あまり日を空けず、必ず実践するようにしましょう。自分たちで考えて決めたことだからこそ、やりきったときの充実感もひとしおです。

実践した後は、必ず振り返りをしましょう。自分たちで考えた取組がうまくいった場合であっても、課題が見つかった場合であっても、それらの原因を振り返ることで次の取組に生かすことができます。特に、課題点からも多くの学びがあることを、子どもが体験を通して学べるようにすることで、失敗を恐れずに取り組む大切さを学級に広めることができます。

(小学校教員・初任者研修指導員)

ここまで、学級会で話し合い、集団決定したことを実践してきました。学級の子どものことを思い描いて、具体的な取組を考えてこられたと思います。その中で目や耳にした先輩の先生の取組や話を自分でまとめておくと、今後の実践に必ず役立ちます。聞いた話をまとめたり、先輩の先生が実践されたときのグッズやワークシートなどを写真や絵などにして記録したりしておきましょう。きっとあなたの財産になりますよ！

つくろう！
自分の財産

学級会での話し合い、集団決定の実践での
先輩の先生の取組や話をまとめておこう

聞いた話を自分で
まとめて！

絵や写真などで
記録して！

アンケート調査より 11

「学級経営で大切にしたいキーワード」 ～2年目の先生より

- 子どもたちとの信頼関係。これに尽きると思います。
(2年担任・男性)
- 主役は子どもたち、教師は支え役。
(4年担任・男性)
- 子ども主体、やってみたい気持ちを応援、任せる(子どもに)
(4年担任・女性)
- 「子どもをのせる」、どんな言葉をかければ、子どもたちが主体的に学級をよくしていこうとするかを大切にしています。
(3年担任・男性)
- お互いが認め合う。学級の問題はみんなで解決する。
(2年担任・女性)
- 困ったこと、悩んだことがあれば、友だち同士で声をかけ合える雰囲気を作りましょう！常にポジティブな言葉を口にしましょう！
(3年担任・女性)
- 見通しを持って、余裕を持って。子どもたちの思いを大切に。
(2年担任・女性)
- 「自分で考える」を子どもたちにはずっと言い続けていたので、教師自身はそれを「待つ」ことが大切だと思います。そして、できたときは「何がどうよくなったか振り返ってほめる」ことも大切にしました。
(4年担任・女性)
- 学級目標を大切にできるようにしたいです。最初に決めた、学級の気持ちをいつも思い出します。
(1年担任・女性)
- 子どもをよく見て理解しようとするのが一番大切だと思いました。また、自分自身が見本となる行動をとることもとても大切だと思いました。
(2年担任・女性)
- 大切にしたいことは、4月に徹底して言い続けること。後から言っても無理なことがあります。あと、教師がブレると一気に崩れることがあります。
(4年担任・女性)
- 変わろうと思っているだけでは変われません。行動に移すことが大切です。
(4年担任・女性)

〈平成27年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

※学年は初任時のもの

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める

2 「学級活動(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」に取り組もう



学級活動(2)の準備をしよう

(1) 学校の年間指導計画を基に、学級の児童の実態に合った指導をしよう

皆さんは、学級の子どもが問題行動を起こして、その対応に困ったことはありませんか。21 ページの第1章-4(3)『学級活動(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全』ってなあに?」で述べたように、問題行動を減らすためには、起こってしまったことに対応するだけでなく、自己指導能力「その時、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力」(坂本昇一、「生徒指導の機能と方法」、H2)を高めていかなければなりません。例えば、次のような場面を考えてみましょう。



㊤、㊦を比べると、㊤の子どもの方が、自己指導能力が育っていると考えられます。学級活動(2)では、学習指導要領に示された七つの共通事項について、子どもが自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるようにして、自己指導能力を育てます。

学級活動(2)に取り組む前に、学校で作成されている年間指導計画を確認しましょう。年間指導計画は、学校の実態や子どもの発達段階、学習指導要領を踏まえて作成されています。その内容を基に、学級の子どもの様子に合わせて指導していくようにします。

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める



実践！学校の年間指導計画を基に、学級の児童の実態に合った指導をしよう

1 学校の年間指導計画を確認する

年間指導計画を確認し、学校でどのような子どもを育てようとしているのか、どのような指導を系統的に行おうとしているのか確認します。

学校によって様式は違うと思いますが、年間指導計画は学校の実態や子どもの発達段階、学習指導要領を踏まえて作成されています。年間指導計画を見て、学校全体でどのような子どもを育てようとしているのか、自分の担当する学年の指導内容、その全体の中での位置付けを確認しましょう。

年間指導計画の例

学年目標		基本的な生活習慣・友情・規則尊重・公德心		
目指す子どもの姿	●経験を通して学び、振り返ることで、次の活動につないでいける子ども ●学級の話合いを通して、相手の立場に立ち、集団で決定できる子ども			
月	学級活動	重点化を図る体験活動	体験活動を生かす道徳の時間	
4月	(1)学級や学校の生活づくり ※予想される議題(例) ○係活動を考えよう	(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全 ○3年生になって ア ○当番活動を見直し エ ○図書室の使い方 オ	体験活動と道徳の関連	
5月	○学級で仲よくなる遊びを考えよう ○学級の歌を決めよう	○あったかことば ウ	・郷土の自然学習【3-(2)】	・はじめの尾瀬で【3-(2)】自然愛・動植物愛護
6月	○プール開きの内容を考えよう ・計画と役割を考えよう ・準備をしよう ○雨の日の過ごし方考えよう ○お楽しみ会をしよう ・計画を立て、役割を決めよう ・活動して、振り返ろう	○夏休みの生活について イ	・児童集会【2-(3)】 ・プール開き【2-(2)】	・友だち屋【2-(3)】友情 ・おじさんの顔【2-(2)】親切
7月				・ブラッドレーのせいきゅう書【4-(3)】家族愛

学校での目標、それぞれの学年の目標や取組を見て、全体の中での位置付けを確認しておきましょう。

どのような子どもを育てようとしているか確認しましょう。

各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などと、どのように関連しているか確認しましょう。

＜「集団活動や体験活動を充実させるための学級活動指導資料」(平成27年、滋賀県教育委員会)をもとに作成＞

2 学級の子どもの様子や発達段階に合わせて指導する

年間指導計画を基に、指導する内容を学級の子どもに合わせて具体的に決めます。

授業の展開例

3学年 「あったかことば」の例
指導のねらい
普段何気なく使っている言葉が人間関係や集団の雰囲気に影響を与えることに気付き、相手の立場を考えた言葉遣いをすることができる。

本時の展開例	子どもの活動	指導上の留意点	資料	目指す子どもの姿と評価方法
導入	1 学級でとったアンケートを基に、言われてうれしい言葉がたくさんあることを知る。	・言われてうれしい言葉があり、それらの言葉をかけあうことで学級の雰囲気や人間関係がよくなっていることに気付くようにする。	アンケート	【思考・判断・実践】 ・友だちの意見を参考にしながら、言葉遣いについて考え、どのように自分の生活に生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。(がんばるぞカード・観察)
展開	2 言われてうれしい言葉と同時に、言われて嫌な言葉もあることに気付く。 3 なぜ言われて嫌な言葉を言ってしまうのか、原因を考える。	・言われて嫌な言葉を言ってしまう原因を探る。		
終末	4 みんなで話し合い、どうすれば言われてうれしい言葉をたくさん使えるか考える。 5 自分の課題に合った「自分ががんばること」を決める。 6 互いに「自分ががんばること」を発表し合う。	・様々な解決方法が出し合えるようにする。 ・自分の課題を確認できるようにし、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な自己決定ができるようにする。 ・互いのがんばりについて励まし合えるようにする。	がんばるぞカード	

年間指導計画に即して題材設定します。

子どもの実態を的確につかみ、指導するねらい・目指す姿を明確にします。

中心となる問題点・指導内容・展開の方法を明確にします。

指導のねらい、子どもの実態にあった資料を選びます。

子どもが自分に合った個人目標を自己決定できるようにします。

子どもの実態をつかむ視点
★問題はどの程度か
★問題を起こす原因は何か
★問題はどんなとき、どこで起こるのか

＜「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成26年、国立教育政策研究所)の授業の展開過程例をもとに作成＞

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート 13 実践！学校の年間指導計画を基に、
学級の児童の実態に合った指導をしよう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

学校の年間指導計画を確認する

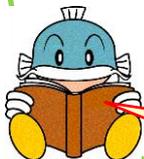
年間指導計画を確認し、学校でどのような子どもを育てようとしているのか、どのような指導を系統的に行おうとしているのか確認します。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

学級の子どもの様子や発達段階に合わせて指導する

年間指導計画を基に、指導する内容を学級の子どもに合わせて具体的に決めます。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める

チャレンジシート 13 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 13 実践！学校の年間指導計画を基に、
学級の児童の実態に合った指導をしよう

1 学校の年間指導計画を確認する

年間指導計画を確認し、学校でどのような子どもを育てようとしているのか、
どのような指導を系統的に行おうとしているのか確認します。

- ・年間指導計画を見て、自分の担任する学年の指導内容を確認して、1年間の見直しを持つようにしよう。
- ・1学期分はメモに書き出しておこう。
- ・学活と道徳の関連は、特に意識して確認しよう。

学級活動(1)
ブール開きと道徳の「○○○
○○」は関連が示されているから、そのことを道徳の終末の話でしよう。

学級活動(2)
4月→ア 5年生になって
ア 自分で学ぶ自主学习
5月→エ 当番の仕事

学校の年間指導計画を確認して、学級活動で育てる子どもの姿が、学校目標とつながっていることに気付いた。
学活は、子どもの学校生活に直接つながるので、学活(2)で指導するときには、子どもの具体的な姿を意識しながら取り組もう。

2 学級の子どもの様子や発達段階に合わせて指導する

年間指導計画を基に、指導する内容を学級の子どものに合わせて具体的に決めます。

「自分で学ぶ自主学习」
学級の子どもの様子を見てみると、宿題以外の学習に取り組めていない子が多いように感じる。だから、みんなが目標を持って、進んで自主学习に取り組もうと思えるような時間にしたい。

学級活動(2)では、個人目標を子どもが自分で決めることが大切だから、解決方法を考えるだけで終わらず、決定するところまでやりたい。

授業後の振り返り
子どもとのやりとりの中で、解決策としては、「取り組む時間を決める」「取り組む問題数を決める」「計画を立てる」「興味のあることを追求する」が出た。

子どもがより課題をつかみ、参考にすることができるようにするために、次回は6年生がどのように自主学习に取り組んでいるか聞いてみるとよいと思った。

近江発！先輩の声 10 実践！学校の年間指導計画を基に、
学級の児童の実態に合った指導をしよう

みなさんの学校の年間指導計画では、学級活動(1)と学級活動(2)の内容に割り当てられている時間数はどうなっているのでしょうか。低学年では学級活動(2)の内容の時間の割合が高く、学年が上がるごとに学級活動(1)の内容の割合が高くなっているのではないのでしょうか。それは、低学年は学級や学校生活への適応ということが大きな目的となり、高学年では、自治的活動を行う中で、集団としての結びつきの大切さを感じたり、子どもそれぞれが集団の中での自己の在り方を考えたりすることが大切だからだと思います。子どもの発達段階によって、大切になることは変わっていきますよね。

ぜひ、みなさんも学校の年間指導計画を見直してください。いろんな発見があります。見ているうちに、「養護教諭の先生に来てもらって、お話してもらおう！」などのアイデアが浮かぶかもしれませんよ。

(小学校教員・初任者研修指導員)

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める



(2) 問題を「自分ごと」としてとらえられるように事前指導しよう

学校の年間指導計画を確認し、指導する内容を学級の子どもに合わせて具体的に決めたら、問題にしようとする事柄に子どもが目を向けて問題意識を持ち、そのことが自分にとっても課題になるととらえられるように、事前指導をします。

事前指導する前には、教師が年間指導計画の内容を子どもの実態に即した内容にするため、指導構想を持っておかなければなりません。80 ページでは、年間指導計画の例の5月部分にある「あったかことば」という題材を取り上げて、授業の展開例を示しています。この場合は、学級の子どもが互いにどのような言葉かけをしているか、それが学級集団の雰囲気にもどのように影響しているかを把握し、具体的な取り上げ方を考えていく必要があります。

具体的な取り上げ方が考えられたら、事前指導を行いましょう。本時を実施する前に題材を提示したり、アンケートなどの事前調査を行ったりして問題意識を高め、問題を「自分ごと」としてとらえられるようにしてから、本時を迎えられるようにしまししょう。

問題を「自分ごと」としてとらえられる
ようにするための指導の流れ

事前の題
材提示

事前調査
の実施

アンケート

インタビュー

映像や写真、
音声による記録

本やインター
ネットで調べる

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める

実践！問題を「自分ごと」としてとらえられるように事前指導しよう

1 事前の題材提示

事前に題材を提示して、問題にしようとする事柄に子どもが目を向け、問題意識を持ち、そのことが自分にとっても課題になるととらえられるようにします。

朝の会などで事前に題材を提示し、子どもの問題意識を高めるようにします。提示するときには、「今度の学活の時間に〇〇について話し合います」のように、単に次時の連絡のような形で済まさないように気を付けましょう。学級の子どもの生活と関連付けながら問いかけて考えさせるようにし、学習への関心を高めて本時に臨むことができるようにします。



2 事前調査の実施

題材についての学級の子どもの実態を知り、指導に生かします。

題材についての事前調査を行うことで、「このことについてみんなはどう思っているのか。どうしているのか」という関心を高めることができます。もちろん、題材や学級の実態によって、どのような事前調査が有効なのかは変わってきます。事前調査の例を紹介するので、子どもの様子を見て、やり方を考えてみましょう。いずれの方法でも、その結果を発表することによって、傷つく子はいないか、子どもの人間関係に悪い影響はないか配慮する必要があります。

アンケート

- ・アンケートを学級の子ども全員に実施し、**題材についての意識を調査**します。
- ・選択肢方式(2段階例：はい・いいえ、4段階例：そう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・そう思わない)で行うと、子どもの意識の傾向がまとめやすいです。
- ・記述方式だと、一人ひとりの思いを詳しく知ることができます。選択肢方式と記述方式を組み合わせることも考えられます。

インタビュー

- ・内容によっては、保護者などに協力を得ることも考えられます。
- ・回答者の思いや考えを詳しく調査することができ、内容によってはアンケートと併用することも考えられます。

映像や写真、音声による記録

- ・視覚的・聴覚的に実態を客観的に知ることができます。

本やインターネットで調べる

- ・一般的にどうなのかを提示し、学級の様子などと比較して考えることができます。

アンケートの例

学きゅう活どう「あったかことば」アンケート

3年 組 ()

★自分のことをふりかえりましょう。 当てはまるところに〇をつけましょう

① 友だちがいやなことばを言われたことがありますか。(よくある・たまにある・ほとんどない・ない)
・言われたとき、どんな気持ちになりますか。

② 友だちに「あったかことば」を言われたことがありますか。(はい・いいえ)
・言われたとき、どんな気持ちになりますか。

・友だちに言われた「あったかことば」を教えてください。

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート 14 実践！問題を「自分ごと」として
とらえられるように事前指導しよう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

事前の題材提示

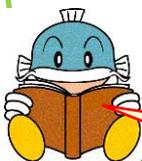
事前に題材を提示して、問題にしようとする事柄に子どもが目を向け、問題意識を持ち、そのことが自分にとっても課題になるととらえられるようにします。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

事前調査の実施

題材についての学級の子どもの実態を知り、指導に生かします。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級活動(2)の準備をしよう

年間指導計画の確認

問題意識を高める

チャレンジシート 14 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 14 実践！問題を「自分ごと」として
とらえられるように事前指導しよう

1 事前の題材提示

事前に題材を提示して、問題にしようとする事柄に子どもが目を向け、問題意識を持ち、そのことが自分にとっても課題になるととらえられるようにします。

「自分で学ぶ自主学習」
 ・次の月曜日の朝の会で提示する。
 ・「みんな、おうちに帰ってからは、どのように過ごしているかな？」と問いかけてみよう。
 ・だれかが家庭学習のことを話してくれたら、それをきっかけにして、アンケート調査することを話そう。

Aさんが、「5年生になってから□□に興味が出てきたから、そのことを調べてまとめている」って話してくれた。そのことから、家庭でどのような学習を、どれぐらいしているかが話題になった。やっぱり、教師から話題を一方的に与えるより、子どもが考えていることから話題が広がるほうが、みんな乗ってくるなあ。

2 事前調査の実施

題材についての学級の子どもの実態を知り、指導に生かします。

「自分で学ぶ自主学習」
 アンケートでは、みんながどのような自主学習に取り組んでいるか、どれぐらいの時間取り組んでいるかを聞いてみよう。
 学級のみんなの自主学習の様子が分かれば、目標が考えやすくなるはず！

アンケート結果
 「どんな自主学習に取り組んでいるか」
 1位…学校で習ったことの復習
 2位…自分が興味あることを調べる
 3位…明日学校で習うことの予習
 4位…習い事の勉強

「どれぐらいの時間、自主学習に取り組んでいるか」
 1位…30分
 2位…15分
 3位…45分
 4位…していない

アンケートから、復習に取り組んでいる子が多いことが分かった。また、自主学習をしていない子が多いのも分かったので、そういった子が「自分もやってみよう」と思えるようにしたいな。

授業後

アンケート結果とともに、インタビューを子どもにとっておくと、さらにイメージしやすくなることが分かった！

近江発！先輩の声 11 実践！問題を「自分ごと」として
とらえられるように事前指導しよう

学校生活を送る中で起こる友人関係上のトラブルや、掃除や当番などの取り組み方について指導する機会はよくあると思います。そんなとき、みなさんは指導内容が学級全体に問い返せるものかどうかを考えているでしょうか。学級活動(2)には「ウ 望ましい人間関係の形成」「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」などの項目があり、計画的に全体指導することができます。

他人事としてとらえさせないようにするために、子どもの学校生活の中から具体的な姿をとらえて紹介し、「〇年生の姿としてどう思うか」「学級のみんなはどう思うか」など、内容に応じて学級全体に問い返すことが必要ではないかと思います。

子どもの「このことは、自分に関わっている」という意識を高めることで、「〇〇していこう」といった目標を持てるようにしたいものです。

(小学校教員・初任者研修指導員)



実践！子どもが課題をつかめるようにしよう

1 問題意識を高める資料の提示
 子ども一人ひとりが自分の問題としてとらえられるように資料を提示します。

「それは自分には関係ない」「できていない人がやればいい」というように、取り上げようとしている事柄を他人事としてとらえるのではなく、「これは自分にも起こりそうな問題だ」というように「自分ごと」としてとらえられるようにすることが大切です。そこで、題材や学級の実態に合わせて行った事前調査の結果をまとめ、資料として提示します。アンケートの結果、実物や写真などを活用することは、子どもの問題意識を高めるのに有効です。

アンケートの結果をまとめる

- ・ 事前に学級全員にとったアンケートの結果を、グラフにまとめたり、表に整理したりして提示します。

映像や写真を活用して提示する

- ・ 事前に日常生活における子どもの様子を写真や動画、音声などで記録し、提示します。
- ・ 低学年では、紙芝居やペープサートをを用いることも考えられます。

手紙や作文の紹介

- ・ 題材についての子どもの気付きや思いを作文などから紹介したり、保護者など周囲の大人の願いを手紙にして読んだりすることもできます。

アンケートの結果をまとめた例

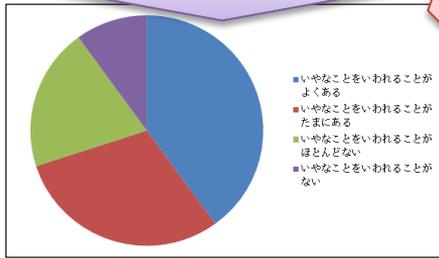
学級活動「あったかことば」アンケート
3年 組 ()

★自分のことをふりかえりましょう。 当てはまるところに○をつけましょう

① 友だちにいやなことばを言われたことがありますか。(よくある・たまにある・ほとんどない・ない)
 ・言われたとき、どんな気持ちになりますか。

② 友だちに「あったかことば」を言われたことがありますか。(はい・いいえ)
 ・言われたとき、どんな気持ちになりますか。

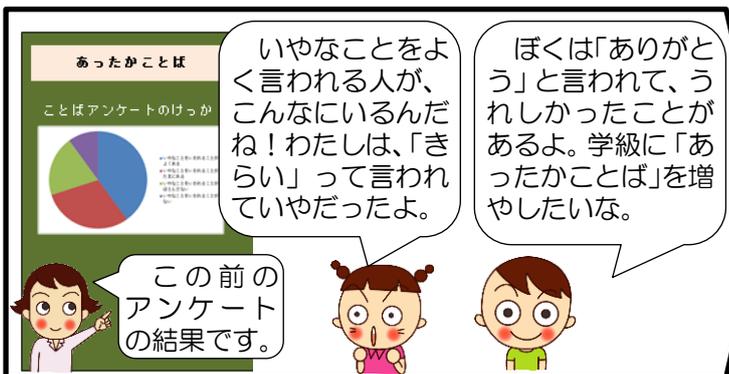
③ 友だちに言われた「あったかことば」を教えてください。



グラフの回答それぞれの割合とともに、どのような具体的意見があったか示す工夫も考えられます。また、内容や実態によっては、グラフは割合ではなく人数で作成したり、棒グラフにして提示したりすることが考えられます。高学年では、子どもと一緒に資料作成するのもよいでしょう。

2 「自分ごと」としてとらえる話し合い
 提示された資料を基に子どもが話し合い、課題を「自分ごと」としてとらえられるようにします。

教師が提示した資料を基にして話し合います。アンケートの結果や映像、手紙などの提示された資料から題材についての学級の実態、それについての思いや考えについて話し合い、生活上の問題や、やがて起こりうる課題をつかめるようにします。



学級活動(2)で話し合おう

つかむ

さぐる

見つける

決める

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート 15 実践！子どもが課題をつかめる
ようにしよう

学級の子どもたちのことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

問題意識を高める資料の提示

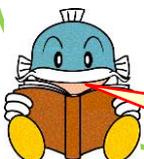
子ども一人ひとりが自分の問題としてとらえられるように資料を提示します。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

「自分ごと」としてとらえる話し合い

提示された資料を基に子どもが話し合い、課題を「自分ごと」としてとらえられるようにします。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級活動(2)で話し合おう			
つかむ	さぐる	見つける	決める

チャレンジシート 15 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 15 実践！子どもが課題をつかめるようにしよう

1 問題意識を高める資料の提示
子ども一人ひとりが自分の問題としてとらえられるように資料を提示します。

「自分で学ぶ自主学习」
 ・アンケート結果は、見やすくなるように、棒グラフでまとめる！
 ・グラフのまとめ方については、先輩の先生に聞いてみよう。

先輩の先生から、「棒グラフでまとめるのがいいだろう」と言ってもらえた。

先輩から教えてもらったポイント
 ・棒グラフは、明るめのものにする。
 ・区切りのめもりを見やすくしておく。
 ・グラフ提示の順番をあらかじめ考えておく。

提示したグラフは、割合で示したけど、人数で示した方が、うちの学級の子どもたちには分かりやすかったかもしれない。
 何人かにインタビューして、具体的な声も示せるともっと問題意識を高めることができたかな。

2 「自分ごと」としてとらえる話し合い
提示された資料を基に子どもが話し合い、課題を「自分ごと」としてとらえられるようにします。

「自分で学ぶ自主学习」
 ・アンケート結果についてどう思ったかを子どもに聞こう。
 ・アンケートを見て、「自主学习していない」と回答したのは誰だ、みたいな流れにならないように気を付ける。
 ・自主学习に取り組むと、どのような気持ちになるか、子どもの思いを引き出す発問をしよう。

Cさん→思っていたより、自主学习で取り組めることはたくさんあるのだと思った。みんなの意見を聞いて、学校で習ったことの復習だけが自主学习ではないということが分かった。
 Dさん→家に帰ってから何かと忙しいから、自主学习をする時間がない。

あらかじめアンケートを提示してからの流れを考えておいたから、話し合いが盛り上がり、自然と目標を考える流れになった。事前に流れをイメージしておくのは大切だな。

近江発！先輩の声 12 実践！子どもが課題をつかめるようにしよう

学級の理想的な姿を100点満点として考えたとき、「現在の学級は80点」という意見が出てきたとします。みなさんは、どのように考えますか。私たちは、どうしても「なぜ20点足りなかったのか」「足りない20点分は何なのか」という、減点部分のことを考えがちです。

子どもたちと学級の課題を考えると、減点部分だけがクローズアップされると、満たされない悲しい思いを抱く子どもも少なくないと思います。まず、加点部分(ここでは80点分)に焦点を当て、その部分をみんなで認め合い、さらによくするための20点分と考えるだけでも、子どもたちの課題に対するとらえ方も大きく変わるのではないかと思います。

(小学校教員・初任者研修指導員)



イ 問題の原因について話し合い、子どもが問題の改善の必要性を感じられるようにしよう

「つかむ」ステップで子どもの問題意識を高め、自分の課題として受け止められるようにしたら、次は「さぐる」ステップです。このステップでは、問題の原因について話し合いながら追求することで、解決への意識を高めていきます。

具体的には、自分の考えを書くなどしてまとめてから、問題について話し合ったり、問題を具体化した場面を設定し、そこで動作化や試行をして気付いたことを出し合ったりします。このような活動を通して、子どもが共に原因を考えられるようにします。教師は、子どもが考えた原因を整理して板書しながらまとめていきます。

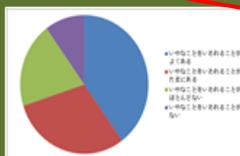
学級活動(2)の時間の話合いのステップ



問題の原因について話し合い、子どもが問題の改善の必要性を感じられるようにしよう(「さぐる」ステップ)

日常生活を振り返る

原因追求する話し合い

あったかことば	どうしていやなことばをいってしまうのだろう。	あったかことばできょうしつをいっぱいしよう
<p>ことはアンケートのけっか</p>  <p>いわれがうれしかったあったかことば ありがとう かんはあったわ いわれていやだったことば きらい あっち行って</p> <p>あったかことばをかけられると、うれしくなるね。</p>	<p>いやなことがあったから ・いやなことばをいわれたから いいかえした ・はらが立ったから ・うまくいかないことがあったから ・あい手がわるいとおもうから ・ついついってしまう</p> <p>→ じぶんがいわれていやなことばは、あい手もいやなのはわかっているのに、カッとなったりしてしまう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あい手のきもちをかながえるようにする ・カッしないようにする ・友だちのよいところを見つける ・いやなことばをいいかえさないで、「やめて」という ・友だちといっぱいあそぶ ・毎日あったかことばをいう <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">じぶんがかんばることをきめよう</p>

五月二十五日(木)

＜「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成26年、国立教育政策研究所)の板書の計画例をもとに作成＞



実践！問題の原因について話し合い、子どもが問題の改善の必要性を感じられるようにしましょう

1 日常生活を振り返る
日常生活を振り返り、問題の原因について話し合います。

「さぐる」ステップでは、子どもがより強く課題を意識し改善の必要性を感じられるように話し合いを進めます。そのためには、学級活動(2)で取り上げようとしている問題が、自分の日常生活の中に存在していることを、子どもが自覚できるようにしなければなりません。そして、それらを自分の課題として意識し改善の必要性を感じられるようにしていきます。取り上げようとする題材や学級の実態に合わせて、下記のような活動を取り入れて工夫していきましょう。

問い方の工夫

・日常生活を振り返る場合、題材や学級の実態に合わせて、問い方を工夫する必要があります。

書く活動

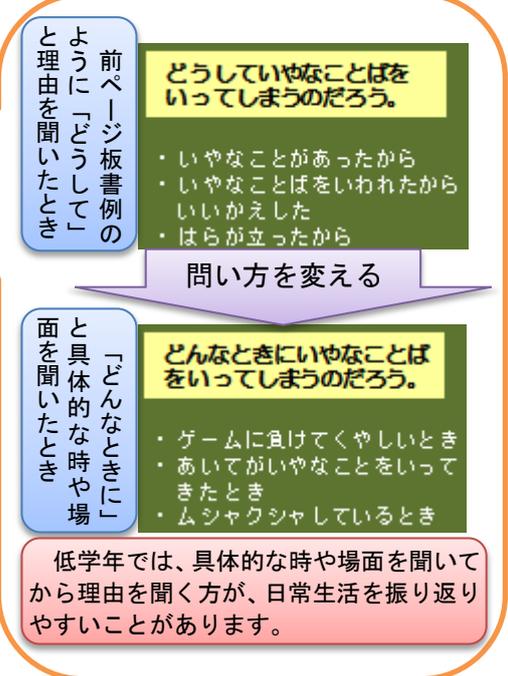
- ・場合によっては、話し合いに入る前に書く活動を取り入れることもできます。
- ・書く活動によって、全員に日常生活について振り返る機会を保障できます。また、書いている様子を見て、意図的指名をして発表させることもできます。

動作化や試行

- ・題材や学級の実態に合わせて、実際に行動してみたり、試しにしてみたりすることで、無意識にしまっていることに気付いたり、解決の糸口を見つけたりすることもあります(断る・注意する・借る・頼む・誘うなど)。その際、課題となる行動を特定の子にさせないようにするなど、人権的な配慮が必要です。

話し合う場の工夫

- ・全体で話し合うだけでなく、発言の機会を増やすために、小グループの話し合いを取り入れることも考えられます。



2 原因追求する話し合い
日常生活を振り返って出された意見を基に話し合い、原因追求をします。

教師が提示した資料を基にして話し合います。アンケートの結果や映像、手紙などの提示された資料から題材についての学級の実態、それについての思いや考えについて話し合い、生活上の問題や、やがて起こりうる問題をつかめるようにします。



学級活動(2)で話し合おう

つかむ

さぐる

見つける

決める

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート 16 実践！問題の原因について話し合
い、子どもが問題の改善の必要性を感じられるようにしよう

学級の子どもた
ちのことを思い描
きながら書き込ん
でみましょう。

1

日常生活を振り返る

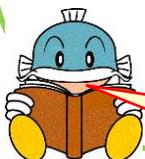
日常生活を振り返り、問題の原因について話し合います。

先輩の先生がど
んな実践をしてお
られるか聞くと、
よいアイデアが
生まれますよ。

2

原因追求する話し合い

日常生活を振り返って出された意見を基に話し合い、原因追求をします。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったこと
などを書き加えるといいですよ。

学級活動(2)で話し合おう			
つかむ	さぐる	見つける	決める

チャレンジシート 16 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 16 実践！問題の原因について話し合い、子どもが問題の改善の必要性を感じられるようにしましょう

1 日常生活を振り返る
日常生活を振り返り、問題の原因について話し合います。

「自分で学ぶ自主学習」
子どものアンケート結果をもとに、家庭で自主学習ができていなかったり、できにくかったりする原因について、日常生活を振り返ってもらおう。
自分の日常生活をじっくり振り返れるように、書く活動を取り入れよう。

Dさん→どんなことを自主学習で取り組んだらよいか分からなかった。
Eさん→学校から帰って少しゆっくりしていたら、すぐに寝る時間になる。

日常生活を振り返ることから、問題の原因が見えてきた。どのようなことを問題にしていくかを、教師があらかじめ考えておくことは大切だ！

2 原因追求する話し合い
日常生活を振り返って出された意見を基に話し合い、原因追求をします。

子どもの意見の集約
・自主学習に取り組む内容について
・自主学習に取り組む時間、計画について

子どもから出てきた意見を、メモをして集約しながら聞くことで、話し合いをスムーズに進めることができた。出てきた意見をバラバラにとらえるのではなく、どのような視点から出された意見か考えながら聞くことが大切だと思った。
そのことで、子どもにとって、問題の原因が見えやすくなったように思う！

近江発！先輩の声 13 実践！問題の原因について話し合い、子どもが問題の改善の必要性を感じられるようにしましょう

あるとき、私の学級では、学校の年間指導計画に基づいて掃除の仕方について話し合いました。

学級の子どもが担当する場所の掃除後の様子を学級全体で見に行くと、掃除が十分でない場所があることが分かりました。教室に戻った後、小グループでその原因について話し合いました。その結果、担当する場所の掃除を任されているという責任感が弱いのではないか、という意見が出されました。このような状態を改善する必要があるということ、この問題は学級全員に関わりがあるということを全体で確認しました。このように、題材に合わせて具体的に日常生活を振り返って原因について話し合うことが、その後の実践に向けた子どもの意欲を高めるのに有効でした。

アンケート等、統計をとって提示した場合、学級全体と自分を比べたり、理想の数値がある場合はそれと比べたりするのも、一つの方法です。

(小学校教員・初任者研修指導員)

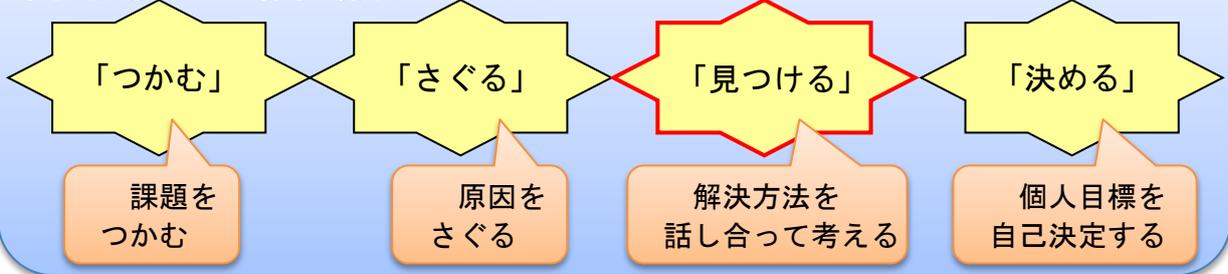


ウ 子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしよう

「さぐる」ステップで、問題の原因について話し合いながら追求し、解決への意識を高めたら、次は「見つける」ステップです。このステップでは、解決方法を話し合って考え、子どもが自分に合った解決方法を見つけることで、次の「決める」ステップでの自己決定につなげていきます。

具体的には、解決方法を出し合う話し合いの中で、個々の子どもの生活経験や発想の違いを生かした様々な意見を出し合い、多様な視点で考えられるようにします。教師はそれらの意見を、視点ごとに分類・整理したり、解決方法を考える上で必要な情報を提供したりして、子どもの話し合いを支えます。

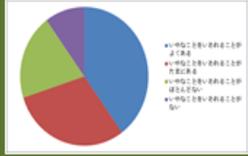
学級活動(2)の時間の話し合いのステップ



子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしよう(「見つける」ステップ)

多様な視点で解決方法を出し合う

「決める」につながる話し合い

<p style="text-align: center;">あったかことば</p> <p style="text-align: center;">ことばアンケートのひっか</p>  <p style="font-size: small;"> ● 中級2年男子・中級2年女子 ● 中級3年男子・中級3年女子 ● 中級4年男子・中級4年女子 ● 中級5年男子・中級5年女子 </p> <p style="font-size: small;"> いわれてうれしかったあったかことば ありがとう がんばったね いわれていやだったことば きらい あっち行って </p> <p style="font-size: small;"> あったかことばをかけられると、うれしくなるね。 </p>	<p style="text-align: center;">どうしていやなことばをいってしまうのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いやなことがあったから ・いやなことばをいわれたから ・いいかえした ・はらが立ったから ・うまくいかないことがあったから ・あい手がわるいとおもうから ・ついついってしまう <p style="font-size: small;"> →じぶんがいわれていやなことばは、あい手もいやなのはわかっているのに、カッとなったりしてしまう。 </p>	<p style="text-align: center;">あったかことばできょうしつをいっぱいにして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あい手のきもちをかながえるようにする ・カッとしないようにする ・友だちのよいところを見つける ・いやなことばをいいかえさないで、「やめて」という ・友だちといっぱいあそぶ ・毎日あったかことばをいう <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">じぶんがかんばることをきめよう</p>
--	--	---

＜「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成26年、国立教育政策研究所)の板書の計画例をもとに作成＞



実践！子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしよう

1 多様な視点で解決方法を出し合う
生活経験や発想の違いを生かした様々な意見を出し合います。

「見つける」ステップでは、まず子どもが自分の生活経験や考えに基づいて考えた解決方法を出し合います。子どもの生活経験や考えは、それぞれ違います。それらに基づいた解決方法を出し合うことで、子どもは自分とは違った解決方法があることに気付くことができます。題材や学級の実態に合わせて、全体で話し合ったり、グループで話し合ったりするなど、話し合いの場を工夫して行いましょう。

全体で話し合う

- ・ いろんな立場からの意見に触れ、子どもは様々な解決方法があることに気付くことができます。

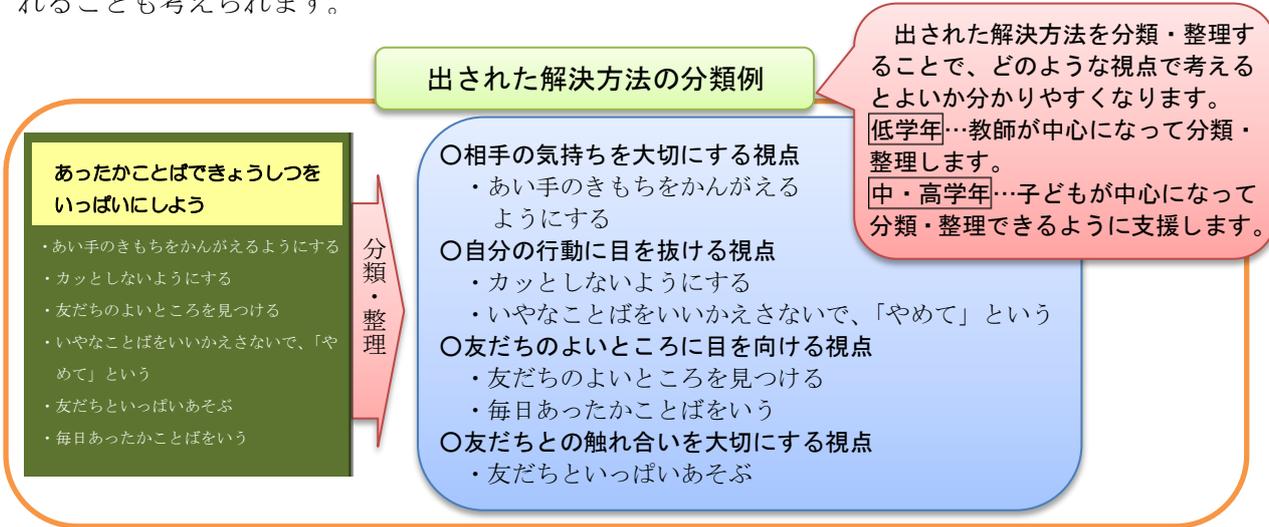
グループで話し合う

- ・ 発言の機会を増やすことができます。また、それぞれの発言に対してお互いに意見を述べることで、子どもの考えが深まることが期待できます。
- ・ グループで話し合った後に、各グループで出された意見を全体で交流することもできます。



2 「決める」につながる話し合い
出された様々な意見を基に、子どもが自分に合った解決方法を考えます。

子どもから出された多様な解決方法を視点ごとに分類・整理して、子どもが自分に合った解決方法を考えやすくなるようにします。そのとき、必要に応じて助言や情報提供をしていきましょう。題材によって、養護教諭や栄養教諭、司書教諭などから話を聞く活動を取り入れることも考えられます。



学級活動(2)で話し合おう

つかむ

さぐる

見つける

決める

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート17 実践！子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしましょう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

多様な視点で解決方法を出し合う

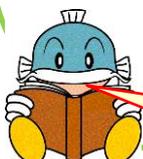
生活経験や発想の違いを生かした様々な意見を出し合います。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

「決める」につながる話し合い

出された様々な意見を基に、子どもが自分に合った解決方法を考えます。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

学級活動(2)で話し合おう			
つかむ	さぐる	見つける	決める

チャレンジシート 17 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 17 実践！子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしましょう

1 多様な視点で解決方法を出し合う
生活経験や発想の違いを生かした様々な意見を出し合います。

「自分で学ぶ自主学習」アンケートの結果を見てみると、「何に取り組んだらよいか分からない」「なかなか時間がとれない」のような視点からの解決方法が出てくるかな。これらの視点ごとにグループで話し合うようにしましょう。そして、グループで出た意見を全体で交流するようにしよう。

- 「何に取り組んだらよいか分からない」グループ
- ・復習するイメージだったので、復習以外にどんな自主学習ができるのか、自分で書き出す。
 - ・いざやろうとなったときに、何をしたらいいか分からない、ということがないように、計画を立てておく。
- 「なかなか時間がとれない」グループ
- ・なぜ時間がないのか、もう一度自分の生活を見直してみる。
 - ・自主学習の時間がとれるように、計画を立てる。

グループで話し合うことで、自分の生活の問題に合った話し合いをすることができた。子どもは、共通した意識を持って、グループで話し合うことができた。今日のグループ交流は少し人数が多かった。もう少し減らした方が、一人ひとりが話す時間が増えるので、次はそうしたい。

2 「決める」につながる話し合い
出された様々な意見を基に、子どもが自分に合った解決方法を考えます。

- 全体で出された意見
- 「何に取り組んだらよいか分からない」グループ
 - ・復習するイメージだったので、復習以外にどんな自主学習ができるのか、自分で書き出す。
 - ・いざやろうとなったときに、何をしたらいいか分からない、ということがないように、計画を立てておく。
 - 「なかなか時間がとれない」グループ
 - ・なぜ時間がないのか、もう一度自分の生活を見直してみる。
 - ・自主学習の時間がとれるように、計画を立てる。

- ・自分は、どんな自主学習ができるか考える視点
- ・計画を立てる視点
- ・生活を見直す視点

それぞれのグループから出された意見で、「計画を立てる」ということが共通していた。全体で話し合うと、それぞれの共通するところが出てきた。整理することで、子どもが自分に合った解決方法が考えやすくなった！次からも、出した考えは分類・整理するようにしよう。

近江弁！先輩の声 14 実践！子どもが問題の解決方法を話し合えるようにしましょう

グループで話し合いをさせるときの人数について考えたことはありますか。学級活動に限らず、グループで話し合いをさせるときには、その人数に気をつける必要があります。

一般的に、低学年の場合はペア、高学年では4人グループをベースに話し合いを実践しておられる先生が多いように感じます。もちろん、子どもの話し合いの経験の程度によって異なるので、自分の学級の子どもの実態に合わせて行うことが大切です。子どもの発達や実態に合った人数になっていないと、話し合いに参加できない子どもが出たり、話し合いに深まりが生まれなかったりしてしまいます。生活班で話し合わせる機会が多い場合は、班の構成人数にも配慮が必要ですね。

(小学校教員・初任者研修指導員)

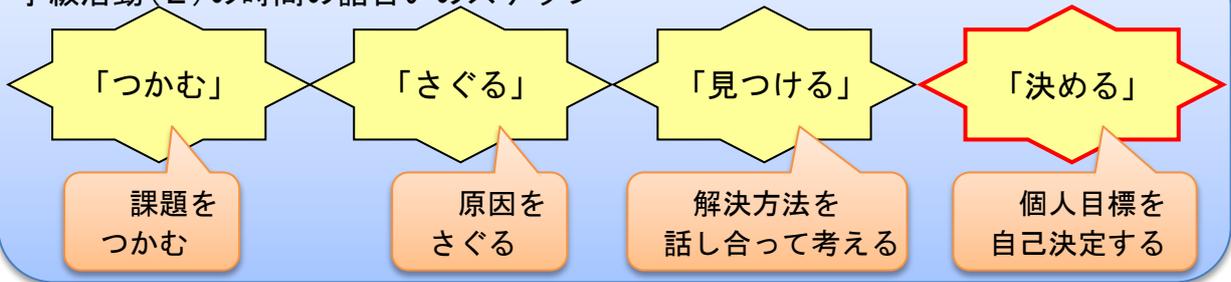


エ 話し合って見つけた解決方法に沿って、子どもが個人目標を決められるようにしましょう

「見つける」ステップで解決方法を話し合って考え、子どもが自分に合った解決方法を見つけられたら、次は「決める」ステップです。このステップでは、見つけた解決方法に沿って、具体的な個人目標を自己決定します。

具体的には、「見つける」ステップで見つけた自分の課題や原因に合った解決方法に沿って、個人目標を自分で決められるようにします。個人目標は、「個人目標カード」に記入して、決めたことを取り組んでいくときに自己評価し、成果を実感しやすくなるようにします。「個人目標カード」に書いたことを友だちと見せ合ったり、全体の場で発表して交流し合ったりすることで、実践への意欲を高め、個人目標を見直してよりよいものにしていきます。

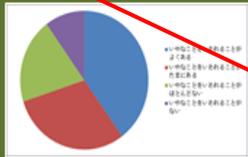
学級活動(2)の時間の話し合いのステップ



話し合って見つけた解決方法に沿って、子どもが個人目標を決められるようにしましょう（「決める」ステップ）

個人目標を自分で決める

個人目標を交流する

<p style="text-align: center;">あったかことば</p> <p>ことばアンケートのけっか</p>  <p>いわれてうれしかったあったかことば ありがとう がんばったね いわれていやだったことば きらい あっち行って</p> <p style="text-align: center;">あったかことばをかけられると、うれしくなるね。</p>	<p style="text-align: center;">どうしていやなことばをいってしまうのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いやなことがあったから ・いやなことばをいわれたから ・いいかえした ・はらが立ったから ・うまくいかないことがあったから ・あい手がわるいとおもうから ・ついついってしまう <p>—じぶんがいわれていやなことば、あい手もいやなのはわかっているのに、カッとなったらいってしまう。</p>	<p style="text-align: center;">あったかことばできょうしつをいっぱいしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あい手のきもちをかながえるようにする ・カッしないようにする ・友だちのよいところを見つける ・いやなことばをいいかえさないで、「やめて」という ・友だちといっぱいあそぶ ・毎日あったかことばをいう
---	--	--

五月二十五日(木)

じぶんがかんばることをきめよう

＜「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」（平成26年、国立教育政策研究所）の板書の計画例をもとに作成＞



実践！話し合って見つけた解決方法に沿って、子どもが個人目標を決められるようにしましょう

1 個人目標を自分で決める
自分の課題や原因に合った解決方法に沿って、個人目標を自己決定します。

「見つける」ステップで見つけた解決方法を具体化し、実際に取り組めるように個人目標を子ども自身が自分で決めます。「いつ、どんなふうに」「1日何回」など、具体的な行動目標を明らかにして「個人目標カード」に書いておくことで、実践しやすくなります。

「個人目標カード」の例

「いつ、どんなふうに、どんなことを」を明確にして、具体的な行動目標を書けるようにします。

学きゆう活どう 「あったかことば」 がんばるぞカード

3年 組 ()

★わたし・ぼくがきめた目ひょうは、これだ！！（数字を入れて書こう）

(いつ)

(どんなふうに、どんなことをする)

自分が努力したらできる目標を設定

★自分の行どうをふりかえろう（できたら色をぬりましょう）

がんばるぞ週間！

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
☆	☆	☆	☆	☆

★「がんばるぞ週間」がおわったら、自分の行どうをふりかえり、自分ががんばれたところや、よくなったところを書こう

★先生より

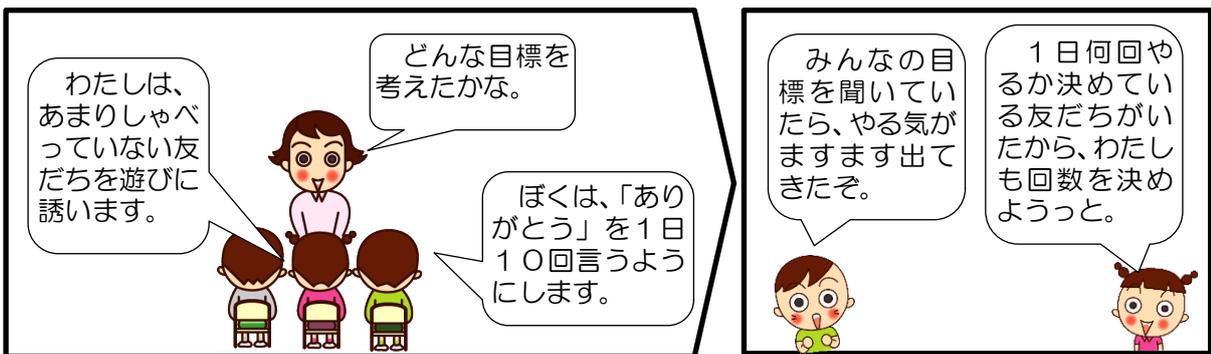
数字を入れると、行動目標が明確になります。

取り組み期間（1、2週間程度）を設定します。

実践したことを振り返れるようにします。

2 個人目標を交流する
個人目標を交流し、実践への意欲を高めたり、自分の目標を見直したりします。

子どもが自分の課題や原因に合った個人目標を交流することで、「あの子は、こんなことに取り組むのか」「自分も目標に向かってがんばろう」といった思いを持たせ、実践への意欲を高めることができます。また考えを伝え合う中で、自分の個人目標を見つめ直し、より自分に合った個人目標にすることができます。なお、自分に合わない目標にしている子どもには、「見つける」ステップに出ていた考えを参考に、自分にできそうなことを選ぶように助言しましょう。



学級活動(2)で話し合おう

つかむ

さぐる

見つける

決める

つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート18 実践！話し合っ
て見つけた解決方法に沿って、
子どもが個人目標を決められる
ようにしよう

学級の子どもたちのことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

個人目標を自分で決める

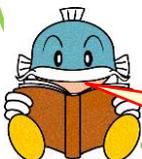
自分の課題や原因に合った解決方法に沿って、個人目標を自己決定します。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

個人目標を交流する

個人目標を交流し、実践への意欲を高めたり、自分の目標を見直したりします。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

自分が決めた目標実現に向けて取り組めるようにしよう



(4) 事後指導！子どもが自分の目標を実現できるように支援しよう

学級活動(2)の話合いを通して、子ども一人ひとりが個人目標を自分で決めることができたら、いよいよ実践です。自分の課題や原因に合った個人目標の実現に向けて、子どもが取り組みます。目標実現への取組を通して、子どもが「自分もやればできる」という自己効力感を持てるように、支援していきましょう。「自分もやればできる」を積み重ねることが、自己指導能力を高めるのにつながります。

子どもが「自分もやればできる」と思えるようにするためには、まずは子ども自身が自分の取組を振り返ることが大切です。そのことで、目標に対する自分の様子をとらえることができます。「今日はがんばれたから、明日もがんばろう」「今日はいまうまくいかなかったから、明日こそはがんばろう」と、振り返る活動を取り入れて実践意欲が継続するようにします。

また、教師から励ましの言葉をかけてもらうことで、子どもの実践意欲は高まります。取り組んでいる様子や振り返りの活動の中で、子どもが目標実現に向けて努力していることをほめるようにしましょう。たとえ目標が未達成であっても、努力しているところに焦点をあててほめることで、「努力することは大切」というメッセージが子どもに伝わります。

子どもが自分の目標を実現できるようにするための指導の流れ

子ども自身による振り返り

教師による励まし、評価

個人で振り返る

みんなで振り返る

「努力することは大切」というメッセージを伝える

実践！子どもが自分の目標を実現できるように支援しよう

1

子ども自身による振り返り

「個人目標カード」を活用して、取組を振り返ります。

「個人目標カード」を活用して、子どもが自分の目標を常に意識して行動できるように支援します。目標実現に向けた自分の努力の様子が分かるように振り返りを行うことで、実践意欲を高めます。

「個人目標カード」の記入例

取り組み期間が終わったら、自分ががんばれたことを中心に振り返ります。

学びゆう活どう 「あったかことば」 がんばるぞカード
3年 組 ()

★わたし・ぼくがきめた目ひょうは、これだ!! (数字を入れて書こう)

(いつ)
友だちがほくにやさしくしてくれたときや、うれしくなることをいってくれたとき
(どんなふうに、どんなことをする)
すぐに「ありがとう」といいたい。一日10回いう。友だちにほくの気持ちがつたわるように、大きなこえていう。

★自分の行どうをふりかえろう (できたら色をぬりましょう)

がんばるぞ週間!				
5月26日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日
★	☆	☆	★	☆

★「がんばるぞ週間」がおわったら、自分の行どうをふりかえり、自分ががんばれたところや、よくなってきたところを書こう

はじめの日は、たくさん友だちが「いっしょにあそぼう」とさそってくれたり、ほくがおとしたけしこみをおろってくれたのしたときに、大きなこえて「ありがとう」がいえだ。ほかの日も「ありがとう」はいえただけど、10回はいえなかった。できない日はあったけど、「ありがとう」がまえよりいっほいいえるようになった。目ひょうをたててがんばられて、よかった。

★先生より

まえよりもたくさん「ありがとう」がいえるようになりましたね。☆がぬれなかった日もあったけど、目ひょうにむけてがんばっているところが、とてもすばしかったです。みんなが「ありがとう」のよう「あったかことば」をたくさんつかうようにして、あったか3年組にしていきましょう!

取り組み期間中、目標実現に向けた行動をできるだけ毎日振り返り、努力の成果を記録します。

子どもの努力しているところに焦点をあててコメントします。

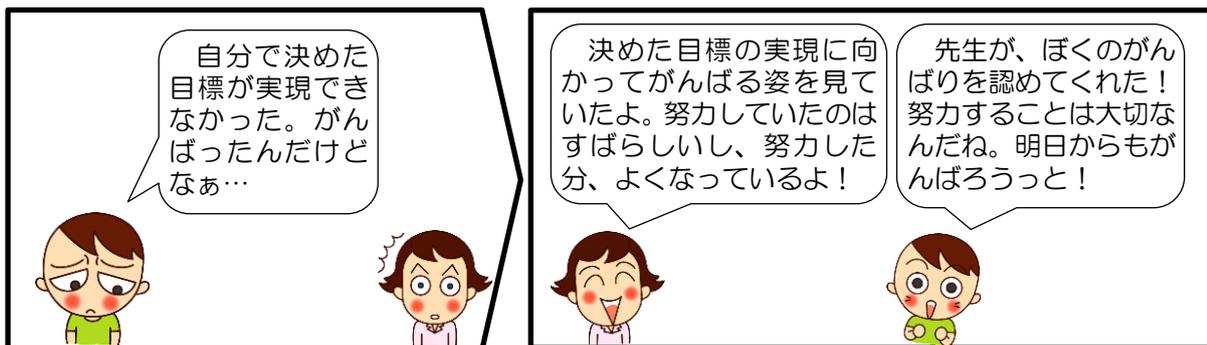
個人の振り返りの後、帰りの会などの時間に、学級のみんなで振り返りの話し合いをしましょう。それぞれの努力を互いに認め合うことで、「引き続き取り組もう」という意欲の向上、共感的な人間関係づくりにつなげることができます。

2

教師による励まし、評価

「努力することは大切」というメッセージを伝え、自己指導能力を育てます。

実践状況に応じて、個別に励ましや賞賛、アドバイスなどをしていきます。子どもによっては、目標が実現できなかった、ということもあるでしょう。そういった場合でも、「努力したからよりよい方向に向かっている」などと、目標に向かって努力することに重きを置いた関わりをして、「努力することは大切」というメッセージを子どもに伝えていきましょう。



つくろう！
自分だけの一冊

チャレンジシート 19 実践！子どもが自分の目標を実現できるように支援しよう

学級の子どものことを思い描きながら書き込んでみましょう。

1

子ども自身による振り返り

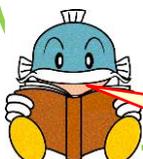
「個人目標カード」を活用して、取組を振り返ります。

先輩の先生がどんな実践をしておられるか聞くと、よいアイデアが生まれますよ。

2

教師による励まし、評価

「努力することは大切」というメッセージを伝え、自己指導能力を育てます。



実践した後、やってみて分かったことや、次回にやってみようと思ったことなどを書き加えるといいですよ。

チャレンジシート 19 記入例 (黒字は事前、赤字は時間中、青字は事後)

チャレンジシート 19 実践！子どもが自分の目標を実現できるように支援しよう

1 子ども自身による振り返り

「個人目標カード」を活用して、取組を振り返ります。

「自分で学ぶ自主学習」
 ・取り組む期間は休みが多い。子どもに声をかけながら振り返りをするのを大切にしたいので、休み明けに何日か分ずつ振り返りをしよう。
 ・「いつ・どんなふうに・どんなことをする」を、毎回確認してから振り返りをするように、声をかけよう。
 ・5月10日の帰りの会で、振り返りの話し合いをしよう。子どもが自信を持って発表できるように、努力しているところに線を引いたり、励ましのコメントを書き入れたりしよう。

全体での振り返りでは、一人ひとりがどのような目標を立てて、どのように取り組んだかが交流できた。
 Cさんの振り返りでは、Cさんのがんばりに対する温かい言葉が、他の子どもからたくさん出た。Cさんは、引き続き取り組む意欲がわいてきたようだった。
 振り返りに対する感想を他の子どもが述べる活動は、子どものやる気を引き出すこと、努力を互いに認め合える学級づくりにとても有効だった！

2 教師による励まし、評価

「努力することは大切」というメッセージを伝え、自己指導能力を育てます。

「自分で学ぶ自主学習」
 ・目標に対する子どものがんばりを認めていこう！
 ・個人目標カードには、子どもの振り返りに対するコメントだけでなく、子どもの自主学習ノートを見て感じた子どものがんばりも認めていけるようにしよう。
 ・休み時間や給食の時間に子どもと話をするときにも、自主学習のことを少し話題にしてみよう。

子どものノートメモ
 Cさん→毎週、どんなことに取り組むのかを計画している。
 Dさん→復習だけでなく、自分が興味を持っている星空について調べ学習をし始めた。
 Eさん→自分の生活を見直し、夕食の前に少し取り組む時間がとれることを発見している。そして、その時間に自主学習している。
 子どもの自主学習ノートをチェックしておいたので、具体的に子どもの努力を認めることができた！

近江発！先輩の声 16 実践！子どもが自分の目標を実現できるように支援しよう

みなさんの学級は、「学級目標は決めただけ、そういえば意識したことがない…」なんてことはありませんか。私の学級では、学級目標を基にして一人ひとりの子どもが決めた自己目標について、定期的に振り返る機会を設けていました。自分のことを見つめ直せるように、個人目標は具体的なものにしておくとよいでしょう(学級目標「友だちを大切にできる学級」→個人目標「困っている人を見かけたら、必ず声をかける」など)。振り返りをしたときの子ども自身の様子を踏まえ、必要に応じて今後の個人目標を考え直せるように支援していました。子ども同士が交流し、互いのがんばりを認め合う場を設けると、互いに励まし合って学級目標の実現に向けて取り組もうとする、温かい雰囲気が生まれました。

学級目標は、「こんな学級にしたい！」という子どもの思いが表れています。1年間、この思いを大切に学級経営していきたいですね。

(小学校教員・初任者研修指導員)

ここまで、学級活動(2)で子どもが自らの努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるように実践してきました。学級の子どもたちのことを思い描いて、具体的な取組を考えてこられたと思います。その中で目や耳にした先輩の先生の取組や話を自分でまとめておくと、今後の実践に必ず役立ちます。聞いた話をまとめたり、先輩の先生が実践されたときのグッズやワークシートなどを写真や絵などにして記録したりしておきましょう。きっとあなたの財産になりますよ！

つくろう！
自分の財産

学級活動(2)の実践での
先輩の先生の取組や話をまとめておこう

聞いた話を自分で
まとめて！

絵や写真などで
記録して！



～あとがきにかえて～

(先輩教員からのメッセージ)



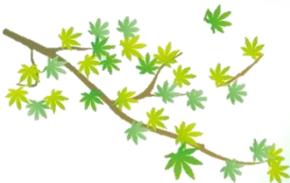
どんな職業でも、はじめはたいへんといわれます。ただ、教師の場合は最初から担任をうけもつなど、いきなりベテランの先輩と同じ役割を担うのが特徴で、よりハードルが高いといえます。

だから、「強い責任をもって臨むべき」というつもりはありません。むしろ、「できなくてあたりまえ」と考えたほうがよいと思います。できないこと、分からないことをはずかしく思う必要はありません。そうしたときは、ぜひほかの先生に甘えてください。ときには、保護者の方や子どもたちにも、甘えてほしいと思います。いろんな方々の力をかりながら、少しずつ大きくなっていくのが、教師の望ましい成長の姿なのですから。

また、現代の学校や教師は、難しい問題をたくさん抱えています。はじめのうちは、すぐに使えるマニュアルのようなものにも、頼りたくなるかもしれません。でも、すぐに役立つものがすぐに役に立たなくなるのが、現代という時代です。だからこそ、自分の核になるものを、ゆっくりとつくりあげてほしいと思います。それが、後々に教師としてのスケールの大きさとなって、はねかえってくるはずです。

みなさんのご活躍とご成長を、心より祈念しています。

(大学 教育学部 准教授)



『教師とは教師になりゆく者である』

言い足しますと、昨日より今日、今日より明日、明日より明後日、一日一日、その前の日より少しましな教師なるよう努力する過程が、教師になりゆく道なのです。

そして、教職にある限り、その心構えで一日一日努力を重ね、明日はいよいよ定年(近いので…)であるという夜に、自分のそれまでの年月を振り返って「どうやら教師になれたかな」と自分の中のもう一人の自分に向かって言えばそれでよいのかなと思っています。失敗を恐れず、授業のために常に十分な準備をしてチャレンジしてください。

(小学校長)



学級経営を行う上では、子どもたちに考え取り組ませるより、教員がこなしてしまう方が早く楽に正確にできるかもしれません。でも、これから急激に変化する社会を生き抜く子どもたちに、今どんな力を付けることが必要なのかを考えてみましょう。教員のための教員による活動をするのではなく、教員は子どもたちを信じて任せ、やり切ったことや頑張ったことを認め価値付ける引き出し役に徹することが大切です。

子どもたちがさまざまな苦労や喜びなどを分かち合いながら目標に向かって信頼し支え合って自分たちで取り組み、教員はそれを見守る、そんな学級経営を目指しましょう。

(滋賀県教育委員会事務局 学校教育課 指導主事)



「子どもって、本当にすごい！」

今まで、心の中で何度つぶやいたことでしょうか。大人の私が逃げ出したくなるようなことにも真摯に向き合う姿、友だちに対する心からの優しい言葉や行動…それらを目にするたびに、子どもたちの圧倒的なパワーにはっと気づかされ、驚き、感動してきました。

『人を育てる』とは、とても難しく、厳しいものです。責任を伴います。しかし、これほどやりがいのある仕事に就けた先生方は幸せです。子どもたちとともに、心がふるえるような体験をぜひつくり上げていってください。

(小学校教員)



子どもたちのことが大好きだと、どうしても、あれこれ手助けしてあげたくなります。それによって、子どもたちに笑顔が生まれると、さらに何かしてあげられないかと考えてしまいます。先生方も、そうではないでしょうか。

でも、子どもたちには、「自分たちの力」でやり遂げたり、創意工夫したりする経験が必要です。そのためには、辛抱強く見守りながら、子どもたちを支援していくことが重要です。

大変なこともあるかもしれませんが、でも、子どもたちが成長していく姿を考えると、ワクワクしてきませんか？先生方にも、そのワクワクを体験してほしいと思います。きっと、子どもたちからも何か思いがけないことが返ってきますよ！

(小学校教員)



～資料～

1 アンケート調査について

- (1) 平成 26 年度教職 2 年次研修 受講者 148 名対象、滋賀県総合教育センター研修会場にて
実施日：第 1 回・平成 26 年 4 月 18 日、第 2 回・平成 26 年 8 月 11 日
- (2) 平成 26 年度初任者研修 受講者 149 名対象、滋賀県総合教育センター研修会場にて
実施日：第 1 回・平成 26 年 5 月 20 日・22 日、第 2 回・平成 26 年 8 月 8 日
- (3) 平成 27 年度教職 2 年次研修 受講者 140 名対象、滋賀県総合教育センター研修会場にて
実施日：第 1 回・平成 27 年 6 月 16 日

2 参考文献と資料

- ・『学級経営 重要用語 300 の基礎知識』、明治図書出版、平成 12 年(2000 年) 6 月、高旗正人(編集)
- ・『第 2 期教育振興基本計画』、平成 25 年(2013 年) 6 月閣議決定
- ・『平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書(質問紙調査)』、平成 26 年(2014 年) 8 月、文部科学省、国立教育政策研究所
- ・『小学校学習指導要領』、平成 20 年(2008 年) 3 月告示、文部科学省
- ・『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』、文溪堂、平成 26 年(2014 年) 8 月、国立教育政策研究所
- ・『小学校学習指導要領解説 特別活動編』、平成 20 年(2008 年) 8 月、文部科学省
- ・『生徒指導提要』、平成 22 年(2010 年) 3 月、文部科学省
- ・『集団活動や体験活動を充実させるための学級活動指導資料』、平成 27 年(2015 年)、滋賀県教育委員会
- ・『生徒指導の機能と方法』、文教書院、平成 2 年(1990 年) 9 月、坂本昇一
- ・『道徳と特別活動 6 月号』、文溪堂、平成 26 年(2014 年) 6 月
- ・『道徳と特別活動 10 月号』、文溪堂、平成 25 年(2013 年) 10 月
- ・『道徳と特別活動 9 月号』、文溪堂、平成 26 年(2014 年) 9 月
- ・『道徳と特別活動 1 月号』、文溪堂、平成 27(2015) 1 月